

同志社時報

2022.4
No.153

特別対談

■第15代同志社女子大学長就任にあたって



■同志社は隆なるに従い、機械的に流るる の恐れあり。切にこれを戒慎すべき事

越川 弘英（キリスト教文化センター教授）

新島の遺言の中の言葉である。同志社創立から足かけ一五年、すでにその時点で、新島は同志社が「機械的に流るる」予兆を感じとっていたのだろうか。それとも新島は組織というものが内包する一般的な危惧を述べているのだろうか。いずれにしても、創立一五〇年を目前に控え、現在の同志社が新島の感じた「恐れ」を今一度真摯に見つめる必要を感じている教職員や学生も少なくないのではないだろうか。とりわけこの二年間のコロナ禍のもと、ICT化の進展も相俟って、私たちは、文字通り「機械的」の中にとつぷり浸かりこんでしまった感じがする。しかし、たとえコロナ禍がなかったとしても、こうした趨勢は遅かれ早かれ避けざるところであつたらう。問題は「機械的」に浸かりこんでいる我と我が身を少なくとも自覚するかどうかということにある。自らが「機械的」であることに気づかず、他者にもそれを押しつけていることはないか。学生をIDナンバーで識別する現実の中で、オンライン上の作業が常態となる中で、たとえひとりふたりでも多く、直接無媒介に顔と顔を合わすことの掛け替えのなさを知り、人間的な暖かみのある関わりを取り戻すことの貴さを覚え、それらにこだわり、そして共有していきたいと思う。

以上、自戒の言葉であります。

『同志社創立150周年記念ロゴマークが決定』

2021年11月29日

学校法人同志社は、2025年に創立150周年を迎えます。150年の歴史と伝統、さらに200年の大計を目指す同志社の姿を広く社会に発信するため、創立150周年記念のロゴマークを公募しました。応募者337人、応募作品496件の中から、厳正な審査の結果、同志社中学校2年生の松井美野さんの作品が選ばれ、2021年11月29日に開催された創立150周年記念イベントDoshisha New Dayにおいて、ロゴマークの発表と表彰を行いました。

このロゴマークを様々な記念事業の発信にご活用ください。使用を希望される場合は、創立150周年記念事業事務局までご連絡ください。Eメール：ji-150th@mail.doshisha.ac.jp



八田総長・理事長と
ロゴマーク最優秀賞（松井美野さん）



同志社創立150周年記念ロゴマーク

『2021年度全学防災訓練の実施』

2021年10月29日

10月29日、今出川校地で全学防災訓練を実施した。新型コロナウイルス感染症の関係で規模を縮小し、自衛消防組織の訓練を主としたが、対面授業教室では災害発生時の初動訓練、全学レベルでは安否確認システムへの応答訓練も行った。

自衛消防組織の訓練では、上京消防署立ち会いの下、震度5強の地震が発生、良心館で火災を発見する想定で本部隊と当該エリアの地区隊が連携し、消防署への通報、初期消火活動等の訓練を行った。他の地区隊や自衛消防班では、各担当の防火設備や消火設備、避難誘導灯や避難器具等の状況を確認した。



『白衣授与式(ホワイトコートセレモニー)』

2021年12月16日

2022年度薬学部実務実習の開始にあたり、薬学部医療薬学科の新5年次生を対象に白衣授与式が執り行われました。式典は礼拝形式で行われ、学長の式辞のあと、薬学部長より一人ひとりに白衣が手渡されました。その後、学生代表が、約5ヶ月に及ぶ実習において、多様化している薬剤師の社会的需要に貢献できるように、知識や技能のみならず、命と健康を守る使命感、責任感、倫理観を身につけていくことを誓い、参加した123名の学生は薬剤師の卵としての自覚を新たにしました。



■ 中学校・高等学校

『オンライン学園祭』『学年別体育祭』(中学校)

2021年10月14日～15日

2021年11月10日～11日

コロナの影響により、ロームシアター京都での学園祭が今年も実施できない事が決定しました。しかし、生徒会が中心となり、検討、工夫を重ね、日程を変更し『オンライン学園祭』を開催する事になりました。今までとは全く異なるスタイルの学園祭ですが、生徒会執行委員による企画、運営により、大いに盛り上がりました。様々な社会情勢や環境の変化があっても、視点を切り替え創意工夫により乗り越えていく生徒達の姿に感動しました。体育祭も『学年別体育祭』として実施しました。密を避ける工夫として、今までにない大縄跳びなどの新種目も登場し、大いに盛り上がりました。



『「献米」運動』

2021年11月25日

2021年11月25日(木)、香里中高では恒例の「献米」を大阪市西成区の釜ヶ崎に搬入しました。本校では、失業者やホームレスにならざるを得なかった方々の食事のために、全校でお米を集めて寄付する「献米」運動を、毎年文化祭の時期に行っています。

今年も段ボール6箱のいっぱいのお米、お米券81枚、カップ麺12箱、ふりかけ100袋、敷布団3枚を合わせて現地に直接持ち込みました。生徒、ご家庭の皆様の善意がお一人お一人に届くことを祈りつつ。



『2021年度体育祭・文化祭』

2021年10月1・5日、11月12日

2021年度同志社女子中学校・高等学校の体育祭(10月5日)・文化祭(1日目 10月1日・2日目 11月12日)が行われました。コロナ禍での実施ということで、若干の規模縮小となったものの、生徒会・体育祭企画委員・文化祭企画委員が中心となって、創意工夫を凝らした素晴らしい学園祭となりました。



体育祭「大玉転がし」



体育祭「クラス対抗リレー」



文化祭「マンドリンクラブ演奏」



文化祭「放送部企画」



文化祭「巨大絵画完成披露」

『高校体育祭』

2021年10月29日



クラス対抗で、ドッジボール、学年別マスゲーム、フライシートリレー、ブロック対抗リレー、玉入れ、全員リレーを行いました。



『ハロウィン』

2021年11月15～18日



ハロウィンを体験するため、一日中学校生活を仮装で過ごし、昼休みには「ハロウィンWithマスク」の撮影会を生徒会主催で、コロナ禍のなか日程を分散して行いました。(11月15日高校3年生、16日高校2年生、17日高校1年生、18日中学生)

■小学校

『ウスビ・サコさんによる特別授業(ピースウィーク)』

2021年11月10日

京都精華大学のウスビ・サコ学長をお招きして、特別授業を実施しました。サコさんの母国、マリ共和国のことを知り、サコさんが日本に来て感じられた様々なことを通して学びを深めました。「平和というのはどういうものですか?」との問いに、「みんなが笑い合えるなかで生活できること」というサコさんのお答えを胸に、あらためて平和について考える時間となりました。



初等部：『5年生の探究学習』

2021年11月

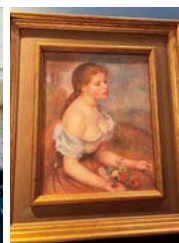
5年生のUOI（探究の単元）のテーマ“Sharing the Planet”では、SDGsの14番目“LIFE BELOW WATER（海の豊かさを守ろう）”についてグループで協力し合いながら「海洋プラスチック問題」「河川の汚染問題」などのテーマを決めて探究を進め、その成果としてプレゼンテーションを行いました。6年生の冬学期には、探究の集大成となるエキシビションを開催します。それに向けてより良い発表となるよう、今から少しずつ意識して取り組んでいます。



国際部：『The National Museum of Modern Art, Kyoto』

2021年11月4日

DISK Grade 6-11 students went to The National Museum of Modern Art, Kyoto on November 4th with Ms. March. The students were focusing on the art by Mary Cassatt. It was a retrospective exhibition that enabled the students to discuss and appreciate how the arts innovate and communicate across time and culture. Cassatt's work combined the light color palette and loose brushwork of Impressionism with compositions influenced by Japanese art as well as by European Old Masters, and she worked in a variety of media throughout her career. This versatility helped to establish her professional success at a time when very few women were regarded as serious artists.



幼稚園

『お楽しみ会』



例年夏に幼稚園でお泊り保育をしますが、コロナ禍のために実施できず、その替わりとして11月10日（水）、年長組が幼稚園でお楽しみ会を行いました。保育終了後も園に残り、園庭のかまどで焼いた焼き芋を食べたり、出し物大会をしたり、クラスのみんで夕方まで楽しい時間を過ごしました。また、お屋さんごっこでは、当日までに子どもたちが自分で作ってきた品物をお店に並べ、看板も立てて店員さんとお客さんに分かれて遊びました。「いらっしやいませ、こちらどうぞ」「メロンソーダをください」など、お互いにいろいろな言葉を交わしながら、なりきって楽しんでいました。当日に向けて、友達と力を合わせて考えたり、一緒に準備をしたり、子どもたちの世界の中で自分たちの力で創意工夫して遊びを展開していく経験となりました。

『クリスマス礼拝・祝会』



12月8日(水)に、クリスマス礼拝・祝会を京都コンサートホールにて行いました。ソーシャルディスタンスを十分に守り感染対策を取りながらも、大きなホールで全園児が演技をし、異年齢間で思いやり、力を合わせて頑張る姿を保護者の方々に見ていただくことができました。また、年長組と年中組聖歌隊によるページントを年少組が観覧し、イエス様のお誕生を保護者の方々と共に、みんなでお祝いする貴重な機会となりました。いつもとは違う環境で感染対策を取りながら行う中で難しさはありましたが、全園児が気持ちを一つにしてクリスマスをお祝いする感動や充実感を味わうことができた一日となりました。

今西将之さん



父から突然受け継いだ酒造り。地元である三輪の深掘りを続けていたら、そこに凄い歴史があり、文化があった。だから、うちの酒造りのコンセプトは「三輪を飲む」です。

同志社大学商学部卒。現 株式会社リクルート入社。中小〜一部上場大手企業まで幅広く採用戦略立案／支援に携わる。二〇〇〇名の営業マンがいる中、TOPセールスとしてMVP賞はじめ多数の賞を受賞。先代の急逝に伴い、二〇一一年十一月より家業に戻り、酒の神が鎮まる地・奈良・三輪で一九六〇年創業の造り酒屋「みむろ杉醸造元今西酒造株式会社」十四代目蔵主 代表取締役役に就任。就任後は多角経営をして経営不振であった家業の立て直しを図り、酒造業以外の事業は全て売却し、本業に集中。社員総入れ替え・積極的な設備投資・自らが酒造りを担う等々の抜本的改革を行い、酒質向上を実現させる。結果、全国新酒鑑評会五年連続金賞受賞、仙台日本酒サミット一位、関西酒質向上委員会一位等、数々のコンペティションで表彰をされ、直近五年で製造量を六倍に伸ばす。酒造りのコンセプトは「三輪を飲む」。酒の神が鎮まる地・三輪だからこそ表現出来る酒造りを行う。

沼田祥衣さん

一九九四年石川県生まれ。二〇二六年、同志社女子大学現代社会学部社会システム学科京都学・観光学コース卒業。金沢市の金箔メーカーに就職し、商品企画・新店舗プロデュースなどに従事。二〇二〇年、七尾市南大谷地区にて地域のロケーションを生かした「棟貸し施設「遊心庵」および地域ブランド「ononuma」をプロデュース。二〇二二年、七尾市の株式会社おやゆびカンパニーに入社し、現在に至る。趣味は温泉巡り。



地元・金沢に近い能登で地域振興事業に携わっています。地域の良さを無理のない形で未来に残していく仕事をして、周囲の人々が幸せになってくれたら嬉しいです。

同志社 時報

No. 153

2022.4

私
の
志
INTERVIEW

日本酒界を賑わせる14代目蔵主 今西将之さん

「正しい酒造り」を通じて酒のふるさと三輪を表現する

地域の魅力を発信 沼田祥衣さん

若い感覚で付加価値をつけて能登の魅力を広めたい。

特
別
対
談

同志社時報153号特別企画 第15代同志社女子大学長就任にあたって

小崎眞／植木朝子／中島めぐみ

レ
ク
チャ
ー

同志社大学課外プログラム
「先輩に学ぼう！SCRAPアップ加藤隆生氏オンライン講演会」

加藤 隆生

同志社
クロ
ーズ
アップ

学校法人同志社内中高職員合同web研修会を企画して

高田 幸朗

22

15

8

6

4

目 次

〈表紙〉

同志社女子大と比叡山

鎌田伸一(同志社中学校・高等学校事務長)

辻英俊(株式会社上原フォートスタジオ)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉

越川弘英(キリスト教文化センター教授)

〈口 絵〉

■法人 『同志社創立150周年記念ロゴマークが決定』

■大学 『2021年度全学防災訓練の実施』

■女子大学 『白衣授与式(ホワイトコートセレモニー)』

■中学校・高等学校 『オンライン学園祭』『学年別体育祭』(中学校)

■香里中学校・高等学校 『「献米」運動』

■女子中学校・高等学校 『2021年度体育祭・文化祭』

■国際中学校・高等学校 『高校体育祭』／『ハロウィン』

■小学校 『ウスビ・サコさんによる特別授業(ピースウィーク)』

■国際学院 初等部：『5年生の探究学習』／国際部：『The National Museum of Modern Art, Kyoto』

■幼稚園 『お楽しみ会』／『クリスマス礼拝・祝会』

「私の志」インタビューの2人

第一四六回同志社EVE

神崎 龍太

24

同志社国際学院一〇周年記念式典報告

石川 眞弓

26

北海道富良野における地域連携型学習

天野 太郎

28

「英語スピーキング」における授業実践報告

市川 良大

30

二〇二一同志社クローバー祭くオンライン開催二年目のチャレンジく

大学 京田辺校地学生支援課

32

生活・社会と結びついている数学

園田 毅

34

同志社創立一五〇周年記念イベント Doshisha New Dayが開催される

法人事務部 創立一五〇周年記念事業事務局

36

isue+designによる講演・ワークショップ

帖佐 香織

38

文部科学省WLEプログラム「SDGs #11住み続けられるまちづくり」を目指して

渡辺 信行

40

同志社小学校『道草教育×SDGs』六年生の取り組み

渡辺 信行

42

く教科を超えた広がりのある学習から私たちにできる一歩へく

渡辺 信行

44

新刊紹介

「同女の母」スタークウェザーー同志社女学校の始まりー本井康博著／新島襄の足跡を辿る仲間と共に 海外・国内15

コース・田島繁著／ふだん着のオックスフォード・臼井雅美著／同調圧力の正体・太田肇著／外来植物が変えた江戸

時代 里湖・里海の資源と都市消費・佐野静代著／京都の中世史 4 南北朝内乱と京都・山田徹著／北に渡った言語学者

金壽卿 1918-2000・板垣竜太著／マイクロデータからみる現代中国の社会と経済・巖善平著／先輩！ビジネスセ

ンスの磨き方を教えてください！ 起業からイメージする金融経済教育・足立光生著／米中の経済安全保障戦略ー新興

技術をめぐる新たな競争・村山裕三編著／教育学のバトス論的転回・小野文生他編／日本社会の移民第二世代 エスニ

ンティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今・兒島明他著／未成年者の基本的人権 憲法学的考察・福岡

久美子著／三十六歌仙ピギナーズ・クラシックス日本の古典・吉海直人編

49

建物案内 デントン館 (同志社女子大学)

50

建物案内 寒梅館 (同志社大学)

51

同志社の逸品 新島旧邸の「新聞挟み」(京都市指定有形文化財家具) 同志社社史資料センター

51

学校現場における法律問題の現状と弁護士（スクールロイヤー）の活用について

西山 啓一／堀切 忠和 53

私の研究・私の授業

地域社会とスポーツのマーケティング 二宮 浩彰 62

魔法の弾丸くがん分子標的薬の可能性を追いかけて 尾崎 恵一 64

技術経営的観点について 太田原 準 66

社会とつながる大切さく多様な視点を教室に 井出 教子 68

ヘイト・スピーチにどのように対処するのか 檜垣 伸次 70

物理化学の授業で見せる実験例 遠藤太佳嗣 72

同志社ナウ

講談社メディアアワード2021を受賞「宇宙兄弟」×「宇宙生体医工学研究プロジェクト」 石田貴美子 74

ボランティア奨励コンテスト 女子大学ボランティア活動支援センター 鎌田 伸一 75

中学校「生徒手帳デザインコンテスト」&150周年記念ロゴマーク最優秀賞（同志社中学校2年 松井美野さん） 横山 真吾 77

モルックの実践 米澤 利聡 78

夏季校内語学研修 西田喜久夫 79

HR教室・特別教室へのプロジェクト設置 長瀬 拓也／金山 香織／鈴木 志織 80

わたしたちのまち・すてきなまちー岩倉たんけん隊ー（3年生） 石川 翼 81

広島で平和を願う子どもたち

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。

大学Ⅱ同志社大学、女子大学Ⅱ同志社女子大学、中学校・高等学校Ⅱ同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校Ⅱ同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校Ⅱ同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校Ⅱ同志社国際中学校・高等学校、小学校Ⅱ同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部Ⅱ同志社国際学院初等部・同志社国際学院国際部、幼稚園Ⅱ同志社幼稚園

●執筆者等の役職・職位は2022年4月1日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。

日本酒界を賑わせる14代目蔵主 「正しい酒造り」を通じて 酒のふるさと三輪を 表現する



いまにしまさゆき
今西将之さん
酒造会社経営

奈良県で酒蔵を営む父が急逝し、家業を継いで10年。傾きかけた蔵を数年で立て直しただけでなく、日本酒コンクールでも注目を浴び続ける若き蔵主です。

まず学んだのは酒より人。
家業継承は突然に。

——酒造りと同志社大学への進学とは関係があったのですか。

今西 僕は酒造りや地元の三輪に対する父の情熱に幼い頃から触れていたのですが、自然な流れで跡継ぎを意識するようになりました。酒蔵の跡取りは東京農業大学で醸造を学び、卸会社や酒造会社三年くらい勤めてから家業に戻るといのが大まかなパターンです。僕の父も東京農大出身でした。ところが僕が高校生の頃、周囲で同じような経歴の方の酒蔵が潰れていったんですね。高校生にとっては衝撃でした。たとえば良質な酒蔵でも、世の中が激変したときに手を打てなくなるのではという危機感を持ち、大学へはマーケティングを勉強しにこういう考えたんです。

——就職された大手人材企業では、何を学ぼうとされたのですか。

今西 当時は僕が三〇歳ぐらいで家に残り、約一〇年かけて父から仕事を引き継ぐ予定でした。僕はそれまでの期間、スピード感のある企業に身を置き、ビジネスをマクロに捉えて戦略を講じられる力をつけようと思いました。もう一つ、酒

造りや経営にとっては人が重要だと父からよく聞いていたので、人材という、経営者の課題に一番寄り添う仕事をしたかった。その両方の目的に最適の企業でした。そこで努力と挫折を繰り返しながら、全社で一位の営業成績をあげるまでになっていました。

——そのような中、二八歳の時にお父様が急逝され、酒蔵を継がれました。

今西 父から「余命宣告をされた」と連絡があり、実家に戻って一週間で亡くなりました。引き継ぎも何もできないまま僕が社長になると、飲食店や宿泊業など父の展開していた事業が大赤字だと分かった。また、当時の酒蔵は設備投資をしていなかったし酒造りへの情熱も感じられなかったから、当然お酒の質も良くなかった。そこで覚悟を決めて事業を整理し、酒造りを本気で始めました。二年間は迷走しました。どうすれば美味しいと思ってもらえる酒が造れるのか分からず、枝ばかり気にして幹を見ていなかった。一方で大手の卸会社へ営業に行っても、値引きの話ばかりで味の話にならない状況を虚しく感じました。そんな時に訪問した日本酒のセレクトショップで、うちの酒の味が酷評されました。でも、僕が持参した見積もり書など見もせず、ひたす

ら酒の味わいの話ばかり。酒への愛があふれていた。こんな方たちと一緒に酒造りをしたいと思ひ、原点に戻つたのが三年目でした。自分がまず本気で美味しいと思える酒を造れば、お客様にもそれが伝わるかなと。

「正しい酒造り」をしなが
ら地元の三輪を表現したい。

——変革の様子をお聞かせください。

今西 最高の設備を入れ、若くて酒造りに情熱のある人たちを採用しました。酒造りはチーム戦。一人のスーパースターが造るのではなく、皆でビジョンを共有し、スクラムを組んで船を漕いでゆくの酒造りです。うちはトップダウン型の会社ではないから、社長である僕がしっかりビジョンを描き、それに対して皆がわくわくしてくるから、ついてきてくれるのではないかなと思います。借金もしましたが、それは未来を描くための、希望ある借金。突然社長になつた時に発覚した、絶望的な借金とはまったく違いました。

——目指す酒造りを教えてください。

今西 「清く、正しい、酒造り」です。美味いかどうかは飲む人が決めることなので、僕たちの基準は地元である三輪の

清らかさを表現し、酒造りにおいて正しい仕事しなさいこと。同業者から見れば呆れるくらい非効率的で、手の込んだ仕事をしています。レンガを一ミリの狂いもなく積み上げるような作業を八カ月間行うわけですから、仕事の意図を理解していかない飽きてしまう。例えば洗米にしても、うちでは一〇キロずつ小分けにして、半年で一万二千回くらい行います。でも社員に回数だけを指示するのは、理由を示して、だから職務を全うしてくれと言ふのでは、仕事の結果は全然違ふます。そこは常に僕が語り、手本を見せるようにしています。だからうちは、どこの酒蔵よりも凄いスピードで変化しています。皆で積み上げてきたものが結果として見えて、自分たちの成長を皆が感じていくからではないでしょうか。

——そこまで今西さんを突き動かす源は何ですか。

今西 うちの酒を通じて、地元の三輪を深掘りしたいという思いです。三輪は酒造り発祥の地と言われ、三輪山をご神体とする大神神社は酒の神様として古くから信仰を集めています。うちの代表銘柄「三諸杉」「みむろ杉」は、その三輪山の古称「三諸山」にちなむものです。酒の神が宿るこの地で酒を造る唯一の蔵として、

三輪に敬意を表し、この土地を表現したい。三輪が元気になる一助になればと思います。酒造りは水と米が重要と言われますが、そこに歴史と文化を掛け合わせ、日本酒に新しい価値を創造したいとも考えています。その一つが「みむろ杉 木桶菩提配」という酒です。室町時代に奈良で生まれ、自然の乳酸菌を活用して清酒の元となつた「菩提配」という技法を復活させ、自社田で育てた米と三輪山の伏流水を使い、吉野杉の樽で仕込みました。父やご先祖が地元を大切に生きてきたから、十四代目の僕も地元を支えられている。これを次代につなげるために、僕もまた地元を大切にしていきたいと思ふいます。

——今春、社会に羽ばたく卒業生にメッセージをお願いします。

今西 自分で課題を感じ取り、そのためにいろんな人や場面に会いに行く。社会人生活はその連続です。自ら機会を作り出し、その機会から刺激を得て自らを変えながら、人としての器を広げていただければと思います。

(二〇二一年十一月十七日、

桜井市三輪町にて)

地域の魅力を発信

若い感覚で 付加価値をつけて 能登の魅力を広めたい。



沼田 祥衣 さん
地域振興ディレクター

地元・金沢と温泉が大好きな、社会人6年生。学生時代に地域振興プロデューサーを志し、能登の魅力を形にする仕事に夢中な現在までをお聞きしました。

京都学・観光学を学び
金沢の金箔メーカーへ

——同志社女子大学に進まれた経緯をお聞かせください。

沼田 地元の金沢が大好きなので、金沢を盛り上げるような仕事に就きたいと高校時代から考えていました。そこで地域振興の勉強ができる大学を探して、社会学部・観光学の京都学・観光学コースを知りました。ゼミでは河野健男先生のもとで、金沢の希少伝統工芸である「加賀ゆびぬき」をテーマに、マスキングテープなどの商品開発を研究しました。手工业品は生産量が限られ、売上金額に上限が発生してしまいます。伝統デザインを生かしたグッズ生産などを行えば、伝統工芸の普及や後継者育成事業にささやかながら貢献できるのではという趣旨でした。

——卒業後は金沢に戻り、金箔メーカーに就職されました。

沼田 大学で知った地域振興プロデューサーという仕事を目指して、まず地域振興に関わるキャリアを積みたいと考えました。会社では金箔を使った商品開発を担当しました。入社二年目で新店舗のプ

ロデュースを一任された時は大変でしたが、企画から販売、売り場まで、四年間本当に勉強させていただいたと思います。

——新しい発想で、どんな商品を生み出されたのですか。

沼田 食品からお土産、根付やガラスなどの工芸品まで、さまざまです。金箔を乗せたタコ焼きやかき氷、金沢の郷土玩具「加賀八幡起上がり」と招き猫を合体させた縁起物など、約六〇アイテムを世に送り出しました。子ども頃から新しい遊びを考えるのが好きだったので、創造的な仕事は楽しかったです。

——現在の会社に入られた経緯を教えてください。

沼田 金箔メーカーを退職後、大好きな温泉から地域振興をしようと考えて、能登半島の温泉旅館が行っていた後継者募集に応募しました。事業継承は条件的に難しく断念。その時面接してくださったのが、当時、後継者のいない企業の事業承継に携わっていた、今の会社の社長でした。そこで七尾市の過疎集落に、地域のロケーションを生かした宿泊施設を立ち上げるからスタッフとして来ないかと誘われて参加。能登について学ぶうちに、能登の魅力をもっと素敵に発信したくな

り、二〇二二年四月、七尾市で地域振興事業を行う「おやゆびカンパニー」に正社員として加わりました。

能登の文化を尊重しながら 魅力を現代風に発信中

——現在のお仕事をお聞かせください。

沼田 地域の良いものに光を当てて磨いていこうという「灯台プロジェクト」を立ち上げ、第一弾として、能登半島の珠洲に四〇〇年以上伝わる「揚げ浜塩」に着目しました。この塩の美味しさをもっと広めたくて、「てしおじお」というエンカルブランドを開発したところです。パッケージには、塩作りの全責任を負う浜土^{はまじ}という職人の伝統衣装を、ポップなイラストで表現。その箱を開ければ、揚げ浜塩の製造工程が書いてあるという仕掛けです。お土産というのは、買う人はその土地の良さを知っていますが、もろう人は知らないわけですよ。だから、ここまできちんとフォローすることで、お土産をもらった人も能登の良さや揚げ浜塩の価値を伝えたいと考えました。企画から発売まで試行錯誤を重ねながら、一〇カ月ほどかかりました。このブランドの第二弾として、揚げ浜塩と伊豆の無農薬レモンを組み合わ

せた「揚げ浜塩レモン」シリーズも十一月リリース。飴やコンフィチュールを販売しています。現在は揚げ浜塩と、能登の食文化の一つである海藻を使ったスープを開発中です。

——他県の特産品とのコラボ土産とは異色ですね。

沼田 あくまでも揚げ浜塩に見合う美味しいものを作ることがテーマなので、コラボする事業者さん探しは、自然と全国が対象になりました。そうすることで地域の新しい可能性を発掘できますし、県をまたいだコラボ商品は販売チャネルの可能性が広がります。情報発信のリソースも重複しません。クラウドファンディングでも塩レモン飴を先行販売したところ、目標額をはるかに上回って六〇〇%以上を達成できました。

——能登ならではの仕事のやり方はありますか。

沼田 能登の方たちは、自分の畑で採れた作物を人にあげ、人からもいただくという、自然の恵みを分け合う生活様式が根付いています。だから先ほどの塩に二〇グラム五五〇円という価格をつけた時は、地元で「高すぎる」と違和感を示されました。でも原価を考えればむしろ安い

ですし、本当に良い物にはそれに見合う値段をつけなければ利益は生まれません。後世にも残っていきません。そこを理解していただくところからのスタートです。ただ、地元の方々の意思も尊重したい。能登は「能登の里山里海」として日本で初めてユネスコの世界農業遺産に認定されたほど、農業を基盤とした生活文化が根付いている地域です。生活自体が世界遺産なので、金沢などの都市とは生活様式や考え方が大きく違います。こちらもそれを理解しながら、能登の発展に貢献していきたいです。

——今後の抱負をお聞かせください。

沼田 今は石川県内の商品開発をしていますが、いずれ全国の他地域でも同様の仕事をしてみたいです。そしてあわよくば、現地の温泉にもたくさん入りたいです(笑)。

——新しい卒業生にメッセージをお願いします。

沼田 いただいたご縁に感謝して取り組むことが大切だと思います。でも、頑張ってもやつぱり辛いときは逃げることも大切です！

(二〇二二年十二月二日、金沢市にて)

同志社時報153号特別企画 第15代同志社女子大学長就任にあたって



こざき まこと 小崎眞氏 (同志社女子大学第15代学長、女子大学生生活科学部人間生活学科 教授)

うえき ともこ 植木朝子氏 (同志社大学第34代学長、大学文学部国文学科 教授)

なかじま めぐみ 中島めぐみ氏 (関西テレビ放送株式会社アナウンス部、同志社女子大学学芸学部情報メディア学科(現・メディア創造学科)2010年卒)

創立一五〇年への道を照らす
両大学のビジョン

中島 ● 本日は小崎眞先生の同志社女子大学第一五代学長ご就任にあたりまして、小崎先生と植木朝子学長との対談を実施させていただきます。

植木 ● 小崎先生、この度は誠におめでとうございます。先生とはいつも理事会で一緒に、美しいお祈りをいただいていた。

小崎 ● ありがとうございます。

中島 ● 同志社大学は二〇二五年、同志社女子大学は二〇二六年に、創立一五〇周年を迎えます。それに向けた両大学のビジョンと進捗について、またこれからの女子教育や両大学の連携についてお伺いいたします。まず植木学長から、同志社大学のビジョンをお聞かせください。

植木 ● 本学では創立一五〇周年に向け、本学のあるべき姿を示した中長期行動計画「VISION2025」を策定しています。教育・学生支援・研究・入試・国際化・広報という六つの柱で構成しており、それぞれ「学びのかたちの新展開」「キャンパスライフの質的向上」「創造と共同

による研究力の向上」「『志』ある人物の受入れ」「『国際主義』の更なる深化」「ブランド戦略の展開」をテーマとしています。

中島 ●六つのテーマをつなぐキーワードはありますか。

植木 ●「多様性」が一つの重要な課題です。一四学部一六研究科を擁する総合大学ですので、学生の多様なニーズに対応し、多様な学生、多様な学びを支援していく。研究者たちも互いの研究を理解し合い、影響を与え合い、高め合うという相互作用を得られる点でも、多様性はキーワードになるでしょう。グローバル化も世界の人々が集まって学ぶという点で、多様性の最たるものだと思います。

中島 ●小崎先生、同志社女子大学創立一五〇周年に向けてのビジョンをお聞かせください。

小崎 ●本学では二〇〇〇年以降、時代の変容に対応して学部学科の改組、新たな学問エリアの開発など、かなり大きな変化がありました。その中で将来構想に向けた方針方策の議論を続け、「VISION2015」を策定しました。二〇一七年度からの一〇年間の活動方針を明示するもので、四つの

大きな柱、すなわち「幹」「枝」「根」「葉」からなる、大きな一本のツリーで概念を表現しています。



「21世紀社会を女性の視点で『改良』できる人物の育成」という幹の部分を作成するため、枝の部分には「創造性を育む教育の推進」「自分自身を生涯にわたりデザインできる女性の育成」、そして多様性も含めた「学修するコミュニティ」の構築」という教育の形を表現し、それを支える組織・財政・広報・キャンパス整備について「迅速かつ戦略的な意思決定を可能にする経営力の強化」が根となり、土台を強化しながら、全教職員が大学運営に携わっていく決意とともに、全体の取り組みを始めています。

同志社大学は「特化」のステージから「広がり」のステージへ

中島 ●進捗と今後の展望についてはいかがでしょうか。

植木 ●ビジョンが二〇一六年に策定されて以来、前学長時代には主な取り組みとして、ドイツ・テュービンゲン大学に「EUキャンパス」を設置し、全学挙げての初の募金活動「ALL DOSHISHA募金」を開始しました。各学部が特徴的な教育プログラムを組み、全学に波及させていく「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」や、リーダー養成プログラム「新高塾」も始まっています。これらが本ビジョンのファーストステージです。学習意欲の高い学生たちにフォーカスした教育プログラムによってロールモデルとなる人物を養成し、一般学生への波及効果によって大学内が活性化する循環を目指す取り組みでした。その結果、一定の人物養成を成し遂げてきたと思います。

中島 ●そして植木先生が二〇二〇年四月、学長に就任されました。次の段階はいかがですか。

植木 ●学長就任と同時に、新中期行動計画を始動させました。ここからのセカンドステージは、すべての学生に直接、知的な刺激を与えていく段階です。ファーストステージのキーワード「特化」に対し、セカンドステージでは「広がり」がキーワードです。重要なのはダイバーシティと、多様なものをまとめていくインクルージョンという考え方です。多様な教育・研究に関するリソース一つひとつを輝かせ、組み合わせ、また新たな価値を創造していくことが大事だと思っています。そういう考え方から、全学にわたがる教育プログラムの新設や改革を行いたいと考えています。

中島 ●具体的にはどのようなプログラムが進んでいますか。

植木 ●昨年度から今年度にかけて、継志寮における「Residential Learning Program」大学院生向けの「Comms.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム」といった教育プログラムの他、組織や制度としては、産学連携を新展開させる「同志社ダイキン」「次の環境」研究センター、「同志社大学カーボンリサイクル教育研究プラットフォーム」、全学のダイバーシティ推

進を牽引する「ダイバーシティ推進委員会」、大学院生の研究環境向上施策「フエロシップ制度」、コロナに関する課題解決を行う「All Doshisha Research Model」を始動しました。カーボンリサイクルについては理工学部の後藤藤也教授を中心に、二酸化炭素を分解して得られる炭素を活用するという、画期的な研究をしています。継志寮は日本人学生と留学生が混住して多様な課題に向き合う教育寮です。現在コロナ禍のために留学生の来日が難しい状況ですが、寮生活を学修の場として発展させる取り組みです。

中島 ●まさに多様性ですね。

植木 ●その通りです。ダイバーシティ推進の第一弾として二〇二一年四月に、「スチューデントダイバーシティ・アクセンビリティ支援室」を設置しました。従来のカウンセリングセンター・特別支援オフィスと障がい学生支援室の機能を統合した部署です。障がいの別に関係なく支援を行い、また性的少数者への理解についても啓発・支援活動を行います。ビジョンの二つのステージのキーワードとして「特化」と「広がり」と言いましたが、二〇二二年度にはいよいよ、三〇年ぶり

に改革された英語教育カリキュラムがスタートします。多様なニーズに対応できるように、習熟度別クラスの編成をさらにきめ細かく拡充し、学部の専門科目や留学、キャリア形成にまでつなげる体系的な内容です。同様に、全学生を対象にした数理・データサイエンス・AI教育の新科目や、次世代研究者挑戦的研究プロジェクトも始まります。二〇二三年以降は今出川校地に新育真館、新図書館、京田辺校地にスポーツ・コンプレックスの建設を予定しています。

中島 ●コロナ禍によつて計画の実行に支障が出たり、あるいは新たな計画が生まれたりしたのでしょうか。

植木 ●もともと構想にあったICTの活用がコロナ禍によつて凶らずとも一気に進み、働き方改革によるDXへの対応も含



植木朝子 教授
同志社大学第34代学長、
大学文学部国文学科 教授

めて、今まで以上に判断を迫られる状況になっていきます。しかしコロナ禍への対応の中で、対面授業の重要性も改めて認識させられたところです。ICTやDXが強調されがちな現代ではありますが、大学キャンパスの存在価値を今一度考える必要を感じています。

中島 ●以前植木先生がインタビューで、大学生生活に慣れていない一年生には対面授業を増やし、二・三年生にはオンライン授業を取り入れるという方針を話しておられるのを拝見しました。対面活動が制限される中でも学生のニーズに応える進んだ教育のやり方だと感じました。
植木 ●いろいろな背景をもつ学生がいますので、大学としてはできるだけ選択肢を用意しておくべきかと思っています。

**学習者の視点を尊重しながら
新たな五年間に取り組み
同志社女子大学**

中島 ●続いて女子大学でのビジョンの進捗についてお聞かせください。

小崎 ●四つの長期目標においては、さらに具体的な前半五年間の中期目標と、重点的な取り組みとして、六七のアクション

プランを設定しています。開始から四年が経過する中で、PDCA、つまり計画立案、実施に向けた環境整備、事業の実施と完了、事業の評価と改善の達成度について、各部署の教職員に五段階で自己評価をしていただいています。その結果、全体の平均が三・二となっています。コロナ以前の二〇一九年度終了時では、六七プランのうち九四%の六三案件が事業の実施の段階に至っていましたが、コロナ禍においては八八%止まりです。しかしながらコロナ禍を一つの契機と考え、次の五年間を見据え、中間の取りまとめをしました。六七のプランが、良い意味

で細かすぎるといえる考えもあれば、具体性があつて良いという見方もある。PDCAも肯定的な評価はありますが、一方で手段が目的化するという逆転の状況が起きる可能性についても議論しました。そこで後半の五年間はもう少し大まかに捉え、特に学習者の視点から改めてプランを捉え直すとうとしています。現場のニーズをきちんとリサーチし、八つの中期目標を立てて取り組む方針に、次年度からはシフトします。具体的には、時代に

ふさわしいリベラル・アーツ教育の推進

とともに、専門的な知識・技能を修得して新たな価値を生み出す。女性のリーダーシップの養成、キャリアを含めて生涯学び続けるプログラム、地域社会とつながる学修・研究の推進、英語教育を含めた国際的視野の中での教育プログラム、本学が有する人的・物的リソースの検証と効果的な活用、それらの新しい時代に即した形での展開、そしてガバナンス強化という八つの柱です。

中島 ●「VISION150」は、二〇一七年から二〇二二年を第一期、二〇二二年から二〇二六年を第二期と区分しています。第一期は概ね充実していたのですね。

小崎 ●そうですね。同志社大学と同じように、本学でも教員たちがコロナをテーマに学際的な研究を進めてきました。素晴らしい取り組みですし、今後も模索していきたいと考えています。学生との対話授業形態という点では、コロナ禍の経験を通じて、根本的に、教育とは何か、講義とは何かを考えてきました。私自身にも反省があります。当初はオンライン授業を短めにして課題にかける時間を長く配分していましたが、慣れてくると話したいことの多さに気づき、オンデマンド用



小崎眞教授

同志社女子大学第15代学長、
女子大学生活科学部人間生
活学科教授

動画を作りました。最初は二〇分ぐらいだったのが、六〇分、九〇分になりました。動画には繰り返し視聴できる利点がありますが、内容が本場に学生たちに届いているのかという疑問も出てきます。授業アンケートでは割と良い評価がつくのですが、学生のレポートを読むと、こちらが期待した学びができていない現実がある。教室での対面授業には、必要な雑談の時間というものがあります。それがなければ、実は学習効果はそれほど上がっていきなかつたのではという懸念を持っています。そういう意味で、大学の講義について根本的な意味が問われる時期に来ているのではと考えます。全学でこれを精査していき、より良い授業を創出できるかどうか、大学にとって今後の生き残りのポイントになるのではないでしょう。

か。学生の中にはオンラインやオンデマンド授業によって、むしろ学びが継続した人もいます。ただ現状は、学生たちの孤独感と孤立感に拍車をかけている。その問題に関する受け皿の必要性も感じます。

中島 ●学んだ時間に対するおまけのような時間や先生との雑談、友だちとの喫茶店での会話などが、実は私たちにとって凄く思い出しに残っていたり、学びを深めてくれたりしたと思います。ぜひ学びの形をさらに模索していただき、学生たちが充実したキャンパスライフを送れるようになってほしいものです。

小崎 ●卒業生も含めて皆で情報を出し合えるような、応援・支援のネットワークがあれば嬉しいですね。

世を「改良」する女性と多様なリーダーシップの育成を

中島 ●これからの女子教育について、抱負をお聞かせください。

小崎 ●多様性が求められる中で、今後LGBTQへの理解も進めていく必要がありますが、本学では女性のみ六千人の学生がいます。つまり、六千通りの女性がいる。そういう意味では、女性の多様性

について丁寧に取り組むことも必要でしょう。「VISION150」のコンセプトは「21世紀社会を女性の視点で『改良』できる人物の育成」です。これは亡くなる直前の新島襄が、婦人運動組織である日本基督教婦人矯風会きょうふうかいの書記、佐々城豊壽とよひさに寄せた「世の革命者と成られよ。否世の改良者と成りて働かれたし」という言葉から取ったものです。「改革」と「改良」という言葉の違いに、あえてこだわりたいという意味での「改良」です。新島は女性の人權を重んじるようにしてほしいとも、佐々城に伝えたそうです。また新島は、佐々城に対して「慷慨心」という言葉を使っています。社会の不正に対して率直に発言できる心に新島が期待をしたならば、まさに本学は女性の多様な可能性を確信し、男性が担っていた役割をただ女性が交代するのではなく、女性の生き方を尊重し、多様な生き方を模索する大学でありたいと思います。

中島 ●私は妊娠出産を経験しましたが、そこでやはりキャリアがストップしてしまうことに凄く戸惑いを感じました。それはきつと男性にはない視点だと思えます。そんな時、同じ視点で考えられる仲

間がいたのは心強かったです。

小崎 ● そういうことを吐露できる存在がいたのは大事なことです。先頭に立つて旗を振り、引つ張っていくリーダー性だけではなく、受け止め、支えるリーダー性も世の中には大事だと思います。ダイバーシティ実現のためにも、リーダーという言葉も、もっと多様な言葉に置き換えて模索していきける時代にならなければいけません。例えば出産経験を一つのキャリアと捉えて社会が動けば、男性や出産した女性のパートナーの考え方も変わっていくのではないのでしょうか。

中島 ● 発言力のある人だけが素晴らしいのではなく、人と人との間を取り持つてパイプ役になれるような人たちがたくさんいることを、私も大学で学ばせていただきました。

小崎 ● 本学の女子教育については、実際に女子大学で教育を受けてこられた植木先生からも、本学への期待やアドバイスをいただければと思います。

植木 ● 同志社大学としては現在、性の多様性への理解促進に取り組んでいるところなので、性別にかかわらず、一人ひとりの個性や特性を生かすという視点から

教育を考えています。私たちが抱きかちな「女性はどうだ」という無意識のバイアスについて、教職員は自覚しないといけません。本学の学生数の割合は、全学

では男子五七・五%、女子四二・五%であるのに対し、理系学部では男子八三・九%、女子一六・一%と、非常にアンバランスな状態です。やはり家庭や社会のアンコンシャスバイアスの影響が大きいのではないのでしょうか。大学としても、理系に進む女子学生を増やすため、女子中高生に理系の面白さを伝えたり、キャリア形成に向けた取り組みを行ったりしています。わたくし個人としては女子大学で教育を受けましたが、むしろ男子、女子という区別を大学の中で考えなかつたのが良かったかなと、卒業してから思います。学園祭も当然ながら女子だけで作り上げてきましたし、ゼミ長も女子学生が務めました。男子学生がいると、どうしても男子がゼミ長をするような雰囲気がありますが、それはまさにバイアスです。本当は社会全体がジェンダーについて平等になるべきとは思いますが、なかなかそれが実現できていない中で、女子大学の存在意義は大きいと思います。

単位互換制度だけでなく
両大学の研究者間の交流にも期待

中島 ● 植木先生のおっしゃることは非常によく分かります。私も学生時代にはゼミ長を務めました。もし男性がいたら、あの時私に役が回ってきたかどうかは分かりません。私は女子大で学んだおかげで、たくましく育つたかなと思います。さて現在、両大学間には単位互換制度があります。今後の連携についての展望をお聞かせください。

植木 ● 女子大学の先生方に本学の研究センターで共同研究を進めていただくなどの連携は既に行っています。女子大学の学生さんに対しても、多くの科目を提供しています。二〇二〇年から新しいスキームによる研究も始まっていますので、



中島めぐみ氏

関西テレビ放送株式会社アナウンス部、同志社女子大学学芸学部情報メディア学科（現・メディア創造学科）2010年卒

両大学がさらに連携し、社会に対していつそう強く成果を発信できるのではと感じています。

小崎●同志社大学では、共同研究への意識や文化は、どのように育まれているのでしょうか。あるいは大学から、何か仕掛けがあるのでしょうか。

植木●従来から学部の間根をこえた研究センター設置など共同研究の仕組みはありましたが、今回のコロナ研究のように、大学が一つのテーマを掲げて全学に研究募集したのは、初の試みです。ただ産学連携研究に熱心な理工学部の話聞いてみると、企業側から見ると同志社大学は学科間や研究室間の垣根が低いそうです。大学の長い歴史の中でそういう雰囲気醸成されてきたのではと思います。

小崎●既存のテーマで共同研究をしようとする、それぞれ担ってきた分野があるために、身動きが取りにくいことがあるかもしれません。しかしコロナという外側の課題だとアクセスしやすく、いろいろな取り組みがしやすいのではないのでしょうか。単位互換だけでなく、そのようなつながりも広がればいいですね。

中島●私は学生時代、単位互換制度を存

分に活用していました。メディアについて学びたかったので、女子大学でメディア関連科目をほとんど履修した後は、同志社大学、龍谷大学、立命館大学へ授業を受けにいきました。大学ならではの自由な制度だと思えますし、有意義な経験でした。

小崎●私たちはもつとそういう声を聞き、交流を広げていかなければなりません。京都には大学が多く、大学コンソーシアム京都もあります。私が関わる宗教倫理学会には仏教、天理教、キリスト教などの研究者が集まり、盛んに議論をしています。京都はまだ、そういう財産を使いきれていないと感じます。

中島●交流という意味では、単に学びを深めるだけでなく、一緒に同じ時間を過ごし、同じものについて考える時間が、後から考えると非常に楽しかったです。学内でゼミ同士のディスカッションをした時とても楽しかったのですが、違う大学のゼミと交流すれば、きつと全然違う経験ができるでしょう。別の大学に足を踏み入れた時点から、それは一つのイベントになりますから。両大学のさらなる連携に、かつての一学生としても期待

しています。

植木●今は本当に大変な時期ですが、小崎先生とこうして一緒にやっています。今ことを、個人的にも嬉しく思います。今後ともよろしく願っています。

小崎●植木先生は優しく、さりげない振る舞いで人を力づける資質をお持ちです。今後ともご指導いただきますようお願いいたします。

植木●コロナ禍で、社会に潜んでいた諸問題が顕在化し、人々の対立や分断が進んでいます。今こそ大学の良心教育の重要性が問われています。そのような中でキリスト教をご専門とする小崎先生が学長になられることには、非常に大きな意味があります。先ほど中島さんから学生時代に他大学との交流を楽しまれたお話がありました。やはり人と人との交流や精神面での充実を考えたとき、小崎先生の学長就任は象徴的な出来事だと思っています。

中島●本日お話をうかがって、両大学の明るい未来を感じました。お二人ともありがとうございます。

(二〇二二年一月十二日、同志社女子大学ジェームズ館にて)

同志社大学課外プログラム

「先輩に学ぼう！ スクラップ SCRAP 加藤隆生氏 オンライン講演会」

株式会社SCRAP かとう たかお
代表取締役 加藤隆生氏

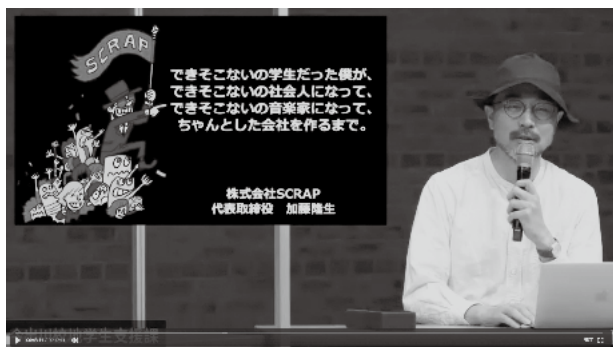


「リアル脱出ゲーム」で有名なイベント企業SCRAP社長の加藤隆生氏（一九九八年・文卒）に登壇いただき、学生時代のエピソードから現在の仕事に至るまでをお話しいただきました。講演後には学生を中心とした視聴者との間で、熱心な質疑応答が行われました。

**何ものにもなれなかった
学生・会社員時代に
現在の基礎が築かれた**

私は本当に、できそこないの学生で、できそこないの社会人で、できそこないの音楽家でした。それでも最終的に、割とちゃんとした会社を起すことができたので、そのプロセスを振り返ってみました。と思います。

大学では文学部文化学科心理学専攻（現・心理学部）に在籍していました。心理学の授業は理系寄りの内容で難しく、英語の授業も難度が高かったため、すぐ授業についていけなくなりました。新歓ライブで聴いたバンドに憧れて軽音サークル「S.M.M.A」に入り、そちらに熱中する日々でした。バイトをクビになった



こともありました。四年間を通じて何かをやり遂げたと、胸を張って言えるような記憶はありません。しかし、音楽だけはコツコツとやってきました。練習を続けて月に一、二回ライブを行い、同志社EVEでも特別の思いをもって演奏しました。地道に続けていると、それなりに評価してくれる人たちが現れたり、自分

でも良い曲が書けたとかギターや歌が上達したと思ひ始めたりして、プロのミュージシャンになると言い出したのが二十一、二歳の頃でした。

デモテープをいろいろなレコード会社に送りましたが、特に返事もないので就職活動を始めました。そこで、何ものでもない自分を突きつけられました。世間ではよく「個性を持って」と言われます。

しかし、その個性を言語化してくださいと言われても、そんなに軽々しく言語化できたら個性ではないのではと思うこともありました。結局、ハキハキと賢そうにしゃべるとか、まるで自分の考えがあるかのようにしゃべること一つ一つの企業が自分の人格を認めるという流れに、もうひとつ乗れませんでした。周囲は就職活動というムーブメントに乗り、一斉に活動することが当然で義務であるかのような、教育の延長線上に就職活動があるかのような気風がありました。僕はそこに乗れなかったのです。

でも乗れないことがすごく辛かったです。結局、音楽活動を継続するために、就職支援会社から送られてきた分厚い本

で実家からなるべく近い会社を調べ、履歴書を送ると、物好きな方がいらつしやう。印刷会社に就職できました。「自分は本当はミュージシャンなのだ」という気持ちで我慢しながら、そこで営業マンとして働き、大人としての振る舞いを知り、印刷の知識を得ました。たぶん人生で一番辛い時期だったと思います。今、コロナ禍で自分の会社がダメになったとしても、それは自分の意思と能力で頑張った末の結果だから仕方ないと思えるほど、あの頃は辛かったです。

就職後も、ライブは月に一回ぐらいの頻度で堅調に続けていました。残業代という概念のない時代でしたから、深夜に帰宅し、それからでもギターを弾き、一行でも歌詞を書き、一小節でもいいからメロディーを作って就寝するという生活でした。日曜にライブを行い、打ち上げで朝六時まで飲んで二時間寝て出社したこともありました。しかし、しんどくなつて二年目の夏に退職しました。退職の意思表示をしても特に引き止められはしなかったのですが、その後何年も会社の方たちは、僕のライブを観にきてくれました。その一年四カ月で得た印刷の知識

や社会人としての立ち居振る舞いは、その後の大きな財産になりましたし、あの会社の持ついい雰囲気と思ひ出しながら、自分の会社を作りました。サラリーマン時代は非常に辛かったけれども、僕にとつて重要な時期でした。

フリーペーパーと ロックフェスを武器に バンドを続けた六年間

退職した二〇〇〇年からの六年間は「無職下タバタ期」でした。学生時代の有志で続けていた「ハラツパ」カラッパ」というバンドで生計が立てられるようにならないかと考えながら、週末にリハールをして月に一回ライブを行う生活を続けます。僕以外はかなり大きな会社に就職が決まり、楽しそうに働いていたので、メジャーデビューが決まったとしても先行きは不透明で、矛盾を抱えたバンドではありましたが。その間、僕は二年ほど編集プロダクションで契約社員として働きました。トップは問題の多い方でしたが、自分が後年クリエイティブの会社を経営するにあたり、その方を反面

教師にしました。おかげで起業後の一年間は、ミスをしなくて済んだと思つています。

ハラッパIIカラッパは二〇〇二年に解散し、もつと音楽で生計を立てるんだという強い意志を持ったメンバーで「ロボピッチャー」というバンドを結成しました。当時もつと素晴らしいバンドを間近で見ましたが、良いものを作るだけでは誰も見つけてくれない。良いものを作り、届けるところまでがプロなのだということ、これも反面教師的に学びました。だからロボピッチャーを作った時は、絶対に売れなくてはいけないし、自分たちの力で売らなくてはいけないと考えました。

そこでロボピッチャーを売るため、「SCRAP」というフリーペーパーと、「ボロフェスタ」というロックフェスを立ち上げました。この三つを育てていけばうまく行くと、なぜか強く信じていました。フリーペーパー「SCRAP」は二〇〇二年に、京都のデザイン会社と一緒に立ち上げました。毎号特集記事を考え、特集テーマに合わせたイベントを行うというコンセプトです。フリーペーパー

カルチャーは当時飽和状態で、広告を取って稼ぐという時代ではありませんでした。僕たちはフリーペーパーを「ごく豪華なチラシ」と捉え、特集記事を作り、それにちなんだイベントを行つて人に来てもらうことを考えました。

なぜか。フリーペーパーを手に取る人は、基本的にアクティブです。家でテレビやウェブから情報を得るのではなく、街に出てカフェやギャラリー、ライブハウス、エンターテインメント施設でわざわざ手に取り、しかもそれを持って帰る方々だったのです。当時は隔月発行で約一万部を刷り、七、八千部は必ず捌けていました。街に出かけることに抵抗のない七千人の手に渡っていた。その人たちはイベントに行くことに関してそもそも抵抗感が少ないので、この七千人を、僕はとても重要な七千人だと考えていました。

SCRAPではいろいろなイベントをしました。参加者が乙女チックなボエムを朗読する「乙女チックボエムナイト」、単語を並べ替えて奇跡の一文を作る「文作りコンクラーベ」、理数の定理を分かりやすく説明して一番ロマンチックなも

のを投票で決める「ロマンチック理数ナイト」。いつも百人くらいはお客さんが入りました。「ボロフェスタ」は千人のお客さんの前でライブをやりたくて始めたもので、今では地方のミュージシャンが主催するフェスの先駆けと言われています。後には騒音問題など多くの反省点がありました。百人以上のスタッフで三千人以上のお客さんを安全に誘導することに成功したり、チケットの売り方、宣伝の仕方、アーティストの接し方、心地よい会場の作り方を学んだりと、さまざまな収穫がありました。

「リアル脱出ゲーム」はなぜ売れたのか

活動の甲斐あって、ロボピッチャーは二〇〇四年にワナー・インディーズから、「消えた3ページ」というアルバムでデビューしました。SCRAP、ボロフェスタと合わせて、これらの活動を二〇〇八年頃まで必死で続けました。それでも三十三歳頃までの平均年収は百万円程度でした。ろくでもない毎日、僕は

何ものでもなかった。それが二〇〇七年七月七日に「リアル脱出ゲーム」が誕生したことで、急に風向きが変わります。

最初はS C R A Pの企画の一環で制作したイベントでした。これが当たり、熱狂が起こったのでしばらくやってみたところ、すぐにチケットは完売するようになりました。ライブハウス、H E Pホール、京都マンガミュージアム。くろり主催の京都音楽博覧会でも宝探しを企画しました。二〇一一年には上海公演、東京ドーム公演を行い、自社店舗をオープン。二〇一二年にはシンガポール公演、サンフランシスコ公演を行うなど、加速度的にお客さんが増えていった。累計で約八二〇万人の方に遊んでいただきました。なぜ売れたのか、なぜそんなことができたのか。当時ウェブの脱出ゲームが既に流行っていたので、イベント内容がイメージしやすかった。そしておそらく、物語体験というものが求められていたのだと思います。リアルな体験が急速にウェブに移り変わっていき、ウェブが主流になった後の世界で、あえてアナログ側の価値が求められていた時代だったのかなと思います。そして大人の新しい遊び

が空間上になかった。大人の遊びといえどビリヤード、卓球、ダーツ、カラオケなどがありますが、それらが生まれて二、三十年経つ間に新しい遊びが発明されていかなかった。そして、謎解きという遊びは、実はクイズ番組などでなじみがあった。「リアル脱出ゲーム」というタイトルやビジュアルがキャッチだった。分かりやすくなければ人は集まらないことを、僕たちはS C R A Pのイベントで毎月実験してきました。それが役立ちました。

何ものでもなかった僕が、なぜそれを作れたのかも重要だと思えます。結局のところ、人生の中で学んだことが、たまたま全部はまったのだと思えます。ずっと音楽イベントを作っていたからイベント会場との付き合い方が分かっていた、イベントの作り方も分かっていた、チケットの売り方も、どうすればスタッフが気持ち良く働けるのかも、お客さんがどういうときに笑顔になるのかも、僕ははこの時熟知していました。だから謎解きイベントをやるようにした時、どうすればいいのか手が取るように、すぐに分かった。イベントを作るための「筋肉」が、

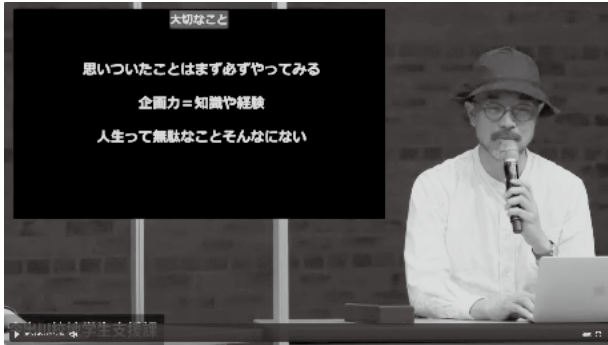
自分の中についていたのだと思います。自分に才能があったとか、すごい後天性の能力があったというふうには思っていません。自分が思いついたことに対する経験知が、たまたま既にあつたというのが一番重要なことだったとは思っています。

リアル脱出ゲームを思いついた翌年、S C R A Pを法人化しました。今は東京に本社があり、社員が約一六〇人います。コロナで大打撃を受け、もうおしまいかなと思つた時期もありましたが、何とかオンライン脱出ゲームというものを生み出しました。集客はまだ全盛期の六〇%ですが、苦境を乗り切りながらやっています。よかつたら遊びに来てください。売っているものは謎解きではなく、物語体験です。物語の中に入れるような体験です。

成功と失敗の繰り返し 企画力を育てる

大切なのは、思いついたことはまずやってみることです。僕の会社では新人でも、やりたいと思つた人にはすぐにメイ

ンディレクターをやってももらい、本人の名前でドンと打ち出してみようという方針です。うまく行っても失敗してもいい。どちらにしてもその経験が知識になり、筋肉、糧になります。そうやって人は育っていくものだと僕は強く思っています。あの時、リアル脱出ゲームみたいなのがあったら面白いなと思いついた人は、



世界中で百人以上いたでしょう。でも、本当にやってみたのは僕だけでした。もし僕が行動に移すのがあと一週間遅かったら、その後の成功はなかったかもしれない。そして企画力は知識や経験でしか身に付かないし、知識や経験はやってみることでしか身に付かないものです。小さな成功と失敗を繰り返すことでのみ、企画力は伸びます。

学生時代も卒業後もどうしようもない、ただのインディーズミュージシャンではありましたが、そのプロセスの中で、必死で一生懸命やってきたと思います。そこで学んだことを一つずつ積み上げていき、自分ができるところを一つずつ、手にすることができました。僕のこの人生体験がたくさんの人たちに同じように起こるかどうかは分かりませんが、人生に無駄なことは、そんなにありません。今でも、子どもが生まれたら子ども用の謎解きを作ったり、友達と喧嘩したら仲直りするためのゲームを作ったりして、多くのことをビジネスにつなげています。人生で心が動くことは全部ビジネスにつながると思うし、世界を良くする新しい動きにつながるものだと思います。

【視聴者との質疑応答】

質問●起業に際して大事な心構えや、新しいことに挑戦する際に意識していることはありますか。

加藤●まずきちんと利益が出て、法人化した方が税制的に有利だと分かるときが、株式会社化する際の基準だと思います。

新しいことに挑戦するならば、必ず形にして世に出すこと。多くの人に聞いてもらい、見ってもらって感想を聞き、それを真摯に受け入れながら改良していくこと。

改良のプロセスの中で否定的な意見が出ても諦めない。その意見が正しければ改善する必要があるし、矛盾したことを言う人がいれば、どちらかを切り捨てないといけない。その判断を常にし続けながら前に進んで形にし、世に出すことが一番重要だと思います。

質問●資格以外で社会人に必要な資質、能力などは何がありますか。

加藤●僕は「面白がる世界」の人間なので、その観点からに限って言えば、どんなことでも楽しめるような状態に持っていくこと、コツコツと真面目に続ける人

であることでしょうか。

質問●挫折したり楽しめなかったりした時は、どのように乗り越えましたか。

加藤●お酒を飲む、ゲームをするなどで、だからだと自堕落に生きる。それは立ち直るために必要な時間なので、罪悪感を感じません。

質問●現在の野望は何ですか。

加藤●あまり将来へのビジョンは持ちません。今すぐに始められる一番面白いことは何だろうと、ずっと考えています。一番面白いことを毎日やり続ければ十年後にはすごいことになっている。だから日々、牙を研いでいればいいかなと思います。

質問●今まで仕事をしていた一番楽しかった瞬間は何ですか。

加藤●今までにないものを思いついた時です。仕事でも仕事でなくても、思いついたことが世の中に広がっていくのは、全部楽しいです。

質問●好きなことを見つける方法はありますか。

加藤●いま自分は、やりたいことを探している途中であることを、胸を張って断言することです。焦って今すぐ見つけな

ければと思うと悩んでしまいますが、死ぬまでに見つかればいい。焦る必要はありません。自分の心の中から自然に湧き上がってくる気持ちを大切にしてください。「今すぐ見つける」「急げ」と言う人がいたら、その人は自分を攻撃する人なのはと疑った方がいい。



質問●人を採用する立場として、人を見

る目について教えてください。

加藤●僕は周囲から反対されるような人を採用して、成功することがあります。

逆に総合力の高い人は、入社してうまくいかないことが時々あります。バンドを例に取ると、大したベースリストではないけれども、あのバンドで弾くときだけは素晴らしいと言われるケースがあります。それは良いバンドの特長のひとつとされます。僕も、この人はうちの会社でないとうまく行かないだろうなという人を採用したいと思っています。

質問●いろいろな物事がビジネスになるきっかけを教えてください。

加藤●理念から立脚する場合は、お金儲けができたときに初めてそれはビジネスと言えます。そうではなく、当たり前のことですが、まっすぐビジネスに向かった方がビジネスへの距離は近い。お金を稼ぐことは基本的には世界を良くすることです。お金は誰かを喜ばせた対価として自分のところへやってくるものだから、法律や公序良俗に反しない内容である限り、それを考えることがビジネスにおいては一番大事だと思います。

質問●最後に、学生の皆さんにメッセージ

すが、予算は限られていました。前任の担当者からは「研修を企画するのであれば自分の興味があるテーマが楽しいよ」と聞いていたので、個人的に関心のありましたサイボウズ株式会社（以下、サイボウズ）に相談を持ちかけました。サイボウズといえはコロナ禍のCMでも話題となり、「百人いたら百通りの働き方」の考えのもと、社員それぞれが望む働き方の実現に向け、一置かれる改革を行っているIT企業です。無理を承知での依頼でしたが、サイボウズ チームワーク総研 シニアコンサルタントのなかわら様とZoomでの打ち合わせを行い、予算内で講師を引き受けてくださることになりました。

二〇二一年五月下旬、四中高研修会の研修委員の顔合わせも兼ねてZoomで会議を開き、研修会の原案を報告し、それぞれの意見を交換しました。例年のように一同に介する研修会をZoomで行うことも検討しましたが、「全職員が研修会に参加し、意識を共有させた上で業務への導入、効率化を図りたい」と考えていたため、研修動画の視聴期間を設けて、業務時間内に各自で研修を受けるようにしました。この考えに至った経緯は、毎年、学校の業務等でどうしても参加できない職員が一定数いることを前回の研修会のアンケートから認識していたためです。

web研修会にしたことで思わぬ副産物もありました。例年であれば、五月の時点で場所の確保や日程調整を進めていかなければなりません。web形式のため、研修内容にじっくりと時間を費やすことができました。また、研修会は例年、土曜日開催していたため振替休日が発生していましたが、削減することにも

働き方の多様化の取り組み

1. 働き方の選択（残業なし、短時間勤務、週3日勤務等）
2. 都合に合わせて働く場所と時間帯を選べるウルトラワーク
3. 最大6年の育児介護休暇
4. 副業（複業）の自由化（誰でも会社に断りなく副業可）
5. 退社しても再入社できる育自分休職

サイボウズの多様な働き方

繋がりました。

そして、研修委員と講師のなかわら様と打ち合わせを重ね、次のような概要となり、無事に開催することができました。

四中高研修概要

- ・ 総長・理事長、法人事務部長、当番校事務長挨拶 動画配信
- ・ 「組織に必要な情報共有のコツ」 講演者・サイボウズ株式会社 なかわら様 動画配信
- ・ 各校グループワーク・発表まとめ 九月に各校でグループワーク・まとめ
- ・ アンケート回収 十月
- ・ 講演者コメント 十一月

研修会を終えて

研修会が始まるまでは、研修動画の内容が職員のニーズに合っているか不安を抱いていましたが、回収したアンケートからは概ね合っていたのではないかと考えています。また、ポジティブな意見としては、「自分のタイミミングで研修動画を視聴することができると」、「普段から考えている問題点と同じ職場の職員と共有できた」等のコメントが寄せられました。一方、ネガティブな意見としては、「中高職員間の交流という観点からは例年に劣る」や「グループワークで明らかになった課題をどのように解決していくかまで道筋を立てるべき」等です。研修会は無事終わりますが、課題も残る研修会となりました。

web形式での四中高研修会は初めての試みでしたが、各校の事務長や研修委員のご協力のもと、実現することができました。お礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ続きそうですが、どうすればより良い職場環境を整えることができるか、研修会で得たアイデアを継続的に議論していきたいと考えています。

同志社 クローズ・ アップ

第一四六回同志社EVE

第一四六回同志社大学全学EVE実行委員会 委員長 神崎龍太

二〇二一年十一月二十六日(金)〜二十八日(日)に屋内無観客とオンラインの並行による第一四六回同志社EVEを開催。今年度の同志社EVEのテーマは「青春奪還」に決めました。

このテーマには、新型コロナウイルスの蔓延によつて失われた青春を、同志社EVEを通して取り戻してほしいという想いを込め、決定しました。新型コロナウイルスの影響で大学生活も私生活も一変。友人と遊びに行けないだけでなく、今までのように大学に入構することすら出来ない。この時、自分たちの暮らしはどこか不完全燃焼だなと感じました。大学生も高校生も同じで、「引退試合、引退ライブが無くなった」というのはよく耳にしました。それならば、失われた青春のひとつときを、同志社EVEを通して取り戻してほしい。この想いから「青春奪還」というテーマに行き着いたのです。

大学にステージを設けパフォーマンスをする同志社EVEの舞台は、団体内での発表とは意味合いが大きく異なると参加団体の方から聞いていました。昨年、引退ライブや同志社EVEで発表できなかった分、無観客であっても自分たちがパフォー

マンスを行い、そして発信することに意味があると考えました。パフォーマンスを終え、満足気な雰囲気に参加団体の人たちを見て、嬉しさを覚ええました。演奏やダンスを見ていると、発表者たちの今までの練習風景などが浮かび、発表の瞬間はもちろんです。EVEを迎えるまでの日々こそが彼らの青春なのだと感じました。この時、同志社EVEが彼らの青春の一部になったのだと実感できました。

今回の開催でこだわったことは「参加団体の満足度を高めること」です。同志社EVEが多くの団体にとつての活動の発露の場になることが望ましいですが、新型コロナウイルス感染症の影響で以前のように出店を行うことはできません。そのため参加団体数を求めるのは難しい。参加してくれる人たちにとつて特別なステージを創ろうと、話し合いを通して参加団体の理想を形にできるよう努めました。

昨年と大きく異なるのはEVE開催期間に大学内で活動できたことです。昨年は動画を配信するのみだったため団体員もEVE実メンバーも各自自宅で過ごしていました。今年は大学構



内で活動をすることで、従来の同志社EVEを知らない一、二年次生に少しだけですがEVEを知ってもらうことができました。このまま消え去ってしまいそうだった創立記念行事の同志社EVEを未来に継ぐことが出来たのはよかったです。ステージを作り上げるうえで、昨年からの引き継ぎができたため、EVE実と団体が協力し、二人三脚で作上げたステージだと感じています。団体とEVE実が手を取り合う姿には感動しました。

しかし、多くの反省点も見つかりました。初の試みで準備段階ではうまくいっていた配信が本番ではネット接続が途切れることが続いてしまったこと、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催形態とルールを変更したことを丁寧に説明したつもりでしたが、いきわたっていないことでは迷惑をかけてしまいました。また、しっかりと大学側と協議し、他のイベントを参考にした結果、関係者以外の立ち入りを認めない形での開催を選ばざるを得ませんでした。有観客での開催が出来なかったことは一番のダメージでした。人数制限や事前予約制などの方法を用いて、有観客での開催を目指していました。なぜなら、生で見ると画面越しに見るステージ上の彼らの姿はやはり違うからです。生で初めてわかる迫力や感動を多くの方々に見てもらいたかったです。

大学に学生が集い全力で楽しめる同志社EVEがいつの日か戻ってきてほしいと願うとともに、今回の経験で得た配信やオンライン企画も継続して行い、コロナ以前よりもパワーアップした同志社EVEになることを願っています。



良心館階段装飾

同志社 クローズ・ アップ

同志社国際学院一〇周年記念式典報告

国際学院チャプレン・初等部宗教科教諭

いしかわまゆみ
石川眞弓

二〇二一年に同志社国際学院（通称DIA）は、創立一〇周年を迎えました。そのことを祝い、十一月十九日には同学院内のチャペルで記念式典が行われました。

第一部 記念礼拝

西村孝次教頭司会のもと、DIA有志アンサンブルのオーケストラ演奏で式典の幕が開けました。

一同が最初に歌った讃美歌は「Our Father」で、これは日本語の「主の祈り」（イエス・キリストが人々に教えられたと聖書に記されている祈り）に初代音楽教員がメロディーを付けたものです。今も礼拝時にずっと歌い継がれています。

校長の式辞を始め、総長・理事長、大学長、きずな会（保護者の会）会長と全ての来賓が日英バイリンガルで祝辞を述べられました。

祝辞の後は作詞が初代校長、作曲が著名なシンガーソングライターである小椋 佳氏という豪華な校歌を、Diamond Choir（保護者のゴスペル合唱団）の皆さんが歌ってくださいました。

依然コロナ禍の影響で讃美歌以外の楽曲は全て音源を用いての参加でしたが、この式典を覚えて多くの方々がご協力くださったことに、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

同志社国際学院10周年記念
同志社国際学院 10th Anniversary



当日のプログラム表紙に採用された絵は、卒業生の保護者が制作したものです。

第二部 講演会

式典の後半は、元プロ野球選手の藤川球児氏と、藤川氏の大リーグ時代に通訳を務めておられた新川諒氏による講演会が行われました。藤川氏は本校卒業生の保護者であり、新川氏は同志社国際中学・高等学校ご出身です。

お二人が登場すると一瞬、会場は興奮の渦に巻かれましたが、講演が始まるとすぐに子どもたちは緊張した面持ちで姿勢を正しました。

壮大な「夢」を

まずは藤川氏から、「夢」をテーマに語っていただきました。「皆さん、自分の名前を大事にしてください。僕も自分の名前の『球児』の通り、子どもの頃の夢は野球選手でした。」

「『目標』は、例えば目の前の試験などに向けてがんばることで、『夢』の手前で叶えることのできるもの。それに対して『夢』は、手の届かないような遠いところに目標を掲げることです。」

「『夢』が叶うのは、不幸なことかもしれない。叶ったとたん『夢』は終わって現実になるから。現実には結構苦しいですよ。でもそれなら、今度はまた別の『夢』を作って追いかければいい。君たちには、できるだけ壮大な『夢』を持つてほしい。」

藤川氏はご自身の経験と重ねて、どのようにに壮大な夢を実現すればよいかをわかりやすく話されました。

「夢の無い人は、まずは探すことから始めてください。USJに行く時は、どんな方法で行くか調べるよね。それと同じこと。」

「次は現地に行ってみることに。行つた所が職場になるかもしれない。僕は高知から初めて甲子園に来たが、そこが職場になった。日本の野球が世界一だと思つていたけど、二〇〇六年のWBCでアメリカに行つた際、ここで仕事したいなあ、と思つた。そうしたら、その夢が叶つた。自分の好きなもの、得意なもの、自分が決められるんだよ。君たちはそのために今、学校にいるんだよ。」

熱く語る藤川氏の講演に、子どもたちは目を輝かせて聞き入りました。

「この学校に入れたお父さん、お母さんの気持ちを考えてみてほしい。」

「日本ハムの新庄



「今は、70歳の自分の姿を思い浮かべる。今後の人生は、世の中や家族へのお返しです。」(藤川氏)
 「辛い時でも、これが将来面白い話になる、という視点が大事です。」(新川氏)

新監督は、DIAとイメージが重なる。みんなも新しい風を吹かせる人になってほしい。」

と、最近話題のニュースも取り上げてお話しされました。きつと子どもたちも、この学校にいることを誇りに思つたに違いありません。

続いて藤川氏はお話の中で、夢を叶えるために必要な事柄を考え、それに向けてアクションを起こすことの大切さを強調されました。

新川氏は、同志社国際中高在学時代に「責任ある自由。」といつも言われたことが脳裏に刻まれ、今の仕事にも繋がっていること、藤川氏の大リーグ時代に通訳をされた経験から「選手でなくてもスポーツに関わる仕事ができる。」ことを、子どもたちに紹介されました。

優しい大人に

講演会の後半は、藤川・新川両氏の掛け合いでお話が進んでいきました。子どもたちからの質問を中心にお二人の経験を語つていただいたひと時は、本校にとって珠玉の時間となりました。現在の夢を尋ねられ、藤川氏は次のように答えられました。

「七〇歳になった時の自分を考えることです。小学校から四〇歳までは野球選手として過ごしていたが、これからの三〇年は世の中や家族に対してお返しをしようという期間です。」

講演の最初に「いろいろなことを経験して、優しい大人になってください。」とおつしやつた言葉を思い出し、深く頷いた次第でした。

同志社 クローズ・ アップ

北海道富良野における地域連携型学習

女子大学 現代社会学部社会システム学科 教授

あまの たろう
天野太郎

一..はじめに 同志社女子大学における

北海道の地域連携学習

ラベンダーや『北の国から』といったドラマの舞台など、新しい観光資源を持続的に生み出してきた富良野。一九七〇年代までは人々がその名を知ることもしなかつた富良野は、現在では地域ブランド調査で全国第一〇位（二〇二一年）と日本を代表する観光地であるばかりでなく、まちづくりの先進的な地域としても知られています。ここではその観光資源の多くが地域住民自身によって創出されたものであることが重要で、「地域力」が地域の魅力となり、持続的に富良野地域に人々が魅せられてきました。

そうした富良野で、大学生の視点からまちづくりを学習し、学びの成果を地域の方々と交流し発信していくことを念頭にしたプログラムが、二〇〇五年から同志社女子大学現代社会学部社会システム学科で始まった地域連携型学習プログラムです。本学科では設立以来、実際の社会で学ぶフィールドワークを重視し、まちづくりやビジネス、福祉や法律など多岐にわたる分野から実践的な学びを進めてきました。ここでご紹介するプロ

グラムもその一つで、観光を切り口としながらも、高齢化や環境問題など様々な地域課題について取り組む授業プログラム「プロジェクト演習」として、一五名の学生が約一〇日間の現地学習を中心とする通年授業を実施しています。

二..あたらしいプログラムの要素—

持続可能なまちづくりへのまなび

このプログラムでは、当初は日本におけるラベンダー観光の嚆矢であるファーム富田（中富良野町）や、脚本家倉本聰氏の『北の国から』に代表されるドラマのロケ現場をはじめとした「聖地巡礼」としてのフィルムツーリズムなど、観光面での学習を中心としてスタートしました。しかし、この富良野地域のNPO法人第一号もこの地であることに象徴されるように、住民主体のまちづくりという点でも先駆的な場所です。そうした点に注目し、かつ地域の方々の協力も得ながら、地域と連携した様々な学びのプログラムを進めてきています。

その一例を挙げると、東京大学北海道演習林における学びが挙げられます。富良野においては、東京大学演習林の国有林払い下げにより、地域開発が行われてきた歴史を有しており、演

習林における持続可能な森林資源の保全と活用事例や生物多様性について学習してきました(写真1)。また、観光資源についても、地域住民のアイデアから持続的に新しい観光資源を生み出しています。地域の食材を活かした「富良野オムカレー」には地元の高校生が参画するなど、多世代にわたる住民が主体的に地域の魅力を持続的に創出してきており、農林水産省大臣賞受賞(二〇一六年)など高い評価を受けています。そうした地域の取り組みについて本学学生も現地で参画させていただきながら、京都に招待し本学の学祭でも大学生・高校生が協同で発信する学びも実践してきました(写真2)。

三.. 地域との交流と学習成果の発信

この授業プログラムにおいて最も重視してきた点は、地域社会との交流と、学生が思考した成果を発信し、双方向型の交流を展開していくことです。インスタグラムを活用した観光や、廃校後の小学校の活用方法など地域行政への具体的なプレゼンテーションを行い、学生の「顔」の見えるにくいレポートとしてだけでなく、市政や観光産業に関わる方々のみならず、広く一般市民の方々にも市民会館や市街地中心部の商業施設などのオープンな場で報告会を開催し、さらにはラジオ番組にて、学生



(写真2) 学園祭での高校生・大学生協同での食文化の発信



(写真1) 東京大学演習林での自然学習

たちの生の声を編集・発信する番組制作も行ってきました(写真3・4)。学生たちの若くしなやかな着眼点は、地域の方々にとって新鮮なものとして、かつ大学生の受け止め方を知っていただく良い機会になっていくと感じています。特に中富良野町では、町長、町議会はじめ多くの関係者に提言をさせていただき、近年話題となっているワーケーションの政策の中にも大学の存在を反映していただくことができました。二〇二〇・二一年度はコロナ禍の中で学生の現地訪問は叶わなかったものの、レポートでのワークショップの開催や学生の学びの発信など、諸制約の中で新しい形での学びのかたちも実践してきました。

観光地域という京都との共通性を持ちつつも、中心市街地の活性化に関する課題や、急速に進行する少子高齢化についても、富良野地域は京都よりも一歩先にこの危機に直面してきています。また二〇一七年度の国土交通省まちづくり大賞に選ばれてきたように、富良野はまちづくりという意味においても先進的な取り組みを続けてきました。これからも地域の諸課題を大学生が住民と共に考え、地域社会と交流し学び合うことができるフィールドとして、これまでの一六年間にわたって蓄積してきた学びのバトンを繋ぎながら、持続的な地域連携型の教育活動を進めていきます。



(写真4) ラジオを通じた学習成果の報告



(写真3) 地域課題についての学生の提案会

同志社 クローズ・ アップ

「英語スピーキング」における授業実践報告

女子中学校・高等学校 教諭

市川良大

はじめに

二〇二一年度からの新しい中学校学習指導要領の実施に合わせて、本校でも中学一年生において新カリキュラムでの授業がスタートしました。英語科では新たに、週一時間「英語スピーキング（以下、英語S）」の授業が新設され、日本人教員と英語のネイティブスピーカー教員のチームティーチングが進められています。その名が示すとおり、この授業では英語を話す（やりとり・発表）力を育成することを目標としています。評価は主に提出物と定期試験のタイミングに合わせて行う発表や実技テストをもとにしてつけています。本稿ではこの英語Sの授業での取り組みについて二つ紹介させていただきます。

Q and A練習（「やらう」S活動）

英語でやりとりする力を育成する活動として、英語Sの授業ではQ and Aの活動に以下のような流れで段階的に取り組んでいます。

- 一、疑問文に一文で答えられるようになる
- 二、疑問文に新しい情報を付け足して二文で答えられるようになる
- 三、疑問文に二文で答えた後、関連する質問を相手に返すこと

ができるようになる

練習に使用する疑問文は定期試験のタイミングで変え、既習の内容とその時点で学習している内容の両方が練習できるようなしています。また、より自然なやりとりになるように、相手の言ったことに反応するための表現（I see. / I think so too. / I didn't know that. など）や、一般的な言葉（Well. / Let's see. / You know. など）も紹介し、積極的に使用するように促しています。

二期期には、Q and Aの口頭面接テストを実施しました。テストでは、緊張のせいもあってか、多少の間違いは見られたものの、各自で練習にきちんと取り組んだことがわかる生徒が多かったです。

また、このQ and Aの練習を発展させる形で一分間会話を続ける練習にも取り組んでいます。この練習に取り組む際には、

Q and A練習のプリント

「完璧な英語である必要はないので、安易に日本語に逃げず、片言でも英語でやりとりを続けようとするのが大切」と指導しています。まだまだ会話をうまく続けるために必要な英語の知識そのものが不足しており、どの生徒も会話を続けるのに苦労しているのが現状ですが、まずは英語でやりとりする楽しさや伝わったときの喜びを体感してもらえればと考えています。

スピーチ「発表」の活動

英語Sの授業は、一人一台持っているiPadも活用し、さまざまな口頭練習を通して学習内容の定着を図り、運用能力を高めることを目指しています。一学期期末と二学期期末はそのまとめの活動として、以下の手順でスピーチ発表を行いました。

一、提示された条件に合わせてスピーチ原稿を作成する

例) 二学期期末スピーチの場合

次の(一)～(三)の条件に合うように十～十二文でスピーチの原稿を作成すること。

(条件)

(一) 自分以外の他者(家族・友人・有名人など)について写真やイラストを見せながら紹介。

※三単現のsを使用した文を必ず入れること。

(二) 一人の人物に関係のある過去の出来事について過去形を使用して紹介、感想もあるとよい。

(三) (一)、(二)の出来事に関係する写真やイラストを示し、現在進行形を使用して、何をしている場面かを説明する。

二、日本人教員、ネイティブ教員の両方でスピーチ原稿を添削する

三、プレゼンテーションアプリのKeynoteを使って、iPadで発表スライドを作成する

四、四人グループでスピーチ発表を行う(グループのメンバーを変えながら、複数回発表)

五、iPadの画面収録機能を使って、家庭でスライドに合

わせてスピーチを録音したものをGoogle Classroomへ提出させて担当者二人が採点する

こちらの予想以上に生徒はKeynoteを使いきなし、レベルの高いスライドを作成していることに驚きました。肝心のスピーチはまだまだ練習不足の生徒も見られますが、一学期の発表での反省を生かし、二学期は自分なりに改善をして発表に臨んだ生徒も多くいました。グループを変えて複数回発表することにより、自分が段々と上手に話せるようになっていくことを実感できた生徒も多かったです。また、上手にスピーチをするクラスメイトの姿を見ることにより、自分ももっと上手に発表をしたいとモチベーションを高める生徒もいたようです。

おわりに

以上、本稿では英語Sの授業における二つの活動について紹介させていただきました。今年度新たに始まった授業のため、担当者自身、試行錯誤を重ねながら授業を進めてきました。まだまだ課題も多く、例えば、英語のアウトプット能力を高めるのに不可欠な十分なインプットの量を確保するための取り組みの必要性を感じています。また、学年が進むにつれて学習内容が難しくなっていく中で、生徒のモチベーションを下げずに進めていくためにも、こちらが提供できる活動のバリエーションを増やしていきたいとも考えています。今後もこのような課題に一つ一つ取り組みながら、生徒の英語での伝達意欲を高められるような授業づくりを研究し、生徒の話す力の更なる育成を目指していきたいと思えます。



スピーチ発表の様子

同志社 クローズ・ アップ

二〇二二同志社クロバー祭 〜オンライン開催二年目のチャレンジ〜

大学 京田辺校地学生支援課

同志社クロバー祭の運営を担う二〇二二年度クロバー祭実行委員会は、統括及び各班のリーダーたちによる積極的な勧誘活動の成果により、昨年度より三〇名ほど多い、総勢約一〇〇名のスタッフでスタートしました。

各班のスタッフは、二〇二一年の三月頃より二〇二〇年度は実現できなかった対面での開催に希望を抱きつつ、新型コロナウイルスの感染状況も踏まえ、対面とオンラインのどちらの要素も取り入れた様々なコンテンツの検討を進めながら春学期を過ごしていました。

しかし、八月二十日に緊急事態宣言が発令され、スタッフ同士が集まって準備を進めることができなくなり、全体の活動も次第に停滞せざるを得なくなっていました。感染状況が芳しくないまま、緊急事態宣言が九月末まで延長することが決定さ

れたことを受け、クロバー祭は全面オンラインでの開催に切り替わりました。さらに例年、同時開催している京田辺市民まつりも開催延期となったことから、改めて全面オンラインでの開催に向けて企画内容を見直す事態となりました。

そのような中でも、統括や各班のリーダーを中心に新たな企画などを考えつつ、二〇二〇年度も制作した京田辺キャンパスをバーチャル空間の中で再現するCGMの制作にも着手し始めました。一方で、オンライン開催への変更によつてメンバーの士気が損なわれないよう、スタッフ同士が様子を見ながら声を掛け、励まし合う様子が見られたことで、私たち学生支援課職員においても一安心することができました。

十月三十日の開催当日までは非常に慌ただしい日々を過ごすことになりましたが、各学部及びキリスト教文化センターの協力

により無事、学部企画が開催できる運びとなり、学生団体のス
 テージ動画や謎解き企画などの実施に向けて取り組むことがで
 きました。また、京田辺市との親交企画として将棋企画を実施
 しましたが、対面では実現しなかった北海道や東京都など、遠
 方の参加者との対局が実現するなど、オンラインならではの良
 さも見出すことができました。

二〇二一年度も新型コロナウイルス感染症によって、学生も
 学生支援センターも非常に大きな影響を受け、また多くの困難
 にも直面しましたが、あきらめず開催直前まで準備を進め、悩
 みながらも無事開催できたことに安堵しています。今年度も、
 この二年間の経験を活かし、どのような開催形態になったとし
 ても柔軟に対応しながら、学生ならではの視点で様々な工夫が
 ちりばめられたクローバー祭を創り上げていつて欲しいと願っ
 ています。

同志社クローバー祭2021

10月30日(土)12:30~10月31日(日)17:00

You出演しちゃうよ!

推しメニューグランプリ

2021年10月30日(土) 10:30(MON)~10:30(SAT)

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 147 | 130 | 121 | 112 | 96 | 38 | 647 |
| 182 | 200 | 187 | 154 | 170 | 12 | 952 |
| 34 | 33 | 345 | 277 | 346 | 104 | 778 |

同志社生活部 × 同志社クローバー祭

オープニングセレモニー



きつぱれっと



同大謎解き



学食インタビュー



アーティスト企画・お笑い芸人企画



【学部企画】同志社大学ってどんなところ?



Job Huntingの勧め



抽選企画



福島親交企画動画



バーチャル京田辺キャンパスcluster



京田辺親交企画将棋大会



同志社クローバー祭2021の様子

同志社 クローズ・ アップ

生活・社会と結びついている数学

中学校・高等学校 教諭

そのだつた
園田毅

〈はじめに〉 ～実社会との関連性を感じられない数学の授業～

新学習指導要領（中学校二〇二二年度）は、「予測が困難な時代」を迎える子どもたちに身につけてほしい力を求めています。数学に関しては、PISA、TIMSSの学習調査で、残念ながら日本が他国に比べ子どもたちが数学を学ぶ楽しさや実社会との関連を感じられない割合が高いこと（調査対象六四・六五ヶ国ではば最下位）が学習指導要領解説【数学編】に明記されました。（詳細は国立教育政策研究所のHPでご覧になれます。）つまり、大人や子どもたちの数学への苦手意識は個人の資質や責任に帰するものではなく、教える側の授業デザイン、授業スキルの改善が必要ということを示しているわけです。

本稿では、学習指導要領が重視している「日常生活や社会の事象に関わる問題発見・解決」に関する三つの実践事例をご紹介します。

〈地球温暖化を関数で考えてみよう！〉

実際にあるデータを生徒自身が扱い、数学が生活や実社会と結びついていることを伝えられます。正比例関数の授業で、地球温暖化を教材として取り上げた授業を紹介します。

気象庁HPのcsvデータをExcelでダウンロードして、直

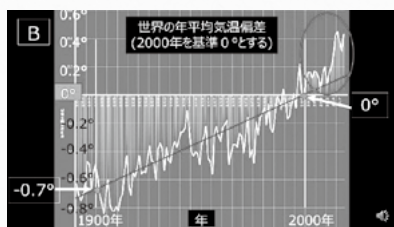
線グラフ（二〇〇〇年をx=110年、気温（偏差）y=110°Cとした正比例関数）を作成しました。（直線は園田が近似したもの）

（図）

この授業では、関数の学習をしながら、一八九一年からの世界の気温変化（偏差）を知ることになります。そして、二〇〇〇年からはさらに気温上昇の度合いが増えています。（図右上の部分）このまま気温上昇が続くと世界がどう変わっていくのかNHK作成の映像「二〇五〇年の天気予報」を授業で見、関数学習の内容とともに地球温暖化についての意見も書いてもらいました。

〈どこでも視力検査〉

いわゆる「C」の形をしたランドルト環を用いた視力検査を利用した比例関数のグラフの導入です。（写真）直径七・五mmのランドルト環を五m離れた切れ目を見分けたら視力一・〇、一〇m離れて見分けられたら視力二・〇というふうに、ランドルト環からの



距離と視力は比例しています。この実験を行い、距離と視力のグラフを書き、棒グラフから関数のグラフへの変化を説明しました。また、比例の定義が「一方が二倍、三倍になれば、他方も二倍、三倍になる」という表現から「入力(x)の○倍したものが出力(y)」となるような二数の関係」でもあることを見つける正比例概念の確認にもなります。

例年の授業では、直径七・五mmのランドルト環を黒板に貼りつけて教室内で視力測定の実験を行っていましたが、昨年は密を避けて屋外で行いました。ランドルト環の写真(上下左右に切れ目のある四枚)を生徒のiPadで実際に見えるように配信し、二人一組でiPadを持つ人は四枚のうちの一枚を見せます。もう一人はiPadから離れたり近づいたりして、切れ目が区別できる距離を測り、自分の視力を求めました。(写真)

以下に感想を紹介いたします。

「視力検査は僕が思っているのと全然違うやり方で、こんな測り方もあるんだなと思いました。」

「視力検査が比例、関数を使ったら家でもできるのがすごいと思いました。」

「今まで関数は自分には関係のないものだと思っていたけど、身近にあることは大きな発見」



〈地球の大きさを測ろう！〉

正比例の関係(関数)を使って、エラトステネスや伊能忠敬が地球の大きさ(子午線一周の距離約四万km)を計算したことを追体験する授業をしました。二人は経度の等しい南北二地点間の距離と緯度の差を知って、地球の大きさを計算しました。偶然、本校のキャンパスはほぼ南北に二〇〇数十メートルの道路が走っていて、この実験に適しています。生徒の皆さんは、教室で自分の一步の幅を測り、伊能忠敬同様、実際にキャンパスを歩いてその距離を測りました。緯度の差は実に七秒(一秒は一度の三六〇〇分の一)です。これは実測できないので、Google Earthを使って求めました。キャンパスを歩いた後、教室で地球一周の距離を計算で求めました。二割程度「小さな地球」になる生徒さんが多かったのですが、逆に言えば、この実験でも実際の八割程度(三万数千km)の精度で算出できます。

〈数学は「抽象性」に意味がありますが…〉

本稿では、正比例関数の授業をご紹介しました。仮に、高校の数Ⅱあるいは数Ⅲ、または象徴的に「オイラーの等式」を中等教育段階での数学の「ゴール」だとすると、もちろん抽象的概念を理解する必要のある場面がいくつか出てくるのですが、抽象的概念の前提として具体的な事象があるはずです。例えば、「速さ」から「微分係数」が考えられるように。ところが、日本の数学教育では、「その具体的な事象を外しすぎて、ゴールにたどり着く前に数学から離れ、日本の数学教育を受けた多くの大人、学生、生徒が数学に苦手意識を持ってしまいい、実社会との関連性を感じられない割合が高いのではないかと推察しています。

今後、研鑽を深め、自分の「引き出し」を増やして、数学好きを増やす学びを作っていきたいと思えます。

同志社 クローズ・アップ

同志社創立一五〇周年記念イベント Doshisha New Dayが開催される

法人事務部 創立一五〇周年記念事業事務局

Doshisha New Dayの様子

二〇二一年十一月二十九日に同志社創立一五〇周年記念イベント「Doshisha New Day」が開催されました。Doshisha New Dayとは、「同志社の未来をつくるための特別な一日」のことです。今年には新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、Zoomウェビナーによるライブ配信で実施し、視聴者総数は約三〇〇名でした(録画を創立一五〇周年記念HPからご覧いただけます)。

同志社未来創造プロジェクトの石川眞弓氏(同志社国際学院初等部・国際部教諭)の祈禱に始まり、同志社未来創造プロジェクトリーダーの横井和彦氏(同志社小学校長)による開会の辞、八田英二同志社総長・理事長の挨拶と続きました。八田総長・理事長は挨拶の中で、「同志社創立一五〇周年記念事業を通じて一四の学



校の連携をより深めることで、同志社の更なる飛躍を目指していきたい。また、多くの皆様がこの記念すべき事業に楽しみながら参加し、協力いただけることを願っています」と述べられました。

次に、同志社創立一五〇周年記念ロゴマークの発表と考案者の表彰がありました(受賞者一覧をご覧ください)。ロゴマークは『口絵』に掲載されています。このロゴマークの使用を希望される場合は、創立一五〇周年記念事業事務局までご連絡ください。

続いて、元同志社大学神学部教授の本井康博

| 表彰 | 応募者氏名 | 所属 |
|------|-------|-------------|
| 最優秀賞 | 松井美野 | 同志社中学校二年 |
| 優秀賞 | 山内睦雄 | 一般(フリーランス) |
| 優秀賞 | 宮垣有希 | 同志社香里高等学校三年 |
| 優秀賞 | 永田博 | 一般(フリーランス) |
| 優良賞 | 上原亜優美 | 同志社女子高等学校二年 |
| 優良賞 | 森島実優 | 同志社大学法学部三年 |
| 優良賞 | 吉川衣咲 | 同志社女子高等学校一年 |
| 優良賞 | 山本眞衣 | 同志社香里高等学校三年 |
| 優良賞 | 飛野達 | 同志社大学職員 |
| 優良賞 | 小泉円 | 同志社女子大学職員 |
| 特別賞 | 高橋瑛和子 | 同志社小学校一年 |

同志社創立150周年記念ロゴマーク表彰者一覧(2021年11月29日時点)

氏が「志を継ぐ―新島襄の同志《小新島》たらん―」という演題でミニ講義を行い、「同志社が持続可能な学園であり続けるためには、新島の志を継いでいく小新島をたくさん輩出していく必要がある。同志がいるからこそ、同志社である。私たち一人ひとりが新島先生の志を継いでいくことが大切である。Doshisha New Dayを、新島先生の志に気づき、新しい一歩を踏み出す一日にしてほしい。」と述べられました。その後、同志社の学生、生徒とのディスカッションが、工藤尚子氏（同志社香里中学校・高等学校教諭）のファシリテートにより行われ、活発な質疑応答が行われました。

続いて、卒業生と学生によるパフォーマンスがあり、まずシンガーソングライターの伊藤誠氏（一九七六年同志社大学商学部卒業）から「あなたの愛がとめどなく降りそそぐ、新島襄先生に捧ぐ」というオリジナルソングの披露があり、優しい歌声が会場に響き渡り、新島先生への熱い想いが心に沁みました（歌は創立一五〇周年記念HPから聴くことができます）。次には、同志社香里高等学校ダンス部によるパフォーマンスの映像が流れました。

最後に会場にいる全員でカレτζソングを歌い、プログラムを終えました。

現在進行中のプログラム

現在、進めている三つの企画を簡単に紹介いたします。

一件目は、同志社国際学院初等部・国際部の石川眞弓先生が「同志社・新島かるた」の制作を進めています。同志社国際学院初等部六年生の皆さんが、絵札の絵を描きます。その絵を、同志社大学漫画研究会の学生がリライトします。二〇二二年六

月ころには同志社エンタープライズより販売予定です。同志社や新島襄のことを、このカルタ遊びをしながら学ぶことができるようになればと願っています。

二件目は、同志社オリジナル賛美歌です。同志社ではすべての学校で礼拝を行っています。賛美歌を聞くと、同志社での学生時代を思い出すという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。幼稚園から大学生、卒業生まで一緒に歌うことができます。同志社独自の賛美歌を制作します。作曲は、同志社女子大学学芸学部音楽学科の教員にお願いしています。まずは歌詞を公募することから始める予定です。公募要領などは創立一五〇周年記念HPに掲載しています。

三件目は、一貫教育探求センター所長の大久保雅史教授による同志社内各学校の時代を超えたキャンパス映像を制作し、二〇二五年には全同志社のキャンパスをバーチャル空間で再現するという企画です。過去、現在、未来のキャンパスをVR技術で再現することで、現在通っている学生のみならず、卒業生が通ったキャンパスをバーチャル空間で経験できるようなシステムの構築を図ります。

学生、生徒の皆さんや卒業生の皆様から創立一五〇周年記念事業を盛り上げるための企画を募集しています。多くの皆さんと一緒に周年事業を盛り上げていければと願っております。

（同志社創立一五〇周年記念募金）

同志社内各学校の募金事業の総称として「同志社創立一五〇周年記念募金」の名称で、募金をお願いしております。詳しくはHP (<https://bokin.doshisha.ed.jp/>) をご覧ください。

同志社 クローズ・ アップ

issue+designによる講演・ワークショップ 文部科学省WPLプログラム「SDGs #11住み続けられるまちづくり」を指して

国際中学校・高等学校 グローバル教育研究委員会委員長・社会科教諭

ちようさ かおり
帖佐香織

本校は二〇二〇年度文部科学省により、WPL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業開発拠点校に採択され、グローバル教育研究委員会の教員を中心として様々な教育実践を行ってきた。SGHの時からのことですが、この様なプログラムで私が大切にしていることの一つに、社会の問題の複雑さを理解したうえで、自分たちが社会を変える、つくっていくことができるというところに、生徒たちに気づいてもらおうということがあります。本プログラムにおいて設置したSustainable Society Study（高一、必修科目、以下S.S.S.と表記。）、Sustainable Society Research（高二）、Sustainable Society Design（高三）の全ての科目を、教科の異なる教員がチームティーチングで担当するとともに大学の先生や国際機関、企業などに協力をいただきながら進めています。

昨年度は、新たな試みの一つとして、「社会の課題に、市民の創造力を」をテーマとする「issue+design（特定非営利活動法人イシュープラスデザイン）」ディレクター小菅良太氏によるSDGsでの講演、希望生徒対象のワークショップを実施しました。講演では、SDGsとイシューマップについてお話していただきました。イシューマップは、「issue+design」が開発した、SDGsの一七のゴールをそれぞれ独立したものとしてとらえずに、課題のつながりをとらえ、「包括的アプローチ」で解決するために活用できるツールであり、円の中に五五のあらゆるイシュー（課題）が示され、目標を一一七の数字順でなく「人間性」「経済」「心身」「環境」の四分野に再配置したものです。また、講演後には、希望者を集めてSDGsカードゲームワークショップを実施しました。生徒たちは、仮想のまちでの役割

や目標、それぞれの持つ資源やまちの予算、「人口」「経済」「環境」「暮らし」といったまちの状況を表す指標についてや、自分たちの行動次第でまちを動かすプロジェクトが実施されたり、それぞれの指標が動きまちの様子が変化していくというルールについての説明を受けると、ゲームに取り組みました。生徒たちはほとんどゲームに引きこまれていき、ゲームが終わる頃には自分たちのまちをバランス良く豊かにするという共通の目標のために情報共有し、できることを全てやるという姿勢が見えるようになりました。

生徒の振り返りには、「まち全体を良くするには、必ずしもギブアンドテイクの関係ではなく、困った人がいれば、また皆の幸せにつながるなら、相手に譲る選択ができることが大事」、「自分たちの行動がまちを変えろという実感を得られ、ゲームを進めるうちに個人のミッションの達成を重視するよりもまち全体の目標に目を向けられるようになった。」「お金を寄付するようになると地域が良くなる。」といったものがあり、高校生がこのような気づきを得たことに、カードゲームを全国各地で何度も行なってきた小菅氏も驚かれました。私自身も、生徒たちの主体的に考えて行動を変えていく姿勢から「あえて科

学や文学の知識を学ばせるだけでなく、並行して知識を活用する品性と精神とを養成したい²」という新島先生の言葉を思い出し、少し嬉しい気持ちになりました。この後、同志社大学のご卒業でもある京田辺市長上村崇氏の講演をいただくなど、生徒たちの学びは続いています。

1 issue+design は、「社会や地域の課題を市民の創造力で解決し、安心して暮らせる社会が実現すること。それが我々、issue+design が目指す日本の未来像です。主役となるのは、デザイナーの専門家、ではありません。一人一人の生活者です。」

「市民を救えるのは、市民の力。」(<https://issueplusdesign.jp/about/>)として、市民が主体となり社会課題の解決を目指すプログラムを開発、実践している特定非営利活動法人であり、SDGs de 地方創生カードゲームと書籍『持続可能な地域のつくり方』で二〇一九年にグッドデザイン賞を受賞しています。

(<https://www.g-mark.org/award/describe/49746>)

2 「同志社大学設立の旨意」

https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-3615351/file/dosh_set_gendaibun.pdf

同志社 クローズ・ アップ

同志社小学校『道草教育×SDGs』六年生の取り組み 教科を超えた広がりのある学習から私たちにできる一歩へ

小学校教諭

わたなべのぶゆき
渡辺信行

はじめに

最近、少し意識して街を歩いていると、必ずと言ってよいほどSDGsのマークを目にします。教室で尋ねると、やはり多くの子ども達が見たことがあるといいます。具体的に聞いてみると、ジャケットに付いているバッジ、バスやタクシー、工事現場、清掃車、チラシや新聞の広告など、実に多岐にわたる場所で子ども達は目にしていました。SDGsが、リサイクルや環境保護と関連があることは知っていますが、その意味を詳しく理解している児童は少ないように思われました。

道草教育×SDGsスタート

本年度より、同志社小学校と京都ユネスコ協会が連携して、SDGsに向けた取り組みを行うことになりました。そのスタートとして、五月三十一日に京都ユネスコ協会常任理事の江木恵理子氏をゲストティーチャーとしてお迎えし、ユネスコやSDGsについて学ぶ機会をもちました。江木先生



京都ユネスコ協会常任理事の江木恵理子氏による特別授業 2021/5/31

の優しくも熱い思いが込められたお話は、子ども達の心に強く訴えるものがありました。授業の中で、京都ユネスコ協会と同志社小学校の教員で作成したオリジナルの「SDGsパスポート」を一人一人に配布しました。(その様子は六月十一日(金)の読売新聞朝刊に掲載されました)。そして、私たちが二〇三〇年までにSDGsの目標に向けて取り組むことの大切さを知り、「小学生の自分たちにもできることを見つけないか」と、意欲的な姿にこちらが驚きを隠せないほどでした。

平和の鐘を鳴らそう〜長崎への修学旅行

八月九日、長崎への原爆投下の日、「同志社小学校×京都ユネスコ協会・SDGs事業」の一環として、『平和を祈る集い』を開催しました。会場となった同志社大学礼拝堂には六年生の有志が集まり、宗教委員の児童による司会のもと進められました。宗教科の中川教諭からは、長崎原爆投下における悲惨な状況や核兵器禁止条約についてのお話があり、戦争の悲



同志社大学礼拝堂にて行われた『平和を祈る集い』2021/8/9

修さを学びました。そして、長崎に原爆が投下された十一時二分、鐘の音を聞きながら静かに黙祷を捧げました。最後に、京都ユネスコ協会の相大二郎会長より、戦争体験を交えた貴重なお話をしていただきました。現地参加に加えてZoomでも多数の児童が参加し、七十六年前の戦争を振り返り、平和を守っていくことの大切さを考える良い機会となりました。この日の夕方のKBS京都テレビ「Newsフェイス」の中では、六年生二人がインタビューに応じ、「戦争は怖いものだし、これから先絶対にあつてはならないものだと思いましたが」「私たちは平和のために大規模なことはできないけれど、そういうことがあつたということを忘れないでいようと思えました」と答える姿が放送されました。

世界遺産を通じて平和な世界をつくらう

長崎・熊本への修学旅行を目前にした子ども達は、世界遺産検定マイスターとして、多くのテレビ番組でも活躍中の山本・リシャル登眞さんをゲストティーチャーとして迎え、世界遺産の意義と平和について考える特別授業を受けました。山本・リシャル登眞さんは、小学五年生のときに世界遺産検定マイスターを取得され、様々なメディアを通じて世界遺産の素晴らしさや文化を守る大切さを発信されている高校生です。世界遺産に関する基礎知識を美しい写真とともに出題されるクイズに子ども達は大盛り上がり。また、修学旅行の旅程に沿って現地の見どころなどを紹介していただきました。同世代の方の言葉で語られた「歴史を知り、文化を学ぶことが、自分を理解し、相手のことも理解できる心を育てることにつながる」というメ



爆心地公園にて平和祈念礼拝
長崎への修学旅行にて 2021/10/22

ッセージは子ども達の心に残り、世界遺産という切り口から、「文化の多様性を守る未来の担い手となる皆さんが、修学旅行を通じて楽しい思い出と共に多くのことを学んできて欲しい」と語られた山本さんの言葉を受けて、長崎で意欲的に学ぼうとする六年生の姿がそこにありました。

おわりに

太陽の恵みと植物を利用して、ほぼすべての物資とエネルギーを賄っていた江戸時代は、当時、衣食住のあらゆる場面でリサイクル・リユースが行われる完全な循環型社会といわれます。自然と共に、事物を大切に、隣人のことを思いやり生活することができれば、たとえSDGsという標語を掲げなくても、社会はSDGsの精神に向けて動くことができるのかもしれない。

教育を取り巻く環境は、社会と同様にコロナ禍で急激に変わりつつあります。小学生の子ども達もSDGsの目標に向けて真に生きる力を身につけるために、必要な教育活動を引き続き模索していきたいと思います。現在、子ども達は、小学校でこれまでに学んだことを生かして、SDGsに関連した道草研究に各自がテーマを設定して取り組んでいます。この冊子が発刊される頃には、在校生へのポスターセッションも終え、立派に中学校へ進学していることを願っています。最後に、自戒を込めた厳しい言い方にはなりますが、十七の目標を理解し、バツを出す時でなく、私たち大人こそが、新たな一歩を踏み出さないと考えています。



山本・リシャル登眞氏をお迎えして、世界遺産の意義と平和について考える特別授業 2021/10/12

※著者の所属・職名は執筆時のものです。



同朋舎新社
1,760円(税込)
発行年月 2021年10月

「同女の母」 スタークウエザー

—同志社女学校の始まり—
本井康博(もとい やすひろ)
(元大学神学部教授)著

同志社女子中高と同志社女子大学は、母胎が共通であるにもかかわらず、それぞれの始まりは闇の中です。「いつ」、「誰が」、「どこで」開校したのか、謎がありすぎです。私が調べただけでも誕生の諸説は単純ミスを含めて十六通りにも上ります。その結果、女子中高と女子大では、創立記念日に差が出ています。前者は一八七七年四月二十一日、後者は一八七六年十月二十四日。ただなぜか、創立者は新島襄、という点は一貫しています。

本書の意図はこうしたカオスの整理です。その場合のキーパーソンはA・J・スタークウエザー。「同女の母」は、新島八重でもM・F・デントンでもありません。新しい母の永眠に関する消息や場所、日が、ようやく判明したのを契機に、永眠百周年記念日(二〇二二年十月四日)に拙著を急ぎ出版しました。

世界初の評伝出版の一方で、同志社関係者が埋葬地(LA近くのサンデイエゴ)に新たな墓石を建立しました。忘れられた同女の創立者は、帰国百三十八年、永眠百周年にやつと「復活」いたしました。

昨秋には、同志社同窓会が記念集会(栄光館)を、そして女子大史料センターが「スタークウエザーと山本覚馬」展と記念講演会(ジェームズ館)を開催しました。私は講演で、彼女が同志社女学校の初代校長(新島襄は二代目)である事実を今後「拡散」したいと宣言しました。デントン並みとは言いません。顕彰を一過性で終わらせたくはありません。

著者より

新島襄の足跡を辿る 仲間と共に 海外・国内15コース



印刷 株式会社北斗プリント社
頒価 2,000円+郵送料370円
発行年月 2019年11月

田島繁(たじま すすむ)
(元同中教諭)著

私は同大一年松井七郎先生の一般演習で、新島先生の事を初めて知り、級友三人で「同志社精神研究会」を立ち上げた。同精研は「京都・安中15日間徒歩旅行」を実行した。私は参加できず、いつかは…と。同志社教職員組合副委員長でレク担当となった。「新島襄の足跡を辿る」ボストン・アーモスト8日間」を実行した。ガイド役の北垣宗治先生がバスの中でも滔々と新島先生のことを幅広く楽しく語った。退職翌年、「京都・安中365kmウォーク」を松井会、同精研、教え子、仲間達と実行した。その後、脱国の地・函館。

「なぜ同志社は京都に?」。同志社開校の翌年「熊本バンド」が多数入学し、ハイレベルな学校に。吉野の山林王・土倉庄三郎の五千円の寄付申し出で、「同志社大学設立運動」が始動。募金活動で前橋を訪問中、宣教師の接待で高熱を出し、大磯で47歳の生涯を閉じた。

「海外・国内15コース」を仲間達と訪れ、新島先生を偲びつつ楽しく勉強した。北垣先生より「序」を、沖田行司先生より「旅行記の体裁を取っているが、新島研究にとって実に貴重な研究資料も含まれている。このような試みは前人未踏で、今後も登場しないと思う。それだけに貴重な出版だ。読み進めると本当に楽しくなつて、旅情を掻き立てられる。田島先生ならではの大事業だ」と。「15コース」をYouTubeにアップし、一枚のDVDに纏めた。同志社の小中高大でも活用し、新島先生の偉業を広く伝えられたらと思う。著者より ※購入をご希望の方は、同志社大学広報課同志社時報係までご連絡ください。

ふだん着の オックスフォード

白井雅美（うづい まさみ）
（文学文学部教授）著



PHPエディターズ・グループ
1,760円（税込）
刊行年月 2021年5月

『ハリー・ポッター』や『不思議の国のアリス』で観光客に人気があるオックスフォードは、大学の街として知られている。しかし、実際は、大学が設立される以前から現在に至るまで、一般市民が暮らす街なのである。在外研究中に、オックスフォードのカウリー・ロードで下宿生活を送るうちに、ふだん着のオックスフォードを描きたいと思うようになった。

オックスフォードはロンドンから近い、中世から現代までシエルターとしての役割を果たしてきた。内戦からの撤退地となり、ベストが流行すると避

難地となり、オックスフォード遷都が行われた。そして、第二次世界大戦中は、『ナルニア国物語』で描かれているように疎開地となった。

また、オックスフォードの街から新たな世界が始まった。学問とビジネスが融合して、本屋であり出版社ブラックウエルやオックスフォード大学出版局が誕生し、そこから文学祭が開かれるようになった。街の自転車屋から車産業の帝王モリスが生まれ、多くの労働者が移り住みさらに実学の必要性が説かれた。また、学歴や宗教の違いを超えた英知の結集が、オックスフアムというイギリスを代表するチャリティー団体の誕生をもたらした。そして、女性の高等教育への門戸開放運動から現代のBLM運動まで、多様性を求める人々は大学と繰り返し対峙してきた。

オックスフォードには、ミステリー文学、映画、建築、ビジネス、食、洪水からBLMまで多くの物語があるのだ。

著者より

同調圧力の正体

太田肇（おおた げいじ）
（大学政策学部教授）著



PHP研究所
1,012円（税込）
刊行年月 2021年6月

コロナ禍のもと、マスク着用やワクチン接種をめぐって日本社会における同調圧力の強さがあらためて浮き彫りになった。しかし、その原因を「空気」や「ムラ社会」のせいにするだけでは本質がとらえられないし、対処のしようもない。本書では会社、学校、地域から日本全体にまで広がる同調圧力の背後にある「構造」に注目する。

工業社会全盛の時代には同調圧力が仕事の面でも社会生活の面でも必要だったし、コロナの感染抑制などにも一定の役割を果たしたことは否定できない。しかし長期的にみるとイノベ

ションを妨げ、働き方改革の足を引っ張るなど、その弊害を見逃げなくなった。にもかかわらずグローバル化、ポードレス化の潮流に逆行するかのよう同調圧力がいつそう強まる気配を見せているのは、背後にある構造がいかに堅固かを物語る。

さらに令和の時代を迎え、SNSなどの影響によつて同調圧力の方向がタテ（上下）からヨコ（水平）へと変化しつつある。冒頭に掲げた例などはその典型だ。他国と比較した日本人の幸福度は低下傾向に歯止めがからないが、分析結果をみてもそれと無関係だとは言い切れない。

では、私たちは過剰な同調圧力にどう立ち向かえばよいのか。本書では具体例をあげながら三つの戦略を提示する。会社、学校などの組織を設計・運営する人、地域づくりや社会改革に携わる人、労働者や生活者、それぞれの立場から参考にしていただければありがたい。

著者より



吉川弘文館
1,870円(税込)
刊行年月 2021年7月

外来植物が変えた 江戸時代

里湖・里海の資源と都市消費

佐野静代(天文学部教授)著

「外来種」と聞けば、多くの方はオオクチバスなどの「侵略的外来種」を思い浮かべるでしょう。しかし外来種とは「自然の分布域をこえて人為的に導入された生物」であり、日本ではイネを含む栽培作物や家畜の多くも外来種に当たります。

本書ではこのうち特に近世に導入された栽培作物が、「侵略」とは異なる形で地域の「自然」を変え、各地の水辺に「里湖」「里海」という「人の手の加わった自然」を生み出した事実を明らかにしています。

水辺の村々では、水草・海草・

海藻を採って肥料にする営みがみられました。この水草などは水中のリンや窒素を吸収し、水質浄化に役立っていました。これらを刈り取ることで栄養塩は陸上へと回収され、循環的な資源利用システムが成り立っていたこととなります。

重要なことは、この水草・海草・海藻が施肥されていたのが、菜種・木綿・サツマイモ・サトウキビといった主に近世の外来植物であったことです。近世後期にこれらの栽培が普及したことで肥料藻の採取量は莫大なものとなり、各地に里湖・里海の生態系が確立することとなりました。

従来、里湖・里海は「伝統的な自然との共生システム」とみなされてきましたが、その実態は近世の外来植物の導入に伴って確立した「人為的な自然」であったわけです。

本書では、琵琶湖・八郎潟・浜名湖・三河湾・瀬戸内海・奄美大島をフィールドに、このような里湖・里海の成立のプロセスを明らかにしています。

著者より



吉川弘文館
2,970円(税込)
刊行年月 2021年7月

京都市の中世史 4 南北朝内乱と京都

山田徹(天文学部准教授)著

中世の京都を俯瞰する『京都の中世史』シリーズで、筆者が割り当てられたのは南北朝時代である。京都の歴史といえば平安貴族や由緒ある寺院・神社、そして伝統芸能などを連想される方が多いことだろう。そのようななかで南北朝時代とは、一般にどちらかというと印象が薄く、馴染みもないと思われる時代かもしれない。

しかし、ここで強調しておきたいのが、とくに同志社大学にとって、この時代が非常に縁の深い時代だという点である。たとえば、鎌倉時代末期、いわゆる持明院統の上皇の御所が

置かれた持明院殿という邸宅は、新町キャンパスのすぐ北側。その南方には貴族たちの邸宅を多く確認することができる。京都御所のもとになった土御門東洞院殿という邸宅が内裏とされたのも、南北朝時代の初頭まさにこの持明院殿への近さが意識された選地であった。

足利義満が居所に選んだ室町殿もこの高級住宅街の一角で、本学の寒梅館や尼寺大聖寺あたりの地に相当する。相国寺が現在の位置に創建されたのも、義満邸のすぐ東側だからである。そのさらに東側には、義満によって一〇メートルを超える高さの七重塔も建造された。

本書でこの時代を描く際には、このような本学周辺のことへの言及がつい増えてしまった。ひいきが過ぎるといわれてしまうかもしれないが、せつかなので本学ゆかりの方々や本学に興味を持ってくださった方々に、本書を手にとっていただければ幸いです。

著者より



人文書院
4,950円(税込)
刊行年月 2021年7月

北に渡った言語学者 金壽卿 1918-2000

板垣竜太(大学社会学部教授)著

本書は、一九四六年に北朝鮮に渡った言語学者金壽卿の評伝である。トロント在住の金壽卿の娘「離散家族」と偶然出会い、それをきっかけとして二〇一三年に同志社大で金壽卿をめぐるシンポジウムを開くまでは、私がこのような本を書くとは思ってのみなかった。当時私は、新しい実証的な北朝鮮社会文化史研究をめざしていたが、さまざまな資料を蓄積していきながらも、その方向性を模索していた。そのときに出会った金壽卿という人物のおかげで、一人の個人を軸にした二〇世紀史を描こうという構想が芽生えたのであった。

金壽卿は数多くの言語に堪能で、戦前より哲学の基礎から最先端の構造主義的な言語学までを学んでいた。戦後、越北した彼は、若くして北朝鮮初期の言語学・言語政策の基礎を築いた人物となった。彼の歩みには、構造主義や社会主義といった二〇世紀の巨大な思想的・学問的潮流、北朝鮮の政治史が深く交わっている。また、離散家族史を中心とした彼のライフヒストリーもこれに絡み合わせることで、一個人を徹底して描きながらも総合的な歴史叙述が可能になるとの確信をもつて、本書を書き進めた。

本書は、個人史・政治史系列と言語学史系列の章を交互に配置して構成した。順に読んで二系列を頭のなかで共鳴させていただいてもよいし、どちらか一方の系列だけ読んでいただいても構わない。北朝鮮をめぐる殺伐とした議論ばかりが目立つ現状だが、そのオルタナティブとなる歴史像を分かりやすく書いたつもりなので、ご一読いただきたい。

著者より



勁草書房
5,500円(税込)
刊行年月 2021年8月

マイクロデータからみる 現代中国の社会と経済

厳善平(大学グローバルスタディーズ研究科教授)著

一九七八年十二月開催の中国共産党第一期三中全会で、階級闘争をもつて要とする基本方針が放棄され、経済建設を最優先する戦略が打ち出された。以来、紆余曲折ながら多元所有制と市場を基本とする経済体制の構築に力が注がれた。

共産党による独裁体制は堅持されつつも、党政分離、政経分離を目指す政治改革は少なくとも二〇一〇年代初めまでの三〇余年に亘り進められた。その結果、共産党による絶対的支配の政治体制と競争の市場システムが結合され、いわゆる社会主義

市場経済という独特の体制が出来上がった。その過程において、社会・経済の基礎構造を決定づける諸要素、つまり、社会経済の構成原理、経済運営の基本理念、および社会構造に対する認識も質的に変化した。国や集団に代わって個人・家族、平等主義に代わって効率優先、階級に代わって社会階層といったものは、人々の暮らしや意識の中で重要性を増している。

こうした中、就業選択、昇進、収入、階層移動などで制度的差別または優遇、特殊な身分の機能は減退し、個人の努力と能力はより重要な意味を持つようになったと考えられる。言い換えれば、改革開放後の中国は全体として、流動性の低い閉鎖的社会から、機会の平等、選択の自由、能力主義を基本とする開放的競争社会に向かって変質しつつあったのではないかと、このことである。本書の狙いは、この間中国で蓄積された膨大なマイクロデータを解析し、こうした仮説を実証的に検証することである。

著書より



中央経済社
2,640円(税込)
刊行年月 2021年9月

先輩！ビジネスセンスの磨き方を教えてください！ 起業からイメージする金融経済教育

足立光生(だちあきみつお)
大学政策学部教授 著

毎年三月になると多くの卒業生が社会へ巣立っていく。それぞれの進路は様々であるが、民間企業に就職する卒業生も多い。そうした卒業生の表情には社会への大きな期待とともに、ビジネスの舞台に立つことへの漠然とした不安が垣間見える。僭越ながら、私自身も同志社大学を卒業して外資系金融機関に就職した経緯があり、当時抱えた同様の感覚を今でも生々しく思い出す。そもそも、社会に自信を持って羽ばたくためには何が必要か。そして、それは、どのよ

うに学ぶべきか。

その答えを、私は母校の同志社大学に教員として戻って以来十五年間模索してきた。大学院総合政策科学研究科で「金融経済教育」を担当し、適切な教育のあり方を受講生と議論する一方、自らも講義やゼミで試行錯誤しながら追い求めている。一般的に「金融経済教育」といえば個人の資産形成や投資の支援に関わるものとイメージされるが、それだけに限定されるものではない。本書では「起業の模擬」という架空の視点に立ち、「現代ビジネスの全容を俯瞰的にとらえる金融経済教育」を目指す。現代ビジネスに不可欠なテクノロジーを解説しながら、様々なビジネスシーンに有機的に結びつけて、現代ビジネスを「いつきに駆け抜けてみる」ことを本書は試みる。その際、本書を貫く最大のメッセージは「投資家を意識することにある。」

すべての方が社会に自信を持つて羽ばたくために、「金融経済教育」の挑戦はこれからも続くだろう。

著者より



芙蓉書房出版
2,750円(税込)
刊行年月 2021年7月

米中の経済安全保障戦略

新興技術をめぐる新たな競争
村山裕三(むらやまゆうぞう) 編著
大学政策学部教授

米中間の覇権争いを背景にして、経済安全保障への関心が高まりを見せている。日本でも、岸田政権の下で経済安全保障担当大臣の職が設けられ、経済安全保障推進法の議論も始まっている。

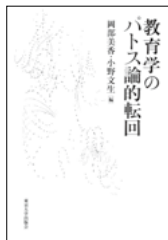
本書は、現在注目を集める経済安全保障に焦点をあて、米中間の技術覇権競争を考察したものである。序章で経済的な手段を用いて国家戦略上の目的を達成しようとするエコノミック・ステートクラフトの考え方を解説し、これに続く第一部では、

歴史的な視点を踏まえつつ、輸出管理を中心にした米国の経済安全保障戦略を分析している。

第二部は、中国に場を移し、経済と国防建設が一体となった産業政策、軍事と民生分野の技術開発を同時に実現しようとする軍民融合政策などに焦点をあて、中国の経済安全保障政策を分析している。最終章では、米中の政策変化を踏まえた日本の対応策を歴史的な視点も踏まえて叙述し、最後に日本がとるべき経済安全保障政策を提言している。

本書は、大学に籍をおく研究者と実務にも通じた研究所の研究者が協力して書かれ、米中技術覇権競争に興味を持つ幅広い層に読まれることをめざしている。現在、経済安全保障がブーム化しており、さまざまな種類の議論が繰り広げられ、経済安全保障のコンセプト自体があいまいになってきている。このような環境下で、経済安全保障の本来の姿を理解する意味でも有益な書であると考えている。

編著者より



東京大学出版会
13,200円(税込)
刊行年月 2021年5月

教育学のバトス論的転回

小野文生(城文化学部准教授)他編

生きることには、ままたらなさが伴う。この「ままたらなさ」を何とかしたいと思うのが人情というもので、だからこそ教育思想の根底には、「何とかしたい」という願いと、その願いを実現する方法や技術への問いがある。だが、その願いはほんとうに「よきもの」かどうか。その方法や技術はほんとうに「望ましいもの」なのか。もとより、願いの純粹さだけで行為を正当化しうるわけではない。啓蒙思想を土壌として始まった近代教育は、こうして容易に解きがたい問いを抱え込んだ。啓蒙のもとで、ものごとのロゴス(ことわり)を追究し、その追究が技

術的合理性を生み、操作可能で予測可能な知へ人を向かわせてきた。しかし、それがすべてか。それは人が育つこと、教えること、生きることの実態に即しているか。何より、それは(ほんとうのさいわい)に結びついていないか。「啓蒙の弁証法」への批判を前に、素朴にこの運動を信じるわけにはいかず、さりとて教育をやめるわけにはいかない。では、どうするか。本書は、ロゴスに對置されるバトス(受害・受動性)に着目し、両者の関係性を問う。そうして教育のシステムから零れ落ちていくものの放つ弱い光と影を救い出そうとする。ルソー、カント、ボルノウといった西洋教育思想の古典的人物、ヴェーバー、フロム、アドルン、レヴィナス、フランクル、アレント、アガンベンといった哲学者、西田幾多郎、田邊元、木村素衛、森昭といった日本の哲学者・教育学者と対話しながら、バトスの思想を手がかりに、確実性や合理性という「強さ」に反転しない「弱さ」の思想はありうるか、と問いかけている。

編著者より



明石書店
6,490円(税込)
刊行年月 2021年7月

日本社会の移民第二世代

移民第二世代

エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今

兒島明(城文化学部教授)他著

「ニューカマー」とは、一九七〇年代以降、日本に居住することになった外国人に対する呼称である。一九九〇年代以降、そうした人々の子どもたちの教育に注目した研究が多くなされるようになり、著者たちはそれぞれに対象を異にしながらも、教育社会学という共通の視角から研究を進めてきた。それから二〇〇〇〜三〇〇〇年が経過した現在、当時子どもだったニューカマーもすでに成人し、次世代の育成に携わる者もいる。こうした時間の経過を考慮すれば、「移民第二世代」と

呼ぶ方がかれらの実態に即している。

大人になったかれらは、過去の経験をどのように意味づけ、現在を生き、将来を展望するのか。本書は、移民第二世代の日本社会への適応状況を、ベトナム、カンボジア、中国、ブラジル、ペルー、フィリピンにルーツのある第二世代の若者たち一七〇名を対象に、構想から八年前にわたって実施した調査に基づいて明らかにしたものである。アメリカの移民第二世代研究を牽引するアレハンドロ・ポルテスらが提唱し、国際的にも広く参照される「分節化された同化理論」に基づき、エスニック・アイデンティティ、学校経験、ジエンダー、トランスナショナルリズムを主要なテーマに据えて分析を行った結果からは、世代間にまたがる複雑な文化変容のかたちと、第二世代の適応におけるその帰結が、具体的な語りとともに浮かびあがる。本書の知見が、移民社会としての日本の過去・現在・未来の理解の深化に貢献することを願う。

著者より



法律文化社
9,020円(税込)
刊行年月 2021年4月

未成年者の基本的人権 憲法学的考察

福岡久美子（女子大学現代）著
（社会学部教授）

憲法上、未成年者も当然、基本的人権の主体だと認められつつ、心身の未成熟性ゆえ、成人とは異なる制約なども容認されると考えられてきた。ただ、どのような場合にどの人権にどこまでの制約が許されるのかについては、研究し尽くされたとは言えない。また、校則裁判などにおいて、裁判所も判決を下してきたが、未成年者も憲法上の人権を有しているという、その前提部分が抜けているものがほとんどである。

本書の目的は、アメリカ合衆国における未成年者の基本的人権に関する問題について、裁判例、法制度、学説等を検討し、日本での問題を考えるうえで

示唆を得ることである。

本書はI部の「学校における生徒の基本的人権」とII部の「青少年の基本的人権」から構成されている。I部では、学校が生徒の表現の自由をどこまで規制できるのか、学校による所持品検査・脱衣検査などの検査がどのような場合に許されるのか、生徒の非行を理由として、停学処分などの懲戒処分、課外活動禁止などの不利益処分が科される場合、どのような事前の手続き（アユール・プロセス）が保障されるべきか、といった問題を取り上げる。II部では、青少年保護育成条例による規制の中でとくに問題となってきた、青少年に対する有害表現受領規制、深夜外出規制、淫行・わいせつな行為等の規制について、アメリカとの比較的研究を試みる。

本書を発行後、校外でのSNS投稿を理由とする公立学校の処分に関して、合衆国最高裁判所は処分をするほどの表現ではないとして、処分を憲法違反とする判決を下した。校外の表現に対して学校がどこまで規制できるのかという問題については、今後の判例を待つことになる。

著者より



KADOKAWA/角川ソフィア文庫
990円(税込)
刊行年月 2021年10月

三十六歌仙 日本の古典 ビギナーズ・クラシックス

吉海直人（女子大学特任教授）編

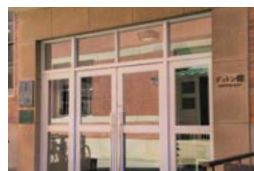
『三十六歌仙』は、知名度が高い割には国文学的な研究は遅れている。その最大の原因は、歌人の代表歌が固定されておらず、複数の歌から自由に選ぶ方式になっただけである。その流動性のため諸本によつて所収和歌に異同が存しており、どの本をベースにすればいいのかが不確定であった。信頼できるテキストがなければ、研究の蓄積も望めない。そのため、研究者が二の足を踏み、これまで入門書はおろか、安価な文庫本も刊行されてこなかった。あるのは

高価な美術書の類ばかりであった。

そこで今回、思い切つて鎌倉時代成立の佐竹本を中心に据え、一人に最低三首の有名な和歌をピックアップすることで、大抵の『三十六歌仙』諸本に対応できるように工夫してみた。ビギナーズクラシックスの一冊として、所収歌には簡単な解説と現代語訳を施してわかりやすくした。それだけでなく、佐竹本の複製から歌仙絵をすべて転載し、その歌仙絵にも簡単な説明を加えた。その上で、『三十六歌仙』の成立過程と享受史を、できるだけやさしく解説した。これでようやくたたき台が提示されたことになる。

まだすべての伝本を網羅できているわけではないが、少なくとも最初の一步は踏み出したといつていいだろう。本書が『三十六歌仙』研究の基本資料として利用されること、また大学の授業のテキストとして積極的

に活用されることを願っている。
編著者より



約六〇年もの長きにわたり同志社の女子教育に情熱を注いだ、メリー・フローレンス・デントンを記念して、一九五五年四月に着工。同年十月に、地下一階地上三階のデントン館が竣工、同年十二月八日には献堂式が挙行されました。

入口の向って左には、デントンがノートを開きペンを持つ胸像のレリーフが、英文を浮き彫りにした銘板とともに掲げられています。屋上の四囲には瓦葺屋根の倉庫が設けられ、これは風致地区で今出川通りから二〇メートル以内では平屋根が認められなかったための工夫です。外壁は、従来の女子部の赤煉瓦とちがって、スペイン風の明るい色調のタイル張りです。

当時、三階にはデントン記念ホールがあり、彼女の蔵書や遺品などが収蔵されていました（現在は、同志社女子大学史料センターにて所蔵）。二階には図書室があり、一階は教室、家政学研究室、実験室、地階は食堂、購買部、書籍部などにあてられています。

現在は、地下の表象文化学部に関連施設をはじめ、一階から三階には同学部の事務室や研究室などが配置されています。

寒梅館
(同志社大学)

寒梅館は、学生文化活動の拠点として親しまれていた旧学生会館を解体し、その機能を受け継ぎながら、先端設備を備え、地域社会にも広く開かれた施設として二〇〇四年三月に竣工しました。同年四月に開設された司法研究科とビジネス研究科の教育・研究拠点にもなっています。

外観は煉瓦壁面でニューイングランド風のデザインを採用。鉄筋コンクリート造で、地上七階地下一階建、延床面積は一万七七八㎡。両研究科が使用する教室や図書室、自習室、個人研究室等の専門職大学院エリアのほか、学生支援センター・保健センター・カウンセリングセンター・キャリアセンター等の学生サポート部門を集約。リエゾンオフィスは産官学連携の窓口としての役割を担い、一般開放している大小二つのホール（ハーディーホール・クロウバーホール）や一階・七階のレストランは、大学と地域住民を結ぶ場として機能しています。また、オムロン株式会社からの寄付金をもとに技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）が設置され、多様なプロジェクトが進められています。

寒梅館の館名は、新島の漢詩「真理似寒梅敢侵風雪開」（真理は寒梅のごとし。あえて風雪を侵して開く）から命名しています。敷地は室町幕府の「花の御所」（足利將軍家の邸宅）が存在した場所、建築時に発掘された石敷き遺構等の出土品は、日本の中世史の貴重な資料として、館内・敷地内でも常設展示されています。

新島旧邸の「新聞挟み」 (京都市指定有形文化財家具)



「新聞挟み」は新島裏が使用した家具の一つで、新島旧邸の書斎に残る。新島旧邸は、新島裏が妻の八重とともに暮らした家で、一八七八（明治二一）年に建てられた。裏が一八九〇（明治二三）年に亡くなった後は、八重が一九三二（昭和七）年に没するまで居住した。夫妻が暮らした建物は、明治時代初期に日本人のために建てられた洋風建築として貴重なことから、一九八五（昭和六〇）年六月に京都市有形文化財に指定される（指定名称は「新島裏旧邸」）。この時は建物のみの指定であった。しかし家具と建築は密接不可分な関係であり、家具があつてこそ、その住宅の使用が可能となる、との観点から、新島旧邸に残る家具も建物と一体のものとして、五十七点の家具が翌一九八六（昭和六一）年六月に「附」として追加指定された。「新聞挟み」はその

うちの一点である。鉄を使用しており、京都市による調査ではアメリカ製と推定されている。ところどころに曲線の意匠が施され、上部は開閉するようになっていいる。

その使用方法であるが、一八九〇（明治二三）年に出版された「A sketch of the life of Rev. Joseph Hardy Neesima」^①（J・D・デイヴィス著）に挿絵として掲載されている書齋の様子を見ると、「新聞挟み」が机の脇に分厚い本を挟んで置かれているのがわかる（写真A）。

また、「新島襄先生記念絵葉書」^②の書齋写真では開いた状態が再現されている（写真B）。開いて本を置いて読んだり、閉じた状態で本を挟んでおいたりしたのかと思われる。現在の状態では挟んで閉じると本がストンと下に落ちてしまう構造になっているが、上部に紐がついていた形跡があり、閉じた時に落ちないように紐で本を支える工夫をしていたようである。小さくてわかりにくいのが、写真Aでは紐状のもので本を支えている様子を見ることができらる。

さて、「新聞挟み」という名称であるが、一九八五（昭和六〇）年に京都市によって行われた調査による指定名称である。では、それ以前の名称はとうであったか。一九七七（昭

和五二）年に大学で作成された旧邸備品リストの中には「鉄製書見台」と記された備品があり、この「新聞挟み」のことと考えられる。書見台とは書物を読みやすくするために置く台で、当時日本で使用されていたものは、畳で正座して読むために本を置く面に角度がつけられていいる。しかし「新聞挟み」は本を置く面が水平になっており、椅子に座って読む西洋式の生活に合わせたものとなっている。旧邸での使用方法からいえば「鉄製書見台」は実状を表した名称であるように思われる。

外国製のもので工夫して使用していたこの「新聞挟み」は、生活の中でも読書、勉強の場における家具・道具の西洋化とその受容の様子をうかがえる貴重な一例ともいえるだろう。

同志社社史資料センター

注① 明治二十三年十一月十日出版、発行人上田周太郎、印刷人廣瀬安七、売捌所丸善商社書店。同志社大学図書館所蔵。写真は挿絵（版画）の部分。

注② 十二枚のうち一枚。同志社社史資料センター所蔵。写真は部分。

学校現場における法律問題の現状と 弁護士(スクールロイヤー)の 活用について

にしやま けいいち (*1) ほりきり ただかず (*2)
西山 啓一 堀切 忠和

はじめに

同志社諸学校では、訴訟案件(訴訟に至る可能性のあるものも含む)については、各校とも日常的に相談出来る弁護士が顧問契約の有無にかかわらず存在する。訴訟に至った場合は、その弁護士に学校側の弁護を依頼することが多い。

二〇一七年、法人部に法務室が設置され弁護士事務所との業務委託契約により弁護士が駐在している。業務は(一)契約書その他法的文書の点検及び助言に関すること。(二)規程等の制定及び改廃の点検及び助言に関すること。(三)訴訟等法的問題に係る助言及び対応の支援に関すること。(四)法人の商標及び著作権に関すること。(五)その他必要な事項とされており、日常的に各校の法的文書点検及び法務相談に対応している。第一次的には各校で対応し、第二次的なチェック機能を持たせるとの建てつけで、訴訟に至る可能性がある重大案件に対する助言まで、各校教育現場で日常的に抱えている問題すべてに対して助言をすることはなく、実際の訴訟案件対応までは行っていないのが実状である。したが

って各校で抱える訴訟案件についても、日常的に相談している弁護士に依頼するのが通例である。

生徒、保護者、場合によっては教職員が法的問題を抱えたときは、(保護者を含む生徒側の)人権あるいは労働者権利擁護の立場に立つ労働問題を専門とする弁護士が少なからず存在する。そうした弁護士は学校と対峙する場合が多く、学校側が相談するということはほとんどない。

したがって現場の教職員が日常的に相談し、教育現場の実情に即してアドバイスを得ることが出来る弁護士は、個人的にでも探さない限りいないというのが現状である。現場の教職員は、訴訟リスクに備えるというより、生徒の健やかな成長を図り保護者と連携して教育に当たる上で、生徒・保護者との信頼関係を損ねる事態は未然に避けたいと考えている。そのためにもトラブルが生じるおそれがあるとき、法的にどのような点に気をつけるべきか、教育現場をよく知った専門家からアドバイスをほしいというのが正直なところである。

最近話題になつている「スクールロイ

ヤー」という職種は、現場教職員から見ると学校側の立場から学校で起こる訴訟案件に備えることよりも、教育現場の状況をよく把握し理解して、教職員に寄り添う立場で法的アドバイスを提供するのが本来の姿であると考える。

そのような観点から、二〇二一年（令和三年）二月二十日同志社では全教職員対象に本稿の標題と同じテーマで研修会^{〔*3〕}を三三名の参加者で開催した。コロナ下オンライン研修という制約のもとでの初めての研修で、オンライン研修のノウハウを積み重ねてきた三研究会（同志社フロントライン教育研究会、同志社数学・算数教育研究会、同志社英語教育研究会）が主催し、同志社一貫教育探求センターが後援するという形で実施した。研修は学校の法的リスクを専門に多くの研修等実績のある堀切忠和弁護士（本稿共著者）による基調報告、学校教育現場の経験が豊富な神内聡弁護士^{〔*4〕}、原口暁美弁護士^{〔*5〕}を加えた三弁護士によるパネルディスカッション形式の討論会（コーディネーターは堀切弁護士）で進められた。最後に参加者を交えた質疑応答、意見交流で終えた。

このようなテーマについて私立学校の現場に絞って掘り下げた議論は乏しく、ぜひ記録に残して次に繋げたいというのが同志社時報投稿の動機であった。

第一章 本稿の目的

本稿は、前項で述べたように、二〇二一年（令和三年）二月二十日、同志社一貫教育探求センターが支援する三つの自主的な研究会が共催して実施した標題のオンライン研修の内容をまとめ、加筆したものである。

この企画は、学校現場をサポートする役割として注目される「スクールロイヤー」の有用性とその活用の実態から、私立学校の教職員の抱える日常の課題について、解決のヒントを提供することを目的とした。

学校現場における危機管理の研修という点、「〇〇のようなことをすると、××のような法的責任が問われます。」といった過去の出来事を事後的に評価してやってはいけないことを学ぶ研修になりがちである。しかし、現場の求める知見は、何をやったらダメかではなく、どう

したらよいかであると感じている。そういった現場のニーズに応えるものになるよう、学校現場の法律的に弱いところと、その弱いところを補うための具体的方策を提案することを心掛けた。

まず私立学校の現場の問題に取り組んできた堀切が基調報告を行い、そのテーマに沿って、現場の問題に精通する、私立中高の教員経験のある二人の弁護士、神内聡氏と、原口暁美氏の参加を得て議論が行われた^{〔*6〕}。

文部科学省もスクールロイヤーの設置に積極的であるものの、スクールロイヤーのニーズ・役割については、教育現場でも、法律家の間でも、共通認識が出来ていない。そのため、学校現場の期待に沿うような制度になるのか危惧される^{〔*7〕}。そういった中、必ずしも文献等に頼れない現状の課題と今後の弁護士の活用などについて、私立学校の現場に精通した三人の弁護士により、それぞれの視点から意見が述べられた^{〔*8〕}。

なお、オンライン研修当日は、議論が盛り上がりすぎてしまったため、予定した内容を全部終えることが出来なかった。本稿では、その補充も兼ねることとする。

第二章 問題の所在

近時の学校現場の大きな悩みの一つに、保護者や近隣からのクレーム対応がある。クレーム対応が学校現場の大きな負担となつてきている傾向から、従前に比べ、クレームの量的・質的变化³⁾があつたことが窺われる。しかし、学校現場は、そのようなクレームの変化に対して、新たな対応策を用意できていない。これまで学校と家庭、近隣との信頼関係の中で様々な問題を解決してきたのであろうが、それだけでは手詰まりとなつた場合に、法的な観点、或いは第三者の視点を取り入れるという意味で弁護士⁴⁾のサポートが有望視されている。

第三章 法律家から見た学校の危機管理に必要な観点

一、教員の熱意と法的リスク

スクールロイヤーの法的観点が学校現

場に役に立つ理由の一つに、学校現場と法律問題の相性の悪さが挙げられる。

教員は、概ね、子ども達のために最善を尽くしたいと考える。そのため、結果が最善でない、自分達にも足りなかつたところがあると考えがちである。特に、再発防止策が考えられる場合には、自分達に落ち度があつたと考える傾向が強い。

しかし、再発防止策があるということと、事故当時の現場の教員に落ち度があつたかどうかは別問題である。再発防止策を検討しなければならぬことは、事故が起きた以上、当然であり、それは、その事故について学校側に法的責任があるかどうかに関わらない。一方、法的責任の有無は、学校側が当該事故の発生する危険を予見し、その結果を回避する措置を講じる義務が学校側にあり、且つ、学校がその義務に違反したことで事故が発生したかどうかで決まるのであり、後から振り返つて防ぐ手段があつたかどうかは、直接には関係しない。

ところが、現場にいた教員としては、「こうしておけば、この事故は起きなかつた。」と思うと、それをしなかつた自分達に落ち度があつたと考えやすい。教

員として、子どもにしてあげたかつたことと、法的にやらなければならなかつたこととの区別を曖昧にしたまま、法律問題と向き合うので、法的な観点でいうところの学校に課された安全配慮義務より広い責任を、教員自らが認めやすいのである。

この点について整理すると、生徒(児童・園児)に事故があれば、法的に落ち度があるがなかろうが、教員は胸を痛め、何等かの責任を感じる。これは道義的な責任であり、人として感じる胸の痛みであつて、法的責任とは区別しなければならぬ。

ところが、この区別に無自覚なまま、道義的責任を感じているがために、法的責任を認めてしまう点では、ある意味、熱意のある教員ほど、法的リスクが高いと言える。

そういったリスクを抱える教員に対し、弁護士が法的責任の問題とそうでない問題について区別し、議論を整理することで、より適切な対応を導くことが期待できる。

二. 研究途上の分野であることを踏まえ た対応の必要性

上記のとおり、学校現場と法律問題の相性が悪いのは、教育現場の側だけの問題ではなく、教員の現場目線に立つた研究が専門家によつて十分になされてこなかったことも原因として指摘できよう。

一般に、学校問題は子どもの権利に関する問題として位置づけられてきた。これは、子どもを保護の客体から権利の主体として構成する過程で不可欠なものであつたことは言うまでもない。ただ、その結果、学校・教員は、子どもの権利を守る義務を負う主体となり、子どもの権利を侵害する側と位置づけた研究になりやすいという問題を孕んでいた。

他方、教員が主体となる学校現場の問題とされてきたのは労働問題であつた。そして、学校問題に詳しくなるのは、どうしても、教員から相談を受ける弁護士よりも、学校設置者から相談を受ける学校の顧問弁護士であり、現場の教員は労働問題の相手方となる。そして、この問題と関連して、学校の顧問弁護士が、現場からのクレームに関して相談を受けた場合、使用者の観点から、被用者である

教員の対応に問題がなかったかをチェックし、問題がある場合は、処分も検討しなければならぬという立場に立つ。そして、そのような立場上、学校問題に精通する学校の顧問弁護士も、教員の目線での問題の検討をしにくいといえる。

以上から、教員は、学校の法律問題において、これまでは常に「相手方」としてみられてきた。そのため教員の目線・教育現場の目線で、学校で起きる法律問題にどのように対応していくべきかという研究は、これまで十分にされていなかったように思われる^{※10}。

しかし、子ども達が伸び伸びと学ぶ場を作るためには、子どもの権利からアプローチをするよりも、やる気のある教員が、伸び伸びと教育に当たることができ、環境整備が重要ではないかと考えている^{※11}。そこで、学校法人の目線ではなく、教育現場、教員の目線で法律問題を考えるスクールロイヤーの設置は、意味あるものと考ええる。

三. 民間企業とのクレーム対応の違い

学校現場が、クレーム対応で疲弊しているのは、ある意味、クレーム対応に熟れていないからである。

しかしそれは当然で、民間企業の現場スタッフもクレーム対応に長けているわけではなく、難しいクレームは、「お客様相談室」が対処するから、企業活動全体として、クレーム対応が上手くいっているのである。

担当がクレーム対処をすると、どうしてもクレームを収めて、元の活動に戻りたい気持ち優先する。同じ学校でこれからも生活していく以上、当然である(ビジネスのようにダメな取引先とは縁を切るという感覚の案件処理が難しい)。そこで、担当者のこともお客様のことも知らないお客様相談室が間に入って、ワンクッション置くことで、クレームの内容・状況を客観的に整理することができるようになる。少なくとも、話を聞く部署を切り離すだけで、担任の心理的・物理的負担は大きく軽減されるであろう。

とはいえ、学校にお客様相談室が設置されることは現実的に考えがたいが、お客様相談室があるから出来ることを知り、お客様相談室のない教育現場で出来ることと出来ない弱点を知って補う方策を考えるということは有用であろう。それだけで、電話の取り方・代わり方・切り方

が変わるものである。

そういった保護者や近隣からのクレーム対応に当たって、電話対応の指南から、場合によっては、途中で電話を交代して状況の説明を引き取るなど、お客様相談室のない学校でのクレーム対処のサポートをするというのは、学校の顧問弁護士への活動の範疇とされていなのが通常であり、顧問弁護士とは別に、現場のサポートに特化したスクールロイヤーの存在意義の一つとして挙げることが出来る。

四、小括

以上のような状況から、法律問題やクレームの対応について、現場レベルでいえば、法的問題に精通した教職員の養成はうまく機能しなかった。

一方、法律家の側でも、現場目線の危機管理については、専門家の養成はあまりされなかった。これは上記一、二の要素に加え、法律家の側に、現場の悩みがうまく伝えられてこなかったことも大きいかと思われる。

もともと法律家が現場の問題に精通するのは、現場の様々な相談を聞いていった結果であることが多い。ところが、教員は、学校現場で起きる日常的な問題に

ついて、法律家に相談する習慣が無い。その上、実際の相談も、上記一、二の要素が、悪い意味でフィルターとなつて、法律家のところに、教員の現場目線でアドバイスするために必要な情報が届きにくい。その結果、学校現場に本当に必要な助言が出来る法律家が育ちにくい状況にある。

このような問題状況が共通認識というわけではないが、少なくとも、学校現場にアドバイスできる専門的な法律家が必要な問題状況は意識されている。

そこで、そういった問題状況を打破する存在として、顧問弁護士とは役割を異にするスクールロイヤーに注目が集まっている。

第四章 スクールロイヤーの有用性とその活用について

一 スクールロイヤーの必要性についてはほぼ争いがないものの、どのようなスクールロイヤーが求められているのかについては見解が一致しない^{＊13}。

現状、考えられているのが、学校現場に子どもへの権利の観点からのアプローチ

と、不当要求排除の観点からのアプローチである。

そのような中ではあるが、以下のよう
な有用性が指摘できるのではないかと。

① 顧問弁護士のように学校の利益を擁護する立場にないことを説明しやすい。そのため、顧問弁護士が学校現場の問題を扱うのに比べ、その調査の客観性に疑問を抱かれにくい。

仮に、顧問弁護士が、学校現場の問題の調査を担当してしまうと、いざ、その問題が訴訟に発展した場合、証拠となるべき調査報告書が顧問弁護士のお手製になってしまふので、証拠としての価値がどうしても削がれやすい。これがスクールロイヤーという別の弁護士が調査した結果である方が、証拠として価値あるものになりやすいと言えよう。

② 担任や教員と違い、生徒・保護者とある程度距離を置いた客観的な視点での対応ができる。

現場の教員としては、自分の担当するクラス内で問題が生じた場合、理に適った解決よりも、丸く収めたいという気持ちの方が先にしやすい。子ども達の

学校生活の平穩を考えればそうなるのもやむを得ない。

しかし、そのような態度が問題の解決を理不尽なものにして教員や学校の情報頼を損ねたり、丸く収めようと下手に出すぎたり、寄り添う態度を示したところを逆手に取られて、話し的主导権を握られてしまい、につきもさつちもいかなくなることもある。

そういった事態に陥る前に、出来事を客観視した対応の方針を検討するのに、普段生徒や保護者と接していない、それでいて学校の基本的な組織や対応校風を知っているスクールロイヤーの存在は有用であろう。

③ 教職員側の組織や教職員の行動、学校の立場について理解があるので、学校現場の苦勞に寄り添った、実践・実施が可能な助言を得やすい。

公立学校では、教育委員会からの指導や異動による人事交流があるので、現場対応に関する知見を交換しやすいが、私立学校は、同一法人の学校といえども、法人本部からいじめ対応などの学校現場の問題に具体的な指示が来るとは極めて稀である。そのため、

同一法人内であっても、学校毎に対応の仕方個性というか校風が出てくる。

そういったときに、その学校毎の対応のあり方を理解して現場対応の指南をするのは、やはりスクールロイヤーの得意とするところである。

この学校はこういう所があるから、こういったところを弁護士が補えば上手く対応できる、そのような理解のある弁護士が身近にいたら、学校現場も相談しやすいであろう。

二 上記①乃至③の観点からの私立学校のスクールロイヤーの活用について以下のような提言をしたい。

公立の学校における教育委員会のよいうな外部の指導・助言をする機関がないため、スクールロイヤー設置の意味が大きい。特に、顧問弁護士が置かれる私学こそ、現場の問題と訴訟やマスコミ対応などを区別するために、スクールロイヤー設置をすることの有用性がある。

同志社学園として、幼稚園から高校（可能であれば大学）まで、学校現場を理解する弁護士を養成するつもりで、スクールロイヤーを設置する事を検討

してはいかがであろうか。

結語

子ども達のためにという教員の善意が、ときに、法律的には逆手に取られ、結果的に、より良い教育を阻害することもあるというスクールロイヤーの指摘は、共感を抱く（目から鱗の）教員も多いのではないだろうか。何が本来の意味で子ども達のためになるのか、何が子ども達の成長を保障していくことになるのか、教育現場というストレスの多い閉じた空間では見失うこともあるのではないだろうか。学校教育はチームで取り組むということ忘れてはならないが、そのチームのメンバーは学校内の教員だけで十分なのだろうか、本稿が課題提起の一助になれば幸いである。

研修会に参加した工藤尚子同志社香里中学校・高等学校教諭の次の感想はこの課題を鋭く指摘するものとなっている。

「学校に強く関心を寄せてくださる法律の専門家からお話を伺い、自分の働き場の場を「外」の視点から見つめ直す好機となった。一般企業とはマインドセット

からして大きく異なる学校という場で、「個人としての自分を守る」ということに罪悪感さえ抱きかねないのが教職員の現状かもしれない。これは過重労働の問題などとも同根であろう。「人ひとりは大切」とは、生徒はもちろんながら教職員にも当てはめるべき言葉である。スクールロイヤーを通じて「個人として負いきれない、負うべきでない部分」についての認識を持つことも、教職員のある種の謙虚さ、誠実さとして必要ではないかと感じた。(同志社一貫教育探求センターニューズレターHiohio-LiNo4より)

本来、本稿で取り上げたようなテーマは、事例研究を積み重ねることも重要であるが、原稿にするにあたっては個人情報等の関係で難しい面がある。その点については研修のあり方の課題としたい。

SNS等いじめの多様化、苦情対応、コロナ禍を含む自然災害等の対応、個人情報、著作権の扱い、教員の働き方改革など、学校現場における課題は本来の教育課題以外にも山積している。教員の多忙化やストレス増大が教育崩壊を招かないためにも、スクールロイヤーの役割を改めて考えるときであるのかもしれない。

二月の研修会参加者の多くから、学校現場で抱える多くの課題についてスクールロイヤーの視点から研修を続けてほしいという要望が寄せられている。それらの要望に応えるため、二〇二一年十月十六日に「スクールロイヤーと考える学校の法律問題―増加するSNSトラブルにどう対処するか―」を同志社一貫教育探求センター主催(同志社フロントライン教育研究会協力)で実施した^(※1)。さらに「学校教育現場の著作権」や「いじめ防止と対応」については、教職員が必要に応じて容易に視聴できるよう、それぞれテーマ毎に細分化したオンデマンド研修動画を二〇二一年度内に公開する。

^(※2)

本稿は、「はじめに」と「結語」を西山が学校教育の視点から、第一章〜第四章を堀切がスクールロイヤーの視点からそれぞれまとめたものを二人で検討し、神内弁護士、原口弁護士からのアドバイスに基づいて推敲し最終原稿としたものである。なお、内容についてのご意見等は、投稿責任者である西山までご連絡いただきたい。

謝意

貴重なご意見をいただいた神内、原口両弁護士、研修会実施に尽力いただいた主催者・後援者である前述の三研究会と同志社一貫教育探求センター、並びにオンライン研修会に参加された同志社教職員の皆さん、特に感想、質問をいただいた方々に深甚の謝意を表したい。また法務室の岡栢哲也事務長と大学広報課を始め関係部署のご協力にも感謝したい。

^(※1) 学校法人同志社常務理事、日本私学教育研究所研修運営委員会西日本地区運営委員長

^(※2) 全国の教職員研修、保護者講演会、いじめ予防授業の講師のほか、広島県私立中高協会加盟校相談担当弁護士、関東学院スクールロイヤー、開成学園スクールロイヤー、流山市いじめ対策調査会副会長も務める。

^(※3) 研修会案内チラシ

同志社フロンティア教育研究会
 同志社法律・政策教育研究会
 同志社東部教育研究会
 主催 オンライン研修会

**同志社教員
 だけでなく
 参加大歓迎!**

**学校現場における法律問題の
 現状と弁護士（スクールロイヤー）の
 活用について**

2021年 2/20(土) 14:00-15:30
 ZOOMにて、終了後、懇話会（質疑応答）があります。
 自由参加です。席について参加下さい。

学校における物損や盗難からの賠償責任は、賠償請求も
 なく、ToBのような学校で発生や事故の賠償責任化から
 「た」といふように、「ToBのようなことをすると賠償責任
 を負うことになる。」という点で学校の責任が、学校が中
 断してはいけないことを学校現場に及びます。
 いために、多くの学校現場に及ぼす影響です。そこで
 本研究会の目的は「学校現場に及ぼす影響を、学校現場
 関係者、とりわけ同志社フロンティア教育研究会の同志社
 関係者のメンバー、同志社フロンティア教育研究会の同志社
 関係者のメンバーがそれぞれの視点から、学校現場の賠償責任
 の現状と弁護士（スクールロイヤー）の活用についてを
 話し合います。同志社に出席する。この日の弁護士は、一
 般の弁護士事務所から来ています。席について参加下さい。

申込締切日：2月17日(水) 会場：同志社フロンティア教育研究会
 申込先：同志社フロンティア教育研究会
 申込先：同志社フロンティア教育研究会
 申込先：同志社フロンティア教育研究会

（*4）東京都の私立中高一貫校で教鞭をとる日本唯一の現任教員弁護士。各地の教育委員会や学校法人のスクールロイヤーのほか、スクールロイヤーのドラマ監修も務める。

（*5）私立学校の教員歴二十九年のベテラン教員弁護士。私学教員向けの研修の講師や関東学院スクールロイヤー、流山市いじめ対策調査会委員も務める。

（*6）今回参加した三人の弁護士は、いずれも東京弁護士会に所属する私立学校の問題に精通する弁護士として、普段から意見交換を行っているが、三人が同時に参加する会合はなかなか実現しがたく、本企画が初めてである。

（*7）文部科学省や弁護士会の一部で、一定のスクールロイヤー像を構築しようと

いう動きがある。文科省「教育行政に係る法務相談体制構築に向けた手引き」参照

（*8）当日の様子をお伝えするため、質疑（質問）

入学時に、校則や学校の指導に従うという誓約書を提出してもらっています。それが、あれは法的に意味があるのでしようか？

（堀切）この問題は、まず神内先生からでいかがでしょうか？

（神内）私は、意味があると思いますよ。（堀切）そうかあ。私は、実は意味がないと思っていて、誓約書を出そうが出すまいが、学校の指導に従うというのは、入学するという在学契約から導かれるから、誓約書はいらないんじゃないかなあ。

（原口）私も、学校関係の訴訟の書証で、誓約書が提出されたのを見たことがないんだけど。

（堀切）一度問題を起こした生徒が、「次に問題を起こしたら、退学処分になっても異議を述べません。」的な誓約書

であれば、意味はありそうだけど…。（神内）確かに、そっちの誓約書はちらつかせたことはあるけど、入学時の誓約書はないかあ。

でも全く意味がないっていうのも…。（原口）入学に当たって、確認したという意味はあるかも。

（神内）確かに、何か買った契約するとき、「説明の内容を確認しました」にチェックするみたいな、「内容を確認しましたよね。判っていますよね。」というような意味合いはあると思います。

（堀切）なるほど、誓約書の提出の有無にかかわらず、在学契約の範囲で学校の指導等に従うということが前提なのだけれど、そういう前提を確認した上で入学しているということを保護者に確認してもらったことを書面に残して、学校と保護者の共通認識にするという確認的な意味合いがあるということですね。

すつきりしました。

（*9）堀切は、量的・質的变化と指摘したが、神内・原口の意見としては、量が増えたというより、質の変化により、クレ

地域社会とスポーツの マーケティング



にのみや ひろあき
二宮 浩彰

(大学スポーツ健康科学部教授)

ゼミの研究テーマ

ゼミの研究テーマは、スポーツを手段として地域社会活性化および産業界発展を目指すスポーツマネジメントです。現社会におけるスポーツの諸現象を取り上げ、スポーツマーケティングの理論と方法論を援用することによって、スポーツがもたらす経済効果、社会効果、環境効果について考察します。マーケティングリサーチでは、スポーツ参加者やスポーツ観戦者を対象としてデータを収集し、実証的に分析することによってスポーツ消費者行動を理解しようと試んでいます。本稿では、地域社会とスポーツのマーケティングを関心事としたプロジェクト研究を立ち上げてフィールドワークに取り組んでいるゼミ活動について紹介します。ゼミ活動では、スポーツ消費者行動について身をもって知ろうということ、フィールドワークの際には自分たちも積極的にスポーツ参加やスポーツ観戦を実践するようにしています。

コロナ前のフィールドワーク遠征

コロナ前には、遠方まで足を運んでフィールドワークを行っていました。

北海道のフィールドワークでは、標高七八九mの頂上(約一五km)まで登るロードレース「ニセコHANAZONOヒルクライム」にボランティアとして運営に携わり、レース参加者を対象として質問紙調査を実施しました。スポーツツーリストのDESTINEーション(旅行目的地)イメージが開催地域の愛着に与える影響について分析しました。

沖縄県のフィールドワークでは、「沖縄県観光コンベンションビューロー」に訪問しヒアリング調査を実施し、スポーツツーリズムにかかわる観光・リゾート産業の視察を行いました。このフィールドワークの研究成果にもとづいて「沖縄県スポーツ関連ビジネス企画コンテスト」に応募し、大学院生チームが最優秀賞、学部生チームが特別賞を受賞することができました。

広島県・愛媛県のフィールドワークでは、「しまなみジャパン」と「今治市産業部観光課サイクルシティ推進室」を訪問し、サイクルツーリズムの普及戦略についてのヒアリング調査を行いました。ゼミのメンバーで、今治市から尾道市までの推奨サイクリングルート(約八〇km)を自転車で実走し、しまなみ海道サイク

リングの実態調査を行いました。

コロナ後の日帰りフィールドワーク

コロナ後には、感染拡大予防に配慮しながらフィールドワークを行っています。京都府のフィールドワークでは、亀岡市におけるスポーツによる地域活性化を検討するSWOT分析を行っています。情報収集のため、「亀岡市観光協会」を

訪問しヒアリング調査を実施し、レンタサイクルを利用して観光資源の視察を行いました。ゼミのメンバーで、保津川ラフティングを



保津川ラフティング体験

体験し、事業者から聞き取りを行いました。また、「サンガスタジアム by KYOCERA」の指定管理者「ビバ&サンガ」を訪問してヒアリング調査を実施し、スタジアムツアーで施設の舞台裏を見学しました。VR／フィットネス、スポーツクライミング、eスポーツゾーン、ドローンサッカーク

どの付帯施設がスタジアムの集客装置になっている様子を視察しました。

広島県のフィールドワークでは、広島東洋カープの試合観戦を行うため、「マツダスタジアム」を訪問し、ファンサービス部ファンクラブ課の球団職員から聞き取りを行いました。スタジアム内でスポーツ観戦者として参与観戦を実施し、プロスポーツ観戦における経験価値の測



サンガスタジアムツアー視察

定尺度について検討しています。

コロナ禍において授業運営が制約されている状況にありますが、学生の貴重な授業機会を逸しないようにすべく、ゼミ活動としてフィールドワークを行っています。ゼミ生が主体となつてフィールドワークの計画・実行・分析・確認を行うという方針で、指導教員はあくまでもサポート役で、スポーツマーケティング研究の実践と経験を積む機会をできるだけ提供しようと思掛けています。



広島東洋カープマツダスタジアム参与観戦

魔法の弾丸～がん分子標的薬の可能性を追いかけて



おざき けいいち
尾崎 恵一

(女子大学薬学部教授)

はじめに



コロナ禍の二〇二〇年四月から、同志社女子大学薬学部病態分子制御学研究室を主宰しています。現在の研究テーマは、「がん分子標的薬」を用いた基礎研究で、その作用を分子、細胞レベルで解析しています。二〇世紀までの「がん化学療法」は、「下手な鉄砲も数撃ちや当たる」的な治療法でした。そこに、二一世紀の夢の抗がん剤として登場したのが、「がん分子標的薬」です。これは、初めに「標的ありき薬剤」として開発され、がん細胞の特徴を狙い撃ちにし、錠剤を飲むだけで劇的な治療効果を生み出す、まさに「魔法の弾丸」です。ただ、結果的に「モグラたたきゲーム」の様な「叩いても、叩いても、がんが出現する」残念な結果となる場合もあることを忘れてはなりません。日本では二〇〇一年から（まさに二一世紀！）順次承認、保険適用され、二〇〇四年までは四種類の「がん分子標的薬」しか使えませんでした。二〇二一年には九〇種類を超えました。本稿では、私のこれまでの研究者人生を振り返りながら述べたいと思います。

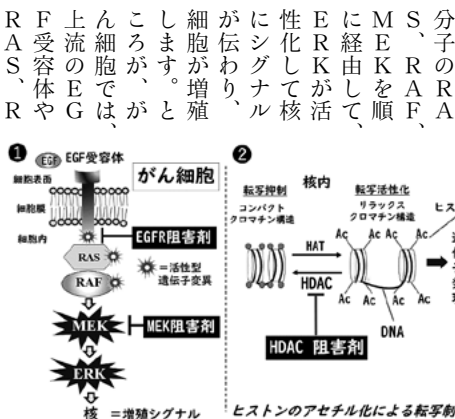
研究者としての心得～理想と現実～

研究者としての理想は、「若い時は五年ごとに新しいラボで修業をすることだ」と思っていました。これまでの経歴を振り返ると、京都大（学部生・大学院生）↓ジョンズホプキンス大（客員研究員）↓京都大（助手）↓長崎大（助教・准教授）↓大阪薬科大（教授）↓同志社女子大（教授）となります。学生時代から、京都産業大で独立された先輩のラボでHPLC分析したり、京都工繊大の専門の先生に幼虫に感染するウイルスでの実験を習ったり、大阪バイオサイエンス研究所で分子生物学実験を教えてもらったりしました。精華からペプチドホルモンを抽出するのに、京都の養豚場に行き、去勢時に豚の睾丸を頂いたこともあります。フットワークは軽かったです。大学院生の時には、ジョンズホプキンス大に留学させてもらい、向こうのラボで実験して論文を一報仕上げてこることが出来ました。さらに、スタンフォード大とハーバード大のラボからボストクのオフアワー頂き、京大助手をやめて武者修行しようと思いましたが、安定感を求めて長崎大の助教教授を選ぶことになりました。別の道を選択すれば、違った未来が広がっていたのかもしれない。しかしながら、

いわゆる「がん分子標的薬」とめぐり逢い、現在の研究チームの基礎を確立させたのが長崎大時代でした。

研究のブレイクスルー

長崎大では、当時の河野通明教授の下、細胞の増殖に重要な働きをするリン酸化酵素「ERK-MAPキナーゼ(ERK)」が、多くのがん細胞で恒常的に活性化している現象に注目しました。図①で、ERKシグナル経路を示します。正常細胞では細胞外から増殖シグナル(図ではEGF)がきた時に、細胞表面EGF受容



ヒストンのアセチル化による転写制御

AFの遺伝子が活性化型に変異し、これらの変異分子を起点として恒常的に活性化シグナルがERKへと伝達されてしまいます。その結果、がん細胞は、どんどん増殖してしまいます。そこで、上がった活性を下げるという対処療法で、図①に示すようにERK上流のMEKの活性を下げるMEK阻害剤という薬でERKの活性化を抑えようと、がん細胞の増殖が止まります。また、EGF受容体(EGFR)変異がんの場合には、EGFR阻害剤が使えます。一方、がん細胞を積極的に殺す「アポトーシス誘導」に関しては、図②に示すHDAC(ヒストン脱アセチル化酵素)阻害剤(ヒストンとDNAの立体構造に影響を与えて遺伝子の発現を制御する薬)という異なる作用をもつ薬を、MEK阻害剤やEGFR阻害剤に併用することで、劇的にアポトーシス誘導できることを発見しました。つまり、がん細胞をもっと効率よく殺せる方法、薬の新しい併用療法を見つけることが出来たのです。

そして、二〇〇〇年当初から、私が基礎研究で細胞実験に使っていたこれらの阻害剤が、現在は「がん分子標的薬」として広く臨床で使われるようになったのです。長崎大におけるこのような研究成果がもとになって、新しい「がん分子標

的薬」の開発や、既存薬を新たな別の疾患に応用する「ドラッグ・リポジショニング」にも取り組み、研究を進めることができる様になりました。

同志社女子大・薬学部でのこれから

大阪薬科大教授として関西に復帰した後、同志社に入社することが出来ました。私のモットーは「自他共栄」です。「がん分子標的薬」の最新情報を学生さんと共有しながら、自らもアップデートし、研究に、国試対策に、お互いを高めあえるように努力したいと思っています。薬剤師養成はもちろんですが、できれば製薬、化粧品メーカーの開発や研究職にもチャレンジできる人材をもっと輩出したいです。さらに、大学院生を少しでも増やし、女性研究者をより多く育成することで、「同志社の薬学部」としてのバリエーションを目指します。

おわりに

「金を残す人生は下策、事業を残す人生は中策、人を残す人生こそが上策なり」という、医師であり政治家でもあった後藤新平の言葉があります。人を育ててこそ、教育者です。将来、本学出身の薬学部教授が誕生してこそ、私のミッションが果たせたといえるでしょう。

技術経営的観点について



おおたはらじゅん
太田原 準

(大学商学部教授)

「商学部で「技術経営論」を担当しています。技術経営論とは、日進月歩で進化する技術を活用することでビジネスはどう変わるのかについての講義です。今回は、私の研究と授業のコアの一つである「技術経営的観点とは何か」についてお話ししたいと思います。

私のゼミでは毎年、卒論の研究テーマを決めるのに四苦八苦している人たちが頻出します。なぜ四苦八苦するかというと「観点」というものを設定するのがなかなか難しいからです。したがって、技術経営的観点とは何かという話を、卒論の研究テーマを決めるといふシチュエーションを念頭に説明していきたいと思えます。

ゼミ生がなぜ毎年テーマ選びに苦しいのかというと、研究テーマを決めるといふことが、研究対象を決めることだけではないからです。どのような観点からどのような方法で研究するかが良くわからないうと、学生の場合、どうしても「研究対象」だけを出してきます。例えば、次のようなメールです。

☒ 太田原..研究テーマは決まりましたか？進捗はいかがですか？

☒ 学生.. キャッシュユレスをやりたいところまでは決まっているのですが.....

学生はどうしても、自分の周辺で生じている身近な現象を研究テーマとしてあります。それは自然なことでも悪いことではありません。この人の場合にも、キャッシュユレスだけでなく、SNS、スポーツ、5G、YouTube、100均、地場逸品という「研究対象」が次々と列挙されてきました。でも「研究の観点」がありません。

☒ 太田原.. キャッシュユレスはいいけど、キャッシュユレスの何をやりたいわけ？

☒ 学生.. 皆で相談したんですが、「キャッシュユレス化市場での生き残り競争とその戦略」ということになりました。

これはなかなかよさそうですね。「キャッシュユレス」が「キャッシュユレス化市場での生き残り競争」となり、そこに「戦略」という語句が加わりました。「キャッシュユレス化市場での生き残り競争」というのは、「研究対象」の「範囲」を限定する語句となりますので「観点」では

ありませんが、研究対象を絞るという点で有意義です。

次に「戦略」という語句。これは「観点」となります。でもこちらもう少し絞って具体化した方が良いでしょう。戦略と言つてもいろいろあります。「全社戦略」「競争戦略」「人事戦略」等々。ここでは「生き残り競争」と言っているわけですから、「競争戦略」が合いそうですね。「どのように戦略を立てれば生き残れるのか」という問題意識がありそうです。「競争戦略」とは、業界において有利なポジションを得るために、他社とは異なった独自の戦略行動を選択し、自社のポジションを改善することです。

さて、「技術経営的観点」とは何かを示すといながら、話の流れでいつのまにか「競争戦略」の観点について論じてしまつたわけですが、「技術経営的観点」は、「競争戦略」の中にあります。すなわち、競争戦略が業界の中で有利なポジションを目指す道筋なのだとしたら、競争戦略における技術経営的観点とは、その道筋のなかに「イノベーションの可能性」を見出すことに他ならないのです。さらにもうならば、技術経営的観点とは、競争戦略だけでなく、経営管理やCSR

といったあらゆる活動を考えるときにイノベーションの可能性に焦点を当てて考えることに他ならないのです。

イノベーションという用語も定義が百花繚乱で困つたものですが、この用語の元祖であるシュンペーターの定義には、何らかの新しいさを備えているが、それは技術的な発明的なものでなくとも構わなしいというニュアンスがあります。すなわち「定義すべき特徴は単に新しいことをする、あるいは既にやられていることを新しい方法でする」といつています。「新しいものは劇的である必要も、歴史的に重要である必要もない」「それはベッセマー製鋼法でも内燃機関である必要もない。鹿の足でできたソーセージで十分である」と。私がハーバード大学で勉強している時には、「既存資源の配分を超えて何かをやるうとすること」という定義が最大公約数的なものでした。

いづれにしても、イノベーションは競争戦略においても、経済成長にとつてもますます重要になりつつあります。私は、一部のエリートがイノベーションを担い、残りの大多数が消費者としてイノベーションの恩恵に預かるという構図ではなく、普通の人が自分の仕事を通じてイノ

ベーションに参画することで達成感や幸福感を得られる「草の根イノベーション」が枯渇しないことを望んでいます。ノーベル経済学者のエドモンド・フェルプスは「かつてはわざわざイノベーションと呼ぶなくてもよかつた活動を、今の時代に再びおこなうことが大切だ」と論じましたが私も同感です。彼の研究によると、アメリカにおけるイノベーションの最盛期は現在ではなく、二〇世紀の中盤だつたと推定しています。

さて、キャッシュユレスの話に戻りましょう。ペイペイ、楽天ペイ、アマゾンペイなど電子決済サービス企業の競争は、新しいサービスをめぐる競争ですし、一見するとイノベーションであると考えてしまいがちですが、そこに他社との差別化を可能とするようなイノベーションを見出すことはできるかという点に甚だ怪しいですね。キャッシュユレス決済のような多くの人々が利用するサービスだからこそ、草の根イノベーションが出てくることに期待したいと思います。

社会とつながる大切さ ～多様な視点を教室に～



いでのりこ
井出 教子

(中学校・高等学校社会科教諭)

答えのない問いを考える

二〇一四年から、高校三年生の必修「政治・経済」と、選択「現代社会研究」の授業を担当しています。前者は講義、後者は生徒の探究活動を軸に授業を展開していますが、どちらの授業も現代における多様な社会問題を扱う点は共通しています。

授業では、安楽死、少年法の厳罰化、夫婦別姓、出生前診断の是非など現代社会で賛否の分かれているテーマについて生徒自身の意見を尋ねることを大事にしてきました。時間をとって調べ考えた後に、ディベートやプレゼンテーションのような形で意見を述べてもらうこともあれば、一コマの授業で最後の十分程度を使つて同級生と意見を交換してもらうこともあります。こういつた活動を繰り返すことで、生徒には自分の考えを客観的な根拠をもつて述べる力を身につけると同時に、多角的な視野で物事を見る習慣をつけてほしいと思っています。

時おり、生徒の中から「正しい知識を持っていないから正しい判断ができない」と、意見を述べることを躊躇する声が上がることがあります。その根底には、「何事にも一つの正しい答えがある」という意識がある気がします。生徒がこういう感覚をもつてしまうのは、大人の責任もあるかもしれません。授業では、「世の

中には答えのない問題の方が多し、そういう問題はどうやって解決していくべきかを考えることの方が価値のあること」というメッセージを積極的に伝えるようにしています。

多様な視点を教室に

授業をする中で、経済や安全保障、社会的弱者や貧困の問題など、いくつかのテーマに関しては、多くの生徒が画一的な意見を述べるにとどまり、教室内に多様な意見が現れにくいことに気づきました。主体的に自分の意見を述べているというより、「こうすべき」という規範意識に囚われた答えが多く出てくるのです。その理由として、こちらの授業展開の方法や提示した資料に問題がある場合もありますが、提示されたテーマが生徒にとって身近でなく、自分のこととして捉えにくかったり、当事者の苦難を想像しづらかったりするのだということがわかってきました。

そこで最近では、生徒が様々な社会問題の当事者や、その問題の解決に取り組む人たちと関わるができるような機会を授業の内外で提供するようにしています。受講する生徒全員に同じ体験してもらおうのはなかなか難しいので、対象となるのは一部の生徒になることもありますが、その経験から教室に多様な視点をもたらされ、議論が深まるきっかけが生

まれるのではないかと期待しています。
社会とつながる取り組み

【表】は、これまでに行ってきた取り組みの一部です。私自身が企画して参加を呼びかけたものもあれば、外部団体の企画を紹介して参加者が集まった例もあります。参加するかどうかは完全に生徒の自主性に任せており、成績とも関係がないので、彼らの目に魅力的な内容と映らなければ希望者が出ないこともありま。クラブに所属する生徒が多いので、活動は昼休みや放課後、または休暇中にお互いの空き時間を調整して行います。一度活動がスタートすると、私はコーディネート的な役割に回り、生徒たちが自主的に活動を進めていくことが多いです。

取り組みを始めた頃は、中東の難民問題がニュースで盛んに報じられていたこととあって、日本の難民・移民の受け入れにまつて興味を持つ生徒が多く、合計二十名ほどが京都に住むシリア人男性と難民支援に取り組んだり、滋賀県で働く外国人労働者を父母に持つ子どもたちへのインタビュを通じて、彼らが抱える問題について考えるなどしました。生徒が関心を持つテーマは、世界や日本の社会情勢の変化に敏感に反応して刻々と変化します。どんな企画をどのタイミングで提示するか、こちらのセンスも問われ

ます。

今年度は、「現代社会研究」の授業でも新しい取り組みを行っています。グループごとに自由にテーマを定め、同じクラブの受講者に向けて報道番組か新聞・雑誌を作成する、という内容です。その中で、必ずテーマに関わる企業・団体や専門家に取材をすることを求めました。フードロス問題、ペットの殺処分、「親ガチャ」という言葉が生まれた背景、若者の和菓子離れが京都の和菓子店に与える影響、「ブルーム」が再来する理由、オンライン授業の是非、など生徒の設定したテーマは多岐にわたっています。コロナの関係もあり、取材方法には制限が伴いますが、メディアに登場する専門家へSNSを通じてダイレクトメッセージを送ったり、Zoomを利用してインタビューするなど、高校生は様々なツールを使ひこなしで、工夫しながら取材を進めています。取材の経過報告を聞いていると、やはり当事者と直接話を聞いてみると、気づかされることは多い様です。事前に調べて予想していたのと異なる事実を発見したり、新しい視点に気が付いたときの生徒たちはすごくいい表情になって、こちらに説明する言葉にも力がこもるのが印象的です。

放課後や休日の活動を求めるこうした取り組みは、生徒の心と時間に余裕があったってこそ実現します。前校長の木村良

己先生は、「生徒の自由な時間を守る」とが大切」とよくおっしゃっていました。その「自由」は、生徒が主体的に学ぶためにこそ必要なものなのだと思感しています。

| テーマ | 内容 |
|------------------------|---|
| シリア難民問題を知ろう! | シリアを“知り”、“知ってもらう”ことをコンセプトに活動。紛争で破壊された学校を再建するために、現地団体と協力して支援に取り組んだ。 |
| 憲法改正は必要か? | 憲法九条改正の是非について、護憲派・改憲派の国会議員や大学教授にインタビューを実施。たどり着いた結論を京都弁護士会主催の「憲法と人権を考えるつどい」で発表した。 |
| ソーシャルビジネスって何? | 寺町三条にある(株)Mother Houseの店舗を訪問し、ビジネスを通じた社会貢献について学んだ。 |
| 福祉施設を訪問しよう! | 障がいを持つ人に働く場を提供する社会福祉法人だいが学園を訪問し、職業体験やインタビューを行った。 |
| 高校生が考えるClimate Justice | 地球研主催の学習会で地球環境問題について知り、解決のためにできることを3カ月間にわたって考えた。京都市主催のイベント「地球環境の殿堂」でのパネルディスカッションに高校生代表として登壇した。 |
| 今大切にしたいのはどんな企業? | コロナ禍で経済の停滞が懸念される今、私たちの生活を本当の意味で豊かにしてくれる商品・サービスを提供してくれるのはどんな企業かを考え、結果を基にポートフォリオを組んで日経ストックリーグに参加した。 |

ヘイト・スピーチに どのように対処するのか



ひがき しんじ
檜垣 伸次

(大学法学部法律学科教授)

一 ヘイト・スピーチの何が問題なのか

近年、外国人を非常に汚い言葉で罵ったり、その排斥を訴えたりするようなデモ活動がしばしばみられるようになってきました。私はこれまで、このような表現活動―ヘイト・スピーチと呼ばれるもの―の規制に関する問題について研究してきました。ヘイト・スピーチは、日本だけではなく、世界中の多くの国で問題となっています。

ヘイト・スピーチは、ある人の属性（人種、性別、性的指向、宗教など）に着目して、それらの人々に対する差別を煽動したりするものであり、通常の名誉毀損や侮辱よりも悪質なものであるといわれています。また、ヘイト・スピーチは時には暴動につながり、さらには虐殺に至ることもありうる問題です。そのため、ヘイト・スピーチは規制されるべきであると主張されてきました。しかし、日本国憲法は表現の自由を保障しており、国（公権力）が表現を規制することは、原則として許されません。表現の自由は民主主義を維持するために必要不可欠な権

利であり、ヘイト・スピーチを規制する必要性と表現の自由を保護する必要性との間のバランスをどのようにとるのかは、多くの国にとって非常に難しい問題であるといえます。

二 アメリカ型とヨーロッパ型

ヘイト・スピーチをめぐる「規制に積極的なヨーロッパ」と「規制に消極的なアメリカ」とがしばしば対比されています。ヨーロッパの多くの国では、何らかの形でヘイト・スピーチを規制しています。これに対し、アメリカでは、ヘイト・スピーチを規制する連邦法はありません。一部の州で規制を試みる例はありますが、アメリカではヘイト・スピーチだけではなく、表現の自由一般を非常に手厚く保障していることもあり、ヘイト・スピーチなどの過激な言論も基本的には保障されています。

三 日本のこれまでの対応

日本はこれまで、基本的にアメリカ型に近いアプローチをとってきており、ヘイト・スピーチそのものを規制する法律

はありませんでした。ヘイト・スピーチの一部については、名誉毀損罪（刑法二三〇条）や侮辱罪（刑法二三一条）が適用でき、また、ヘイト・スピーチにより権利または法律上保護される利益が侵害された場合には、不法行為として損害賠償を請求することができ、それが、それは不十分だともいわれてきました。

しかし、近年、ヘイト・スピーチが大きな社会問題となってきたことをうけて、これを規制する法律を作るべきであるといわれるようになってきました。そこで、二〇一六年には、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（「ヘイト・スピーチ解消法」と呼ばれています）」が制定されました。

四 「日本型ヘイト・スピーチ法」の可能性

ヘイト・スピーチ解消法は、ヘイト・スピーチは「許されない」としつつも、罰則を定めていません。これは、一方では、表現の自由の保障という観点から、うまくバランスをとろうとしたものと評価することができます。ヘイト・スピーチ

チの規制に消極的な主張の多くは、ヘイト・スピーチの定義が困難であることや、規制法が濫用されて正当な表現まで規制される危険性があることなどを理由にしています。そのため、規制を設けない「理念法」にしたことにより、表現の自由との衝突を回避することができたともいえます。他方で、罰則のない理念法では、ヘイト・スピーチを抑止することができないのではないかと、という指摘があります。この法律をどのように評価するのかわかりませんが、ここで注目したいのは、同法が、ヘイト・スピーチは許されないとする強いメッセージを発しており、また、国及び地方公共団体に、教育や啓発活動など、さらにメッセージを発することを求めている点です。このように、政府がメッセージを発したり、啓発や教育活動をしたりは、「規制」することなく、ヘイト・スピーチを減らす効果があると期待されています。このような

「非規制的手法」は、ヘイト・スピーチを規制する必要性と表現の自由を保護する必要性との間のバランスをうまくとることができるようであり、ヨーロッパ型とアメリカ型とも違う、第三の道になるのではないかと考えられます。このような「日本型ヘイト・スピーチ法」の可能性と限界を探っていくのが、私の研究テーマになります。（写真1）非規制的施策によつてヘイト・スピーチは許されないという社会規範を作つていき、そのうえで、それだけではどうしてもない悪質なものに限つて規制するというのがベストなやり方だと私は考えております。

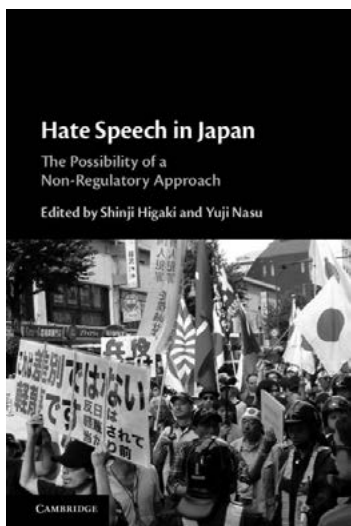


写真1: Shinji Higaki & Yuji Nasu eds., *Hate Speech in Japan: The Possibility of a Non-Regulatory Approach* (Cambridge University Press 2021)

物理化学の授業で 見せる実験例



えんどう たか つぐ
遠藤 太佳嗣

(大学理工学部機能分子・生命化学科准教授)

一．はじめに

私が所属している、理工学部の機能分子・生命化学科は、「化学」を学ぶ学科です。その中で私は、「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」という授業を担当しています。科目名に「物理」と入っているだけに、化学系の学生には、ややとっつきにくい内容のようです。そこで、少しでも学生の頭に授業の内容が残るよう、授業中に、授業の内容と関係した簡単な実験を時々見せています。これが学生からも好評のようでしたので、本稿ではそれをいくつか紹介したいと思います。なお、「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」は、化学熱力学と呼ばれる分野の内容であり、「物質はなぜ変化するのかを、エネルギーの視点から考える」が一つのテーマになっています。そのため以下に紹介する実験も、エネルギーに関係するものとなっています。

二．融ける氷は周囲を冷やす

あらゆる物質は固体から液体に変わるときに、周囲から熱を奪います。このときの奪った熱を融解熱と呼びます。この実験では、この融解熱の存在と大きさを学生に認識してもらうために行っています。用意するものは、同じ重さの熱湯(百

度)と水(ゼロ度)、そして温度計です。熱湯と水は、水筒に入れて教室に持っていきます。実験をする前に、「*iceberg*」と呼ばれる、同志社大学の教育用のオンラインツールを使って、学生に「同じ重さの熱湯(百度)と水(ゼロ度)を混ぜると何度になるか」というアンケートをとります。多くの学生は四十〜五十度と答えますが、実際に実験をしてみると、五度程度と、極めて冷たくなります。これは、水が水に融ける際、周囲から熱を奪うためであり、理論的な計算ともほぼ一致します。

実験の後は、「ホットコーヒーからアイスコーヒーを作る際、ホットコーヒーとおおよそ同体積の水を入れれば十分」という余談も付け加えたりしています。

三．力で燃やす

断熱材などを使って、周囲に熱が逃げない容器の中に気体を閉じ込めて、その気体を何らかの方法で圧縮します(断熱圧縮)。すると、圧縮に使った力が熱に変換され、気体の温度が上昇します。実験では、直径1cm、長さ10cmほどの、片側が閉じた筒(シリンダー)と、その筒の可動式のフタ(ピストン)を使い、(図一)。シリンダーにピストンをセットし、その後ピストンを急激に押し込んで

気体の温度を上昇させます。この実験でも、直前に「class」で学生にアンケートを取り、成人男性（筆者）の力で、シリンダーの中の温度はどれだけ上がるかを予測させます。十く百度程度温度が上昇すると回答する学生が多いですが、理論上はなんと、最大五千度くらいまで上昇します。ただ、実験上は、気体を完全に断熱することは出来ず、おそらく数百程度の上昇だと思えます。実演する際は、シリンダーの中の温度を直接測定するのは難しいので、代わりに綿を入れておきます。綿の発火点は四百程度であり、この綿がシリンダー内で一瞬で燃え尽きることで、その証明としています。

ちなみに、この断熱圧縮という現象は、地球上では、例えば、隕石の落下時に起こっていると言われています。地表まで



図一、断熱圧縮の実験で使うシリンダー（左）とピストン（右）

届く隕石の数が、年間数個程度ですんでいるのは、隕石が大気圏に突入した後、隕石が大気を圧縮する際に起きる断熱圧縮によって、自身が燃え尽きてしまうためだと考えられています。

四、熱で動かす

断熱圧縮の実験では、力を熱に変えましたが、当然その逆、つまり、熱を力に変えることもできます。その実例が、エンジン（熱機関）です。実験で見せるのは、スターリングエンジンの一種です（図二）。詳細な原理は割愛しますが、イメージとしては、装置下方に気体が入った空間があり、その底部が温められると、気体が膨張します。膨張した気体は、その後、



図二、スターリングエンジン

空間の天井部で冷やされ圧縮されます。この気体の膨張と圧縮の運動が、車輪に伝わり、車輪がくるくると回る仕組みになっています。学生にはまず、装置底部を温めずに車輪を回して見せず、すると、空気などとの摩擦によって、車輪は十秒程度で停止します。一方、熱湯の入った水筒の上にエンジンを置き、その状態で車輪を回すと、先ほど述べた膨張と圧縮を繰り返すことによって、数十分間車輪が回り続けます。車輪が「シャツ、シャツ」と回る音を聞きながら（聞かせながら）、このエンジンで起きている熱や力のエネルギー変化について話をするのは、なかなか心地がよいものです。

五、終わりに

以上、エネルギーというキーワードに絞って、授業で見せている実験をいくつか紹介させていただきました。この他にも、まだいくつかの実験はありますが、毎回授業で見せるほどは、実験が揃っておらず、簡単に安全で授業に関係した実験を、合間を見て、考え、探しています。何か良いアイデアをお持ちの方がおられましたら、筆者まで教えていただければ幸いです。

ボランティア奨励 コンテスト

女子大学ボランティア活動支援センター

女子大学において二〇二〇年度より実施している標記コンテストをご紹介します。ボランティアには、よりよい社会をつくる「創造性・開拓性・先駆性」という性格があるといわれています。少子高齢化や多様化に伴い社会が変容する中、型にはまった活動ではなく、地域社会にある課題を取り上げ、その解決に向けてチームで知恵を出し合うことができます。必要となつてきます。

このようなことを主眼として準備を進めておりましたが、折しもコロナ禍に見舞われ、募集対象を「コロナ禍の状況でも地域社会での人とのつながりを工夫の上、活動を展開するボランティア」へと軌道修正を余儀なくされました。厳しい現実にはありませんが、エンタリーした団体（画像・表参照）は、コロナ禍のピンチをチャンスに変えて創意工夫の上活動に取り組んだ様子を発表。二次審査では

最優秀賞を目指し一步も引かず譲らずの熱気に包まれましたが、結果発表・表彰の後にはあたたかい励まし合いの場となりました。参加学生たちは「他学部の先生にアドバイスをいただく機会ができて、活動がさらに良いものになった」「情報を発信することによってさらに仲間が増えたり、つながりの輪が広がったりする。楽しく発信していきたい」と自分の考えのみに閉ざされない視野の広がりを感じられました。

当コンテストを通じて、女子大学の「Vision10」にも掲げました「共感と共助の精神を持った女性の視点から社会を見つめ直し、考え、変えていく」女性、「自由かつ主体的に他者への愛を實踐できる女性、社会において『地の塩、世の光』となりうる女性がリーダーシップを発揮して社会を改良する」人物が育まれることを願っています。

2021年度参加 2団体



食品ロス・貧困をなくすための活動

げんき推進プロジェクト(高齢者とのオンライン交流)

2020年度参加 4団体
HPでレシピ・保育園の子どもたちにクリスマス動画配信
マスプレゼン特を贈ろう
低年齢予防のため
げんき推進プロジェクト(高齢者とのオンライン交流)

香里中学校・高等学校 教諭 横山真吾 よこやましんご

○保健の授業にて

「絶対におもんない」

ある種目を授業で紹介したときに、とある生徒が発した一言です。その後、その種目を実践しました。すると発言をした彼はかなり楽しんで授業を受けました。「めっちゃ面白かったです。またやりましょう。」とわざわざ報告にくる程でした。彼を夢中にさせた種目、それが今回ご紹介する「モルック」です。

○「モルック」という種目について

モルックはフィンランド発祥のスポーツで、老若男女問わず気軽に楽しめるのが特徴です。簡単にルールを説明します。モルック(※1)と呼ばれる円柱型の木の棒をスキットル(※2)と呼ばれる木の製のピンを目掛けて投げる、いわばボーリングのような種目です。



※1 モルック



※2 スキットル

スキットルは全部で十二本あり、それぞれのスキットルに1〜12の数字が書かれています。スキットルが一本だけ倒れた場合は、そのスキットルに書かれている数字が点数に加算され、二本以上倒れた場合は倒れた本数が点数として加算されます。最終的に五〇点

ように点数が達したチームの勝利で、自分の狙った位置に投げられる器用さや、いかに早く五〇点を獲得するための駆け引きなど、高い戦略性が求められます。

○実践を通して

実践を通して、運動が得意な生徒も、苦手な生徒もどちらも楽しんでいのが印象的でした。普段、積極的に体育に参加しないような生徒が喜んでプレーする様子も見受けられました。多くの生徒に「生涯にわたって運動に親しめる資質」を養うためにも、運動が「楽しい」と思える経験をさせることが不可欠です。これからも体力の向上を図りながらも、運動が苦手だと感じる生徒でも楽しめるような内容をビックアップしていきたいと考えています。

夏季校内語学研修

社
志
同
十
ウ

よねざわとしふさ
米澤利聡
女子中学校・高等学校教諭

新型コロナウイルス感染症の状況により、例年本校で夏に行っているイギリス語学研修（高校生）及びオーストラリア語学研修（中学生）は実施できませんでした。何か英語や異文化に親しむプログラムができないかと模索し、夏休みに校内で英語研修を実施しました。

高校生対象エンパワーメントプログラム

二〇二一年七月二十六日から二十九日までの四日間、高校生を対象にして株式会社アイエスエイとエンパワーメントプログラムを行いました。エンパワーメントプログラムとは現在私たちが抱える様々な社会問題について英語で思考を深めていくプログラムです。高校生全学年に対して募集を行い、参加者は三八名でした。参加者は五人から六人のグループに分かれ、各グループに日本の大学や大学院で学んでいる留学生が議論のファ

シリテーターとして参加しました。少人数のグループだったので生徒は間違いを恐れずに会話をすることができ、他の学年の生徒からもお互いに刺激を受けているようでした。特に本校は女子校ということもありジェンダーをテーマにして様々な問題について考え、最後は生徒一人一人が全員の前で各自のテーマについて発表を行いました。英語を用いた活動に取り組み、英語だけでなく世界の状況にも関心を持つことができました。

中学生対象サマイングリッシュキャンプ

二〇二一年八月二日から四日まで、株式会社I S Sと中学生を対象に英語研修プログラムを実施しました。参加者は五一名でした。各クラス一〇人程度のグループに分かれ、ネイティブの先生による授業を朝九時から午後四時まで行いました。各クラス、講師の先生によつて雰囲気は異なり、落ち着

いたクラスもあれば音楽が流れている陽気なクラスもありました。どのクラスでも生徒は普段とは違う友人と、ペア活動やグループワークを行い新しい刺激になったようです。中学生ということで海外旅行やレストランでのロールプレイなどを行いました。どちらも予想以上に盛り上がっていました。最後のプレゼンテーションに向けてグループで発表の準備をしたことが楽しかったと感想に書いている生徒がたくさんいて、語学のみだけでなく協同学習の場になったようです。



HR教室・特別教室への プロジェクト設置

国際中学・高等学校教頭 にしだ きくお 西田喜久夫

コロナ禍で、世の中の価値観も、その世の中を動かす道具も、大きな変化を遂げました。それは教育の分野でも同じです。文部科学省が進めていたGIGAスクール構想は、オンライン授業の必要性に迫られ、一気に全国の学校で導入が進みました。

同志社法人内の各校においては、すでに着実にその準備を進めている学校もありますが、本校はこの部分についてはむしろ後進の学校です。それは、今から二〇年以上前に当時としては日本で有数の最先端の施設「コミュニケーションセンター」ができていたことと、無関係ではありませぬ。二〇〇台以上のコンピュータを有し、それを駆使して実践される授業は、内容的にはGIGAスクールの求めている学びを二〇年前



1 コミュニケーションセンター



2 導入した固定式プロジェクタ

から行っていたことになりました。その学びをコミュニケーションセンターという特別な施設ではなく、それぞれの教室でできるような学びのあり方が必要になってきたとき、今回のコロナ禍がやってきました。

当初から計画していた全館Wi-Fi化を二〇二〇年に行い、各教室でネットワークを使えるようになりました。しかし、コロナ禍はネットワークの利用だけでなく、今まで多く行ってきたグループ学習に代わる学びのスタイルも求めました。その一つの形の実現

として、今回二〇二一年の夏休眼中に全教室にプロジェクトを導入しました。将来的な導入を前倒しする形でしました。同時に黒板もすべてホワイトボードに変更しました。

授業については今まで特定の教室でだけ実施できたネットを活用して投影する内容を、どの教室でもできるようにするなど、利便性と授業の幅が増えました。それ以上に、今回のプロジェクト導入によって実現した大きな点は「密を回避する」中での集会をオンライン同時配信できたことです。学年集会はもちろん、コロナ禍の中、音声だけで行ってきた毎朝の礼拝も、映像をつけて守ることができました。先日は生徒会選挙の立ち会い演説会を、政見放送のような形で実施しました。

今後もっと自由な形でのプロジェクトの使い方が考えられることと思います。

わたしたちのまち・ すてきなまち — 岩倉たんけん隊 — (3年生)

な が せ た く や か な や ま か お り す ず き し お り
小学校教諭 長瀬拓也・金山香織・鈴木志織

同志社小学校の魅力とは

社会科という教科に初めて出会う三年生は、まずは、学校の周りの「まち」について学びます。地域の小学校では自分たちの住む「まち」は皆同じですが、同志社小学校に通う子どもたちの住む「まち」はそれぞれ異なります。そこで、子どもたちが同志社小学校のある岩倉のまちを「自分たちのまち」として愛着をもつことができるよう、その第一歩として、まずは、全ての子どもたちにとっての共通の場所である「学校」の魅力を探すと、いう活動を「道草」の時間に行いました。「未来に残したい同志社小学校の魅力」をテーマに自分のお気に入りの場所を見つけ、一人ひとりがiPadで撮影しました。改めて見つめてみると、小学校には、すてきな場所がたくさんあることに気づきました。



屋上で「同志社小学校の魅力」を撮影する子どもたち



夏休みの個人研究で取り組んだ「自分たちが住むまちの魅力」



まち探検で岩倉川を観察する子どもたち

歩く、見る、ふれることで分かること
夏休みに入り、子どもたちは、個人研究として「自分たちが住むまちの魅力」を調べました。「伏見の地名と戦国大名の名前の関係」を調べた研究や、「白川をさかのぼる」と題して川の上流まで調べた研究、琵琶湖と自然に囲まれた大津市のよさをまとめた研究など、私たちにとても大変興味深く、思わず耳を傾けてしまう研究ばかりでした。

こうした活動と研究を生かして、新型コロナウイルスの感染も落ち着いたら秋、学校周辺の岩倉地区にまち探検に出かけました。岩倉地区の北方面には寺社をはじめ歴史的な文化財が多く残り、南方面には宝ヶ池を中心に豊かな自然が広がっています。活動を通して、子どもたちは「新しいものをふやしていくまちもあれば、古いものをのこしていくまちもある。そのまちのよさを見つけていきたい。」一人ひとりが手入れをして未来へつなぐことが大事だ。」といった気づきや感想をもつことができました。歩く、見る、ふれる、それは多くの時間がかかります。しかし、それは、子どもたちの疑問や気づきから始まる豊かな学びであり、本校が大切に行っている「道草」の時間なのです。

広島で平和を願う 子どもたち

国際学院初等部教諭 石川翼^{いしかわつばさ}

二年ぶりの泊まりを伴う修学旅行がDIAで開催されました。九月下旬に広島と熊本を予定していましたが、八月から九月にかけて全国で児童へのコロナウイルスの感染が拡大し、中止を余儀なくされました。十月に入り、ワクチンの効果が大きかったのか感染者数が減少したため、急遽広島のみで修学旅行を決行しました。子どもたちや保護者からは何とか実施してもらえないかという声をたくさんいただいた。いた経緯もあり、実施が決まったときの子どもたちの歓喜は忘れられません。私は二〇二〇年度も六年生を担当していましたが、そのときはアメリカへの修学旅行は到底考えられる状況ではなく、国内旅行でさえも断念しました。二度の延期、最終的に中止を伝えたときの子どもたちの落胆した顔がとても辛く、私の心に残っています。

二〇二一年度は一泊二日の広島への短い修学旅行となりましたが、今、コロナ禍で修学旅行に行けることが当たり前ではないということとを、子どもたち自身がしっかりと感じていた様子でした。今回の修学旅行では、ホロコースト記念館、原爆ドーム、平和記念資料館で戦争の悲惨さを、日本からだけでなく海外からの視点でも考えて当日を迎えました。平和記念資料館に入っても怖くはずと下を向いている児童、目に涙を浮かべる児童など、戦争を直視できない児童が見受けられました。戦争の恐ろしさをそれぞれに感じたのではないのでしょうか。

実は二〇二〇年度の六年生たちも広島への訪問を予定していたので千羽鶴を全員で折っていました。しかしそのときは日帰りの訪問ですら叶わなかったため、六年生を送る会で二〇二一年度の六年生に

千羽鶴を託して卒業しました。一羽ずつにメッセージが書かれており、今回の修学旅行では先輩たちの思いが詰まった鶴を届ける役目も担いました。

子どもたちが今回の修学旅行を経て何を感じ取り、そして近い将来、どんなアクションを起こしてくれるのか見届けたいと思います。



自分たちの千羽鶴と託された千羽鶴をささげる児童たち

お知らせ

新型コロナウイルス感染症に伴う 在学生支援募金についてのお願い

平素から学校法人同志社へのご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界中で多くの人々の生活が一変しました。学校法人同志社が設置する学校には、約4万2000名の学生、生徒、児童、園児が在籍していますが、政府の緊急事態宣言を受け、一時はすべての学校が休校等になり、教室で学ぶことができない状況を余儀なくされました。

各学校では、緊急対策本部を立ち上げるなど、地域や卒業生のお力添えのもとで、社員が英知を出し合い、インターネット学習環境の整備など、力を合わせて、学生、生徒、児童、園児に寄り添いながら、教育水準、教育環境の維持・向上のために努力を続けています。

ワクチンブスター接種や服用薬の開発も進められていますが、繰り返される変異株の出現、感染予防と経済活動の両立で長期化するWithコロナ社会においては、学費支弁者への影響も大きく、就学をおきらめなければならぬ在学生が生じています。

そこで本法人としては、同志社教育を受けることを希望し入学した在学生が失意のうちに終わることがないように、窮地に立たされている在学生に対して、支援金を給付しております。

しかし、これらの取組を学費収入等で賄うことは難しいことから、「新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金」を開設し、卒業生、教職員のほか、広く社会の各方面からのご支援により多くの在学生が学び続けています。

つきましては、本募金事業の趣旨をご理解いただき、今後も引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人 同志社
総長・理事長 八田 英二



寄付金募集要項

【募金目的】 長期化する新型コロナウイルスの感染拡大により、学費の支弁に著しい支障の生じた在学生に対し、支援金を給付すること。

【募集期間】 2020年6月1日から2026年3月31日まで

【お申込金額】 個人 … 一口 1万円（一口未満のご寄付についても有難くお受けいたします）
法人／団体 … 一口 10万円

【学校指定について】

支援を必要とする在学生数（学生、生徒、児童、園児）は、学校によって異なるため、支援対象者は同志社が決定し、同志社在学生修学特別支援金として給付させていただきます。

ただし、ご寄付いただく際に特段のご希望がごありの場合は、寄付金の一部もしくは全額について、特定の学校をご指定いただくことができます（例：全額を同志社中高を指定。半分を同志社小学校、残りを同志社に一任。etc.）。なお、この場合に大学を指定された場合は「ALL DOSHISHA募金 特定寄付奨学金」として、女子大学を指定された場合は「サポーターズ募金 “ぶどうの樹” 経済的困窮学生に対する奨学金」として在学生に給付させていただきます。

【税制上の優遇】

学校法人同志社は、文部科学省より「税額控除対象法人」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、同志社へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。

さらに、お住まいの地域によっては、住民税の「税額控除」の対象になります。

詳細は、<https://bokin.doshisha.ed.jp/tax/index.html>を参照ください。

【お申込方法】

「学校法人同志社 募金のご案内」からご寄付いただけます。

<https://bokin.doshisha.ed.jp/fund/shien.html>

クレジットカード、口座振替、ネットバンキング、コンビニ支払い、金融機関窓口からの振込でのお申込みが可能です。

インターネットからのお申込みが困難な場合やご不明な点がある場合は、下記にお問い合わせください。



お問い合わせ：法人部法人事務室

京都市上京区今出川通丸東入

TEL：075-251-3006 FAX：075-251-4980 E-mail：ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

<https://www.doshisha.ed.jp/>

お知らせ

ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を、資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

同志社ギャラリーでは新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社ギャラリーHPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で開館状況を変更することがございます。来館前に同志社ギャラリーHPでご確認ください。

【常設展】 ギャラリー内には6つの常設展示室が設けられています。1階には「新島襄の人と思想」、「同志社のあゆみ」、「世界の中の同志社」、「同志社の今」、2階には「J.N.ハリスと同志社」、「京都の中の同志社」と、部屋ごとにテーマがあり、創立以来の歴史と共に、京都や世界と共に歩んできた同志社の足跡をたどることができます。（2カ月に1回程度の展示替え有）

【企画展】 第25回企画展

タイトル：書におぼえあり—先人の書跡、同志社の足跡—

期 間：2022年4月5日（火）～6月5日（日）

場 所：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室（今出川キャンパス）

主 催：同志社大学同志社社史資料センター

【入場料】 無料

【開館時間】 10:00～17:00（最終入館16:30まで）

【閉館日】 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、ゴールデンウィーク、夏期休暇中の一定期間、年末年始。

※開館日等を変更する場合があります。お越しになる前にホームページ等でご確認ください。

【場 所】 同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）

ホームページ： <https://harris.doshisha.ac.jp/>

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail： ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

お知らせ

新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

新島旧邸では新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社社史資料センター新島旧邸HPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で公開状況を変更することがございます。来館前に同志社社史資料センターHPをご確認ください。

- 【公開期間】
- ①通常公開 2022年4月1日～7月31日、9月1日～11月29日、2023年3月2日～30日
毎週火・木・土曜日（祝日は除く、2022年4月29日～5月5日は閉館）
 - ②特別公開 2022年4月1日～5日（春の特別公開）
7月31日、8月7日（オープンキャンパス・予定）
10月1日～5日（秋の特別公開）
11月13日（ホームカミングデー・予定）
11月29日（創立記念日）
2023年3月20日～22日（卒業式）

※公開日の詳細はHPをご覧ください。<https://archives.doshisha.ac.jp/>

【公開時間】 10:00～16:00（入館受付は15:30まで）

- 【見学対象】
- ①通常公開 旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。
 - ②特別公開 旧邸周囲および建物内部（母屋1階と付属屋）に入場できます。
※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入場料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10:00～16:30）。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail：n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

スタークウェザーと山本覚馬 —創設期における新島襄の同志たち—

1876年、同志社女子大学の前身である女子塾が創設されました。これは新島襄とその協力者たちの努力の賜物でした。今回の企画展では、特に、宣教師アリス・J・スタークウェザーと新島夫人八重の兄であった山本覚馬に焦点を当て、近代都市として復活を遂げた明治期の京都の様子とともに紹介します。2021年はスタークウェザーが没してちょうど100年という節目の年にあたります。この展示が同志社女子教育の原点を振り返る機会となれば幸いです。

期 間：2021年11月19日(金)～2022年7月29日(金)

時 間：10:00～16:00

閉室日：土・日・祝日および2022年5月2日

(ただし、2022年7月18日は開室して
おります)

場 所：同志社女子大学史料センター
(今出川キャンパスジエームズ館
1階展示室)

主 催：同志社女子大学

同志社女子大学史料センター 第25回企画展

スタークウェザーと山本覚馬 ～創設期における新島襄の同志たち～

2021年11月19日(金)～
2022年7月29日(金)
10:00～16:00

【期間】 土・日・祝日
2022年5月2日(土) 2022年7月18日(日) 開室して
おります。2022年7月18日は開室して
おります。

同志社女子大学史料センター
今出川キャンパスジエームズ館1階展示室

【お問い合わせ・申込先】
同志社女子大学史料センター
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
TEL: 075-251-4200 FAX: 075-251-4201
E-mail: shiryo-ig@wc.doshisha.ac.jp

公開講演会
「スタークウェザー元年のエピソード」
■ 本井 康博氏 〇同志社大学中野キャンパス
■ 2021年12月11日(土) 14時～15時
■ 開室キャンパス
今出川キャンパスジエームズ館J207

【特別公開】
同志社女子大学史料センターが所蔵するアリス・J・スタークウェザーの日記を公開し、その内容から、
〇1876年 〇1877年 〇1878年 〇1879年 〇1880年 〇1881年 〇1882年 〇1883年 〇1884年 〇1885年 〇1886年 〇1887年 〇1888年 〇1889年 〇1890年 〇1891年 〇1892年 〇1893年 〇1894年 〇1895年 〇1896年 〇1897年 〇1898年 〇1899年 〇1900年 〇1901年 〇1902年 〇1903年 〇1904年 〇1905年 〇1906年 〇1907年 〇1908年 〇1909年 〇1910年 〇1911年 〇1912年 〇1913年 〇1914年 〇1915年 〇1916年 〇1917年 〇1918年 〇1919年 〇1920年 〇1921年 〇1922年 〇1923年 〇1924年 〇1925年 〇1926年 〇1927年 〇1928年 〇1929年 〇1930年 〇1931年 〇1932年 〇1933年 〇1934年 〇1935年 〇1936年 〇1937年 〇1938年 〇1939年 〇1940年 〇1941年 〇1942年 〇1943年 〇1944年 〇1945年 〇1946年 〇1947年 〇1948年 〇1949年 〇1950年 〇1951年 〇1952年 〇1953年 〇1954年 〇1955年 〇1956年 〇1957年 〇1958年 〇1959年 〇1960年 〇1961年 〇1962年 〇1963年 〇1964年 〇1965年 〇1966年 〇1967年 〇1968年 〇1969年 〇1970年 〇1971年 〇1972年 〇1973年 〇1974年 〇1975年 〇1976年 〇1977年 〇1978年 〇1979年 〇1980年 〇1981年 〇1982年 〇1983年 〇1984年 〇1985年 〇1986年 〇1987年 〇1988年 〇1989年 〇1990年 〇1991年 〇1992年 〇1993年 〇1994年 〇1995年 〇1996年 〇1997年 〇1998年 〇1999年 〇2000年 〇2001年 〇2002年 〇2003年 〇2004年 〇2005年 〇2006年 〇2007年 〇2008年 〇2009年 〇2010年 〇2011年 〇2012年 〇2013年 〇2014年 〇2015年 〇2016年 〇2017年 〇2018年 〇2019年 〇2020年 〇2021年 〇2022年 〇2023年 〇2024年 〇2025年 〇2026年 〇2027年 〇2028年 〇2029年 〇2030年 〇2031年 〇2032年 〇2033年 〇2034年 〇2035年 〇2036年 〇2037年 〇2038年 〇2039年 〇2040年 〇2041年 〇2042年 〇2043年 〇2044年 〇2045年 〇2046年 〇2047年 〇2048年 〇2049年 〇2050年 〇2051年 〇2052年 〇2053年 〇2054年 〇2055年 〇2056年 〇2057年 〇2058年 〇2059年 〇2060年 〇2061年 〇2062年 〇2063年 〇2064年 〇2065年 〇2066年 〇2067年 〇2068年 〇2069年 〇2070年 〇2071年 〇2072年 〇2073年 〇2074年 〇2075年 〇2076年 〇2077年 〇2078年 〇2079年 〇2080年 〇2081年 〇2082年 〇2083年 〇2084年 〇2085年 〇2086年 〇2087年 〇2088年 〇2089年 〇2090年 〇2091年 〇2092年 〇2093年 〇2094年 〇2095年 〇2096年 〇2097年 〇2098年 〇2099年 〇2100年



お問い合わせ：同志社女子大学史料センター
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
TEL: 075-251-4200 FAX: 075-251-4201
E-mail: shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

本号の特集では、同志社女子大学の学長就任を記念した特別対談において、一五〇周年に向けたビジョンが語られました。二〇二五年に一五〇周年を迎える同志社大学では多様性と多様なものをまもっていくインクルージョンを重要なキーワードにあげています。二〇二六年に一五〇周年を迎える同志社女子大学は、時代の変化と伝統の両輪で女子教育を「改良者」となりうる人材の育成としていることは大変興味深いものでした。性別による教育ではなく、一人一人を尊重した教育が行われることは、同志社大学および同志社女子大学において共通の姿勢であることが伺えました。

また、社会に浸透している女性の役割の概念を取り去ってリーダーシップやキャリア形成をとらえていく意見がありました。女子大学が実は無意識にある社会の固定概念を超えた教育をし得るという発想は共感を得るものではないでしょうか。

他方、コロナ下の環境によってキャンパスの改革が進んだことも

対談の中でみえてきました。中でも、学生たちと教員の間に「必要な雑談の時間」があることに言及があったとおり、対面授業において共有していた時間の重要性を再認識する方も多かったことと思います。さらに、共同研究が進んだことも特徴として上げられました。教員の共同研究による学内での波及効果も期待されるものです。

今後VISION2025に沿って様々なプログラムが推進されていきます。大学間の交流やそれを超えた積極的な交流によって、新たな学

対談の中でみえてきました。中でも、学生たちと教員の間に「必要な雑談の時間」があることに言及があったとおり、対面授業において共有していた時間の重要性を再認識する方も多かったことと思います。さらに、共同研究が進んだことも特徴として上げられました。教員の共同研究による学内での波及効果も期待されるものです。

今後VISION2025に沿って様々なプログラムが推進されていきます。大学間の交流やそれを超えた積極的な交流によって、新たな学

びの関係が生まれることを期待したいと思います。本号の特集は、長い歴史の中で培われたものと、時代の変容がうまく漕ぎ込まれて、これからの社会を創造する人材が育まれることが描かれていたと感じました。

本号は、多くの貴重な玉稿に支えられて読み応えのある冊子となりましたことに心よりお礼申し上げます。より多くの方の手に届きますことを願っております。誠にありがとうございました。

(服部)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・〇印委員長

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|--------------|------------------|------------------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|------|----|
| 大学神学部助教 | 木谷佳楠 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 |
| 大学文学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学社会学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学法学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学経済学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学商学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 〇大学政策学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学文化情報学部助教 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学理工学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学生命医科学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学スポーツ健康科学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学心理学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部助教 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学グローバル地域文化学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学学芸学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学現代社会学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学薬学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学看護学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学表象文化学部教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学生活科学部准教授 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 中学校・高等学校事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 香里中学校・高等学校事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子中学校・高等学校事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 国際中学校・高等学校事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 小学校事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 国際学院事務長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 幼稚園教諭 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 法人事務部長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学広報部長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 法人事務部校友同窓課長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 大学広報部広報課長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |
| 女子大学広報部広報室広報課長 | 山田徹 | 勝山教子 | 久保徳次郎 | 内野雅篤 | 深川大路 | 稲葉稔 | 眞包浩一郎 | 海老根直之 | 及川昌典 | REGINE DIETH | SUSANNA PAVLOSKA | 山本裕樹 | 大津正和 | 根木滋 | 片山由加里 | 中井精美 | 麻生伸一 | 内山栄行 | 磯田浩道 | 齋藤利恵 | 岡中望 | 柳井裕 | 朝田直 | 矢西覚 | 今西一郎 | 渡邊 | |

※職名は同志社広報委員会小委員会発足時のものです。

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料(ゆうメール着払い:1冊236円)のみのご負担でご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学広報課

同志社時報 第153号

編集人 服部篤子

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課同志社時報係

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社 I T P

2022年4月1日発行

切り取り線

しおりとして
ご使用ください。



切り取り線

◀『同志社時報』の新規購読をご希望の方は、左側のハガキをご利用ください。

お手数ですが
63円切手を
お貼りくだ
さい。

602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学広報課 同志社時報係 行

『同志社時報』新規購読申込書 ご記入日： 年 月 日

| | |
|---|---|
| お名前 | (ふりがな) |
| 〒 | 市・区 町・村 |
| お電話番号 | () - |
| いずれかに○をつけてください。 同志社大学 ・ 同志社女子大学 (学部 年卒業) 父母 ・ 一般 ・ 教職員 ・ その他 () | |
| 購読号数 について | ご記入日以降の発行号から _____ 号まで ◆『同志社時報』は、年に2回(4月、10月)発行しています。 ◆未記入の場合は、購読停止のご連絡があるまでお送りします。 |
| 送料(ゆうメール着払い：1冊236円)のみのご負担でご購読いただけます。 ※現金や切手等での前払いは承っておりませんのでご了承ください。 | |

切り取り線

ご提供いただきます個人情報は『同志社時報』の発送以外の目的には使用いたしません。
また、厳重なデータの管理を条件に発送業務を学外者に委託しています。

■ Doshisha college song Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

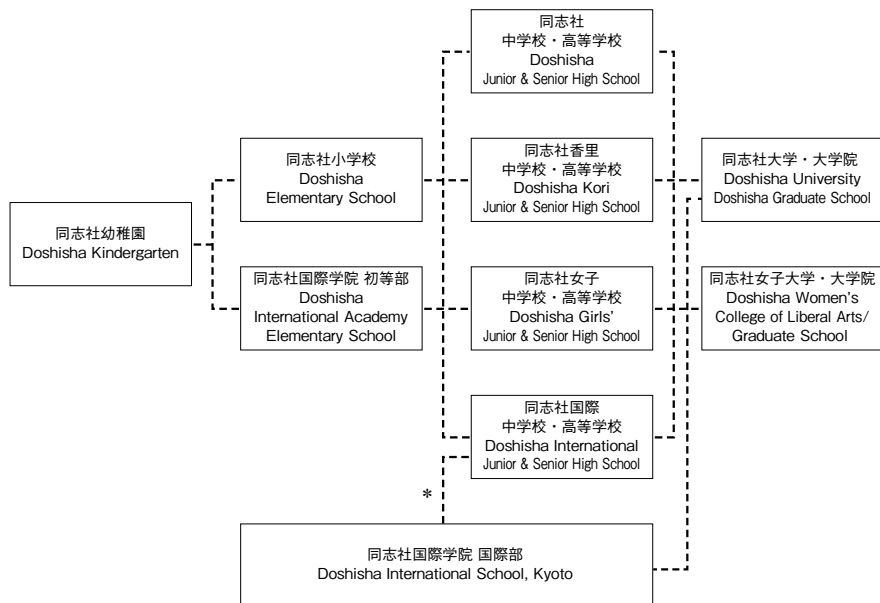
One purpose, Doshisha, thy name
 Doth signify; one lofty aim:
 To train thy sons in heart and hand
 To live for God and Native Land.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Shall be as branches to the vine;
 Tho' through the world
 we wander far and wide,
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
 その学徒の精神的、肉体的、
 神のため、祖国のため、生きんという
 一つの崇高な目的を。
 親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
 ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
 たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
 われらさまようと、汝の教訓は、
 われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)

■ 同志社の一貫教育体制

The Integrated Educational System of the Doshisha



*一定の条件があります (帰国生の要件)

